

和田岩坪遺跡

—和歌山平野農地防災事業 名草排水機場建設工事に伴う第2次発掘調査報告書—

2025年1月

公益財団法人和歌山県文化財センター



調査区全景（真上上空から：モザイク写真）上側が北



1区 調査区全景・木質遺物検出状況（北から）



1区 北壁土層断面 (南から)



調査地と周辺の状況 (南西から)



1 出土弥生土器



2 出土ミニチュア土器



3 出土石杵

序

和歌山市和田所在の和田岩坪遺跡は、和歌山平野南部を西流する和田川の流れによって形成された低湿なラグーン性低地から小丘陵に挟まれた浅い開析谷に位置しています。

和田岩坪遺跡の北東側には神前遺跡や井辺遺跡など、東側には和田遺跡や和田Ⅱ遺跡などの弥生時代から古墳時代にかけての集落遺跡が展開しています。遺跡の西側に位置する六丈山の山塊には和田古墳群が、北東に位置する福飯ヶ峯の山塊には井辺八幡山古墳を含む岩橋千塚古墳群井辺前山地区が所在しており、集落と墓域の解明が期待されるところです。また、和田岩坪遺跡の立地する和田川周辺には、県内でも著名な河南条里・和田川条里が広がり、古代から中世にかけての開発史の中でも注目される地域の一つに挙げられます。さらに、調査地の南側には式内社である籠山神社が鎮座しており、琴柱形石製品が出土した坂田遺跡が隣接して所在するといったことから、和田岩坪遺跡周辺には祭祀遺跡が存在していた可能性があります。

公益財団法人和歌山県文化財センターでは、令和4・5年度に和歌山平野農地防災事業名草排水機場建設工事に伴う和田岩坪遺跡第2次発掘調査を実施しました。ここでは、弥生時代から古墳時代に流れていた自然流路（川）を発見し、土器や木製品をはじめとする多量の出土遺物から、当時の人々の暮らしぶりをうかがうことができます。

令和6年度に出土遺物等整理業務を行い、このたびその成果をまとめることができましたので、発掘調査報告書として刊行する次第です。本書が県民の皆様のみならず、広く一般の活用に資することができれば幸いと存じます。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本書の作成にあたり、ご指導、ご助言をいただきました関係各位の方々、地元の方々に深く感謝申し上げます。

令和7年1月15日

公益財団法人和歌山県文化財センター
理事長 櫻井敏雄

例言

1. 本書は、和歌山県和歌山市和田に所在する和田岩坪遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は、和歌山平野農地防災事業 名草排水機場建設工事に伴うもので、発掘調査業務は令和4・5年度、出土遺物等整理業務は令和6年度に実施した。
3. 発掘調査及び出土遺物等整理業務は、近畿農政局の委託事業として和歌山県教育委員会(以下、「県教育委員会」という。)の指導のもと、公益財団法人和歌山県文化財センター(以下、「当センター」という。)が実施した。
4. 発掘調査業務及び出土遺物等整理業務に要した経費は、近畿農政局が負担した。
5. 現地調査業務に際し、各関係機関並びに近隣の方々から多大なご協力を得た。
6. 発掘調査業務及び出土遺物等整理業務の組織体制は以下のとおりである。

事務局	令和4年度	令和5年度	令和6年度
事務局長	平林 照浩	平林 照浩	森 敦久
管理課長	平林 照浩	平林 照浩	松尾 克人

埋蔵文化財課

埋蔵文化財課長	高橋 智也	高橋 智也	仲原 知之
発掘調査業務担当(主任)	仲原 知之	仲原 知之	
出土遺物等整理業務担当(技師)			石丸 彩

7. 遺構・遺物の写真撮影及び本書の編集・執筆は石丸・仲原が行なった。
8. 基本的に、調査区名、遺構名は発掘調査時のものを踏襲した。
9. 発掘調査及び出土遺物等整理業務で作成した実測図・写真・台帳等の記録資料は当センターが、出土遺物は県教育委員会が保管している。
10. 発掘調査業務及び出土遺物等整理業務に際し、下記の方々からご協力を得た。記して感謝を表します。

網伸也 小原正顕 狭川真一 佐々木歩 重木明彦 長友朋子 中西瑞花 中村浩道 西本和哉
富加見泰彦 松野茂富 山名裕介

凡例

1. 発掘調査及び出土遺物等整理業務は『財団法人和歌山県文化財センター発掘調査マニュアル(基礎編)』(2006.4)に準拠して行った。
2. 発掘調査及び本書で使用した座標値は、平面直角座標系(平成14年国土交通省告示第9号)第VI系、標高は東京湾平均海面(T.P.+)の数値であり、単位はmを使用している。方位は、座標北(G.N.)を用いた。
3. 土色は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人 日本色彩研究所色票監修 小山正忠・竹原秀雄 編・著『新版標準土色帖』(2018年版)を使用した。
4. 遺構・遺物の縮尺は、各挿図に明記した。また、遺構・遺物写真等の図版縮尺については任意であり、統一していない。
5. 調査で使用した調査コードは、22-01・302(2022年度-和歌山市・和田岩坪遺跡)で、記載資料はこのコードを用いて管理している。

本文目次

第1章 調査に至る経緯と経過	1
第1節 調査の契機と経過	(石丸) 1
第2節 発掘調査の経過	(仲原) 3
第3節 出土遺物等整理業務の経過	(石丸) 3
第2章 遺跡の位置と環境	5
第1節 位置と地理的環境	(石丸・仲原) 5
第2節 歴史的環境	(石丸・仲原) 5
第3節 既往の調査	(仲原) 7
第3章 調査方法	10
第1節 調査現場の記録作業等	(仲原) 10
第2節 出土遺物等資料の整理	(石丸) 11
第3節 調査区の設定	(仲原) 12
第4章 調査成果	14
第1節 調査区の基本層序と土層堆積	(仲原) 14
第2節 検出遺構	(仲原) 15
第3節 出土遺物	(石丸・仲原) 27
第5章 まとめ	(石丸) 73
出土遺物観察表	76
遺構一覧	106

挿図目次

図1 和田岩坪遺跡周辺地形図(縄文時代)	8	図15 遺構平面図	24
図2 和田岩坪遺跡周辺地形図(古墳時代)	8	図16 遺構断面図1	25
図3 和田岩坪遺跡と周辺の遺跡	9	図17 遺構断面図2	26
図4 調査位置と区画割	13	図18~32 出土遺物(弥生土器・土師器)実測図	32~46
図5 調査範囲と地区割	13	図33 出土遺物(ミニチュア土器)実測図	46
図6 和田岩坪遺跡 基本層序	15	図34 出土遺物(製塩土器)実測図	47
図7 調査区配置図全体図	16	図35 出土遺物(真蛸壺)実測図	48
図8 1区遺構全体図	17	図36 出土遺物(鳥形土器)実測図	48
図9 2区、3-1区・3-2区遺構全体図	18	図37~39 出土遺物(土錘)実測図	49~51
図10 1区・2区4層上面(中世)遺構面 遺構全体図	19	図40 出土遺物(中世)実測図	51
図11 調査区土層断面図1	20	図41 出土遺物(須恵器)実測図	52
図12 調査区土層断面図2	21	図42 出土遺物(石製品)実測図	53
図13 調査区土層断面図3	22	図43~61 出土遺物(木製品)実測図	54~72
図14 調査区土層断面図4	23		

第1章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査の契機と経過

排水機場及び排水路は、和田川流域（和歌山市）や貴志川流域（紀の川市）などの各小河川流域の大雨などによる湛水被害から農地を守り、地域農業の発展のため建設され機能している。和歌山市和田に位置する旧名草排水機場は、平成元年度～3年度にかけて建設され、隣接する名草川から和田川への排水機能を担っていた。和田川流域には、名草排水機場の他、上流側に岡崎排水機場、米田排水機場が、排水路として名草排水路、米田排水路、中溝安原支線水路などが機能しており、近年の流域内の宅地開発などによる排水流出量の増加により、降雨時には排水能力が不足し、農地等の湛水被害が生じている。このため、排水機場及び排水路の改修・新設を行い、湛水被害を未然に防止、または軽減する目的で農業生産の維持及び農業経営の円滑化を進めている。

このような役目を担って近畿農政局和歌山平野農地防災事業所では、和歌山平野農地防災事業の一環として、今回、この名草排水機場施設の老朽化と排水能力の向上を目的として、現有の施設の東側隣接地に新排水機場を建設する名草排水機場建設工事が計画されたが、その事業予定地の一部が埋蔵文化財包蔵地「和田岩坪遺跡」内に位置するため、平成29年8月21日付け29近和第226号で近畿農政局和歌山平野農地防災事業所長により、和歌山県教育委員会へ文化財保護法第94条第1項の規定に基づく通知がおこなわれ、これに対し、平成29年9月4日付け文第04050002号の(58)で確認調査を必要とする旨の通知を和歌山県教育委員会が行った。その後、新排水機場建設部分において平成29・30年度に和歌山県教育庁文化遺産課（以下、「県文化遺産課」という。）による確認調査の結果、事業予定地について記録保存目的の本発掘調査が必要と判断された。そこで、和歌山県教育委員会の指導のもと、平成30年度に公益財団法人和歌山県文化財センター（以下、「当センター」という。）が「平成30年度 和歌山平野農地防災事業 名草排水機場建設工事に伴う和田岩坪遺跡発掘調査委託業務」として近畿農政局より受託し、記録保存目的の第1次調査を実施した。第1次調査では、弥生時代前期の自然流路や弥生時代後期末から古墳時代前期の自然流路、鎌倉時代の区画溝・土坑などが確認された。また、各遺構などから弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、土錘、製塩土器などが出土した。発掘調査終了後、平成31年度に和歌山県教育委員会の指導のもと、当センターが「平成31年度 和歌山平野農地防災事業 名草排水機場建設工事に伴う和田岩坪遺跡出土遺物等整理業務」として近畿農政局より受託し、出土遺物等整理業務を実施し、令和2年2月28日に『和田岩坪遺跡一和歌山平野農地防災事業 名草排水機場建設工事に伴う発掘調査報告書一』を刊行した。

第1次調査終了後、新排水機場本體建設が進められ、工程上、未着手であった仮設管部分の工事着手時期の見通しが立ったため、令和3年度に工事計画について和歌山平野農地防災事業所と県文化遺産課が協議をおこなった結果、令和3年10月14日付け3近和第515号で和歌山平野農地防災事業所長から県文化遺産課に確認調査の依頼があり、令和3年10月20日付け文第04260002号の11で県文化遺産課が受諾し、令和3年11月20日に仮設管部分において確認調査が実施された（9.6㎡）。確認調査の結果、遺物包含層及び遺構面が確認され、第1次調査で検出された自然流路の埋土の可能性が高く、記録保存目的の本発掘調査が必要であると判断された。

また、仮設管設置工事に引き続き施工される旧排水機場撤去工事により掘削がおこなわれる範囲のうち、新排水機場（第1次調査範囲）隣接箇所においても埋蔵文化財が展開していると考えられることから同様に本発掘調査が必要であると判断された。令和4年4月7日付け4近和第26号で和歌山平野農地防災事業所長から和歌山県教育委員会教育長に本発掘調査業務の依頼があり、令和4年4月7日付け文第04070012号で県文化遺産課長から当センターに第2次発掘調査業務の実施計画書提出依頼があった。そこで、令和4年4月20日付け和文セ第37号で受託事業の実施計画書を和歌山平野農地防災事業所長及び和歌山県教育委員会教育長に提出した。令和4年4月22日付け文第04070012号の2で和歌山県教育委員会教育長より和歌山平野農地防災事業所長に和田岩坪遺跡第2次発掘調査業務の契約締結依頼があり、令和4年5月16日付け4近振第532号で近畿農政局より当文化財センター理事長あてに契約締結の協議があり、令和4年5月16日付けで「令和4年度 和歌山平野農地防災事業 名草排水機場建設工事に伴う和田岩坪遺跡第2次発掘調査委託業務」の契約を締結した。令和4年5月19日付け和文セ第58号で当センターから和歌山県教育委員会に文化財保護法第92条第1項の規定による埋蔵文化財発掘調査の届出をおこない、令和4年5月27日付け文第05270006号で和歌山県教育委員会教育長より埋蔵文化財発掘調査の通知があった。

発掘調査のうち1区については、工事請負方式で実施し、「和歌山平野農地防災事業名草排水機場建設工事に伴う和田岩坪遺跡第2次発掘調査工事」としてヤスキ水道工事株式会社に再委託した。2区については、本体建設工事の一部として発掘調査を実施した。航空写真測量は1区・2区を合わせて「和歌山平野農地防災事業名草排水機場建設工事に伴う和田岩坪遺跡第2次発掘調査業務に係る航空写真測量委託業務」として有限会社ヤマニシに再委託して実施した。1区・2区の発掘調査工事は、令和4年7月21日から調査を開始し、令和4年11月10日に現地での調査を終了した。

発掘調査は当初、1・2区終了後に旧排水機場を解体した後、3区の調査を実施する予定であったが、解体工事に先立つ建物の調査でアスベストが含まれることが判明し、解体工事に時間を要することとなった。そのため近畿農政局、県文化遺産課、当センターによる協議の結果、3区の調査が当年度中に終了することが困難となり、翌年度に実施することとなった。また、1・2区の発掘調査で多量の遺物が出土したことから、翌年度以降の整理業務の軽減を図るため、出土遺物等整理業務のうち水洗作業を令和4年度に実施することとなった。そこで、令和5年1月12日付け4近和第562号で和歌山平野農地防災事業所長より和歌山県教育委員会教育長に契約変更の依頼があり、令和5年1月13日付け文第01130001号で県文化遺産課長より変更実施計画書の提出依頼があった。令和5年1月17日付け和文セ第270号で和歌山平野農地防災事業所長及び和歌山県教育委員会教育長に変更実施計画書を提出した。また、令和5年1月20日付け和文セ第276号で近畿農政局長に委託業務の計画変更承認を申請した。令和5年1月30日付け4近振第532号-4で近畿農政局長から当センター理事長に計画変更承認申請について適当と認められるため委託業務に関する契約（第1回変更）について協議があり、令和5年2月8日付で変更契約を締結した。

和田岩坪遺跡の3区の発掘調査については、新溝支線水路工事に伴う岩橋千塚古墳群寺内地区の発掘調査と合わせて契約することになり、県教育委員会より令和5年2月15日付け文第

02150004号で実施計画書提出の依頼があり、令和5年3月13日付け和文セ第342号でこれを提出した。その後、令和5年3月14日付け文第042150004号の2で当センターへ県教育委員会より和歌山平野農地防災事業所長と委託契約を締結するよう依頼があり、令和5年4月13日付けで和歌山平野農地防災事業所長と当センターとで「令和5年度和歌山平野農地防災事業新溝支線水路工事等に伴う埋蔵文化財発掘調査業務」の契約を締結した。3区の発掘調査は、本体建設工事の一部として実施し、航空写真測量は「和歌山平野農地防災事業新溝支線水路工事等に伴う和田岩坪遺跡第2次発掘調査業務に係る航空写真測量委託業務」として有限会社ヤマニシに再委託して実施した。3区は、一部を先行して調査したため3-1区と3-2区に分けて実施した。また、本業務の中で出土遺物等の整理を一部実施した。

第2節 発掘調査の経過

1区及び2区の発掘調査は、令和4年7月21日から開始した。調査対象地の遺構面は2面であり、その最終面において令和4年8月31日に1区、令和4年11月2日に2区の航空写真測量を実施した。調査記録作業終了後、令和4年11月10日に現地調査を終了した。

3区の発掘調査は、1区・2区の北西側で実施することとなったが、調査範囲の北端部での工事が先行することとなり、令和5年7月19日に3-1区として26.6㎡の調査を実施した。調査の結果、3-1区の範囲では遺構・遺物は確認できなかったため、写真撮影等をおこなって調査を終了した。残された範囲を3-2区として、令和5年8月21日から9月8日に発掘調査を実施した。調査の結果、遺構面は1面であったが、弥生時代後期末から中世の土坑や杭跡を検出することができた。記録保存として、遺構平面図及び土層断面図を作成した。

この他、普及活動として、令和4年9月3日(土)に現地説明会を実施し、本遺跡の調査内容及び出土遺物の説明等を行った。当日は好天に恵まれ、56名の参加者を得た。また、令和5年11月8日から12月7日に開催した「紀州のあゆみ(令和5年度和歌山県内文化財調査成果展)」において、出土した土器や石製品、土製品などを展示した。令和6年11月6日から12月2日に開催した「紀州のあゆみ(令和6年度和歌山県内文化財調査成果展)」においても保存処理が完了した木製品を展示した。

第3節 出土遺物等整理業務の経過

令和4年度に1区及び2区の発掘調査で出土した遺物はコンテナ(容量280箱)130箱で、令和5年度の3-2区の発掘調査ではコンテナ3箱分が追加となり、計133箱を対象に整理業務を実施した。出土遺物は、弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、陶器、木製品、石製品、土製品等がある。これらのうち、130箱については令和4年度中に応急整理として水洗作業を実施した。

令和5年度の整理業務は、3箱分の水洗作業と133箱分の遺物の注記、登録、接合・補強・復元作業、遺物実測(土器100点・石製品20点・木製品70点)、遺構実測図のデジタルトレースを実施した。木製品は水漬けの状態で出土し、乾燥すると腐朽してしまうため、保存処理が必要である。木製品のうち重要であると考えられる50点について、「和歌山平野農地防災事業新溝支線水路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査等業務に係る保存処理委託業務」として株式会社吉田生物研究所に再委託して高級アルコール法による保存処理を実施した。また、これ以外の木製品につ

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 位置と地理的環境

和歌山岩坪遺跡は、和歌山市和田小字岩坪に所在する遺跡で、現行の遺跡範囲は東西約150m、南北約330mに広がる。当遺跡が所在する和歌山市は、和歌山県の北西部に位置し、北は大阪府との府県境となる和泉山脈が東西に延びる。その麓には紀の川が西流し、和歌山市の西部で紀伊水道に注いでいる。紀の川北岸で中央構造線が東西に横断し、この断層によって北側の内帯と南側の外帯とに分けられる。内帯は、砂岩・泥岩の互層からなる和泉層群であり、当遺跡が位置している外帯は、結晶片岩を主体とする三波川変成帯で構成されている。和歌山岩坪遺跡は、和歌山市南東部の和田盆地の西側縁辺部にあり、和田盆地を西流する和田川と北流する名草川の合流点付近に位置する。当遺跡の北西側には和歌山平野が広がっている。当遺跡周辺は和田川により形成された低湿なラグーン性低地で、周囲の独立丘陵は地盤の沈降が生じる以前の山頂部である。また、和田盆地は縄文時代前期頃の縄文海進時に湾となっており、長期間入江であったと推測される(図1)。今回の調査地西隣の工事現場で、標高マイナス2.7m付近において内湾性の貝殻が多く見つかったことから、当遺跡周辺が内湾であった時期があったことが確認された(仲原2024, 図2)。今回の調査地は、遺跡範囲の北端に位置しており、調査地西側には、名草山(標高228.7m)の支脈の丈六山(別称「べつち山」「べトチャヤマ」、標高32.1m)がある。また、周辺一帯は河南条里(和田条里区)が良好に残り、小字名にも当時の地割名や坪名が残る。調査地周辺の現況は、宅地化が進むが遺跡の南側には水田や畑地が一面に広がっている。

第2節 歴史的環境

和歌山岩坪遺跡(図3-302)が所在する和歌山市域の紀の川南岸一帯には、国の特別史跡である岩橋千塚古墳群をはじめ、周辺の丘陵に多くの古墳群が所在する。また、丘陵麓部から平野部にかけて集落や古墳など多くの遺跡が展開している。以下、周辺の遺跡について概観する。

縄文時代 縄文時代には、低丘陵の裾部に貝塚が形成される。主な遺跡としては、綱宜貝塚、鳴神貝塚、吉礼貝塚、岡崎縄文遺跡(309)などが挙げられる。岡崎縄文遺跡では、縄文時代後期～晩期の土器や石鏃・石匙・磨製石器・石錘などが出土し、ハマグリを主とした貝層とその下にカキのみの貝層が確認されている。鳴神貝塚は近畿地方で初めて確認された貝塚で、昭和6年に国の史跡に指定され、縄文時代晩期の土壘墓からは抜歯された女性の伸展葬人骨が確認されている。井辺遺跡(308)では縄文時代晩期末の土器棺墓が検出されている。

弥生時代 弥生時代には前期から中期にかけて紀の川南岸の沖積平野部で多くの遺跡が展開する。主な遺跡は、JR和歌山駅東側に所在する太田・黒田遺跡をはじめ、秋月遺跡、井辺遺跡、神前遺跡(307)、和田遺跡(301)などがある。太田・黒田遺跡では、弥生時代前期から中期にかけて堅穴建物跡などが多数検出され、県内最大級の弥生時代の集落跡と考えられている。多量の弥生土器とともにシカや高床建物を線刻した絵画土器、遺跡東側の河川改修工事に伴い外縁付鈕式袈裟樽文銅鐸も出土している。神前遺跡では、弥生時代前期の堅穴建物跡や弥生時代前期から中期にかけての溝群が検出され、和田遺跡では、県内最古級の弥生時代前期中葉の土器群や弥生時代前期の井戸などが確認されている。井辺遺跡では弥生時代前期の井戸、弥生時代中期の水田、津秦

Ⅱ遺跡(407)でも弥生時代前期の土坑が検出されている。

一方、弥生時代中期後葉から後期前半にかけては、平野部での遺跡の展開が激減し、周辺部の丘陵部で滝ヶ峯遺跡や橘谷遺跡などの高地性集落が見られるようになる。菖蒲谷遺跡・千石山遺跡では弥生時代中期の方形台状墓が計6基確認されている。弥生時代後期後半になると、再び平野部で集落が見られるようになり、太田・黒田遺跡と和田岩坪遺跡の間には、秋月遺跡、津秦遺跡(332)、津秦Ⅱ遺跡(407)、井辺遺跡、神前遺跡、相方遺跡などが存在する。多くの遺跡では、弥生時代後期後半から終末期にかけて再び遺構・遺物が認められ、古墳時代前期に継続して集落が展開する。井辺遺跡では、遺跡範囲の北東側で弥生時代後期後半から古墳時代前期を主体とした多数の竪穴建物跡や墳丘墓(前方後方形1基・方形2基)が検出され、集落の間を縫うように西側中央位置で大量の土器・木製品が埋没した自然流路が検出され、水田や畑なども検出されている。また、弥生時代後期の井戸からは腰掛・木甲・鉢などの木製品が多数出土し、弥生時代後期の竪穴住居から銅鐸の可能性のある銅製品や水銀朱が付着した石杵・石皿が出土している。相方遺跡では弥生時代後期から古墳時代初頭の竪穴住居跡が検出されている。津秦Ⅱ遺跡では弥生時代後期末から古墳時代前期の水田及び灌漑水路が確認され、津秦遺跡でも同時期の灌漑水路群が検出されている。

古墳時代 古墳時代には、岩橋千塚古墳群(186～187)を始め、多くの古墳群が形成される。また、古墳時代の集落遺跡として音浦遺跡、鳴神Ⅱ遺跡、鳴神Ⅴ遺跡、大日山Ⅰ遺跡、秋月遺跡、井辺遺跡、神前遺跡、和田遺跡があり、和田岩坪遺跡の南側には坂田遺跡(435)が展開する。岩橋千塚古墳群は、岩橋山塊に築かれた古墳群で各支群を含めて総数は900基に及ぶものとされている。古墳の築造は4世紀後半から7世紀前半まで継続し、6世紀の主要な石室の構造は岩橋型石室とよばれる横穴式石室に石柵や石梁をもつものが見られる。和田岩坪遺跡の今回の調査地から北東側に約1.5kmには、岩橋千塚古墳群の一支群と位置付けられる井辺前山古墳群(186)が形成される。鳴神Ⅴ遺跡では竪穴建物跡や掘立柱建物跡の他、大規模な溝が検出され、音浦遺跡でも竪穴建物跡、掘立柱建物跡とともに大規模な溝が検出され、和歌山平野を灌漑する現在の宮井用水路に平行するように掘削されていることから宮井用水路の起源と考えられる。神前遺跡では古墳時代初頭から中期の溝群が確認され、当該期の銅鈴が出土している。井辺遺跡では、古墳時代後期の水路と水田、畑と考えられる畝状遺構及び土坑列が確認されている。また、古墳時代中期までに埋没した自然流路から完形土器群、木製品(建築部材、紡織具など)の他、小形丸底壺や手握ね土器、祭祀具と考えられる木製品(堅櫛、形代など)が出土している。和田遺跡では、古墳時代の掘立柱建物跡や井戸などが検出され、白玉や有孔円板などの滑石製模造品が出土している。大日山Ⅰ遺跡では、古墳時代中期の竪穴建物跡や区画溝、水路、水路肩部の石段・石敷が検出され、鳥形土器2点・土版・多数の滑石製模造品(有孔円板・杵形・勾玉・紡錘車など)が出土しており、祭祀遺跡であると推測されている。秋月遺跡では、遺跡の東半側で居住域が、西半側で墓域が確認され、県内最古の前方後円墳形低墳丘墓など前期から後期にかけて続く古墳群が確認されている。和田岩坪遺跡の今回の調査地から南側約500mには龜山神社が鎮座し、和歌山県唯一の陵墓(「彦五瀬命墓」とされる龜山神社古墳(305)が所在する。この龜山神社に隣接する北側には坂田遺跡が所在し、琴柱形石製品や有孔円板、勾玉などの滑石製品が出土している。坂田遺跡の北端部の調査では、古墳時代中期後半の古墳周溝が見つかり、円筒埴輪が多数出土している。

和田岩坪遺跡の調査地の西側に隣接する名草山の支脈の丈六山には、和田古墳群(303・304)が、南西側に約600m離れて坂田地蔵山古墳(306)が、南西側に約1.5km離れてアンドの鼻古墳(338)・三田古墳群(339～342)が形成されている。

古代 古代の遺跡としては、鳴神V遺跡、太田・黒田遺跡、薬勝寺廃寺が見られ、日前宮・国懸宮、竈山神社が創建される。鳴神V遺跡では、奈良時代から平安時代の官衙の存在を窺わせる円面硯や初期貿易陶磁器、緑釉陶器などが出土している。太田・黒田遺跡では奈良時代の井戸が検出され和銅開珎42枚、万年通寶4枚が出土している。和田遺跡では、奈良時代の木枠組井戸が確認されて、井辺遺跡では、平安時代の溝や耕作痕が検出されている。日前宮は紀伊国一宮として『延喜式神名帳』にその名が見られ、日前宮より南側一帯には、河南条里と呼ばれる条里型地割が良好に残り、地割方位はN-5°～6.5°-Wである。

中世 中世以降にも、太田・黒田遺跡、秋月遺跡、鳴神V遺跡、神前遺跡などで遺構や遺物が見られる。神前遺跡では、中世の掘立柱建物跡や溝、井戸、耕作痕などが検出されている。また、幅約7m以上の大溝が検出されており、現在の宮井用水路に重複するように掘削されていることから、宮井用水路(中溝水路)が整備された当時のものと考えられる。秋月遺跡では、瓦積みの井戸が検出されている。岩橋千塚古墳群寺内地区の南西部では、宮井新溝の前身と考えられる中世以降に埋没した東西方向の溝が検出された。寺内地区に隣接する相方遺跡では、鎌倉時代の掘立柱建物跡が確認されている。津秦II遺跡では中世の水田、井戸、土坑、耕作痕が確認され、井辺遺跡では中世の耕作痕が検出されている。

近世 近世には、和田周辺は和田村と呼ばれるようになり、宮組に所属する。神前遺跡では、屋敷地跡と考えられる区画溝や土坑、暗渠排水溝が検出されている。太田・黒田遺跡では、太田城の名残とされる石垣や、耕作地として利用されていたと考えられる動溝群が見られる。和田遺跡の西側には静火神社跡があり、初見は『延喜式神名帳』に見える。その後、文献史料に永仁年間に廃絶したとされているが、長享元年(1487)に静火神社の名が見られる。また、『南紀徳川史』に静火社旧地とみえ、享保8年(1723)までに廃絶したと推測される。

第3節 既往の調査

和田岩坪遺跡の調査例の端緒は、昭和31年の名草川改修時に田中敬忠氏による確認で、木枠井戸2基・弥生土器片・土鍾数十個・内湾性の貝殻多数・炭化した大木・落ち葉層などが見つかった(田中1979)。さらに今回の調査対象地の北東側隣接地(3-2区の東側)において、昭和56年(1981)に駐車場用地造成工事に伴い和歌山市教育委員会による小規模な調査が実施され、土器溜り・土坑・礎敷き遺構などが検出され、土師器・須恵器・小型丸底壺・ミニチュア土器・モモ種実・有孔土鍾などが出土している(和歌山市教委1981)。土層断面図から今回2区で調査した100自然流路の西側肩部の延長部分であった可能性がある。この他、遺跡範囲内において弥生時代前期～中期の遺物が採集されている(前田2007、大木2011)。

当センターが実施した平成30年度の第1次調査では、弥生時代前期の溝・土坑、弥生時代後期末～古墳時代前期の自然流路及びしがらみ状遺構、鎌倉時代の水溜りや土坑・柱穴・区画溝などの遺構が確認されている。また、弥生土器・土師器・須恵器・瓦器・陶磁器・製塩土器・土鍾・石製品・木製品・モモなどの種実などの遺物が出土している(県文化財センター2020)。

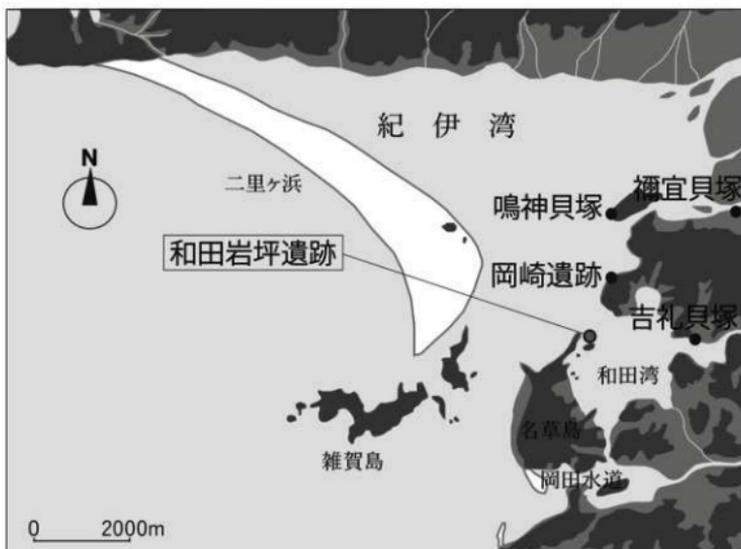


図1 和田岩坪遺跡周辺地形図（縄文時代）

（日下1979原図を基にした和歌山市立博物館1994の6頁右図を再トレース（一部加筆））

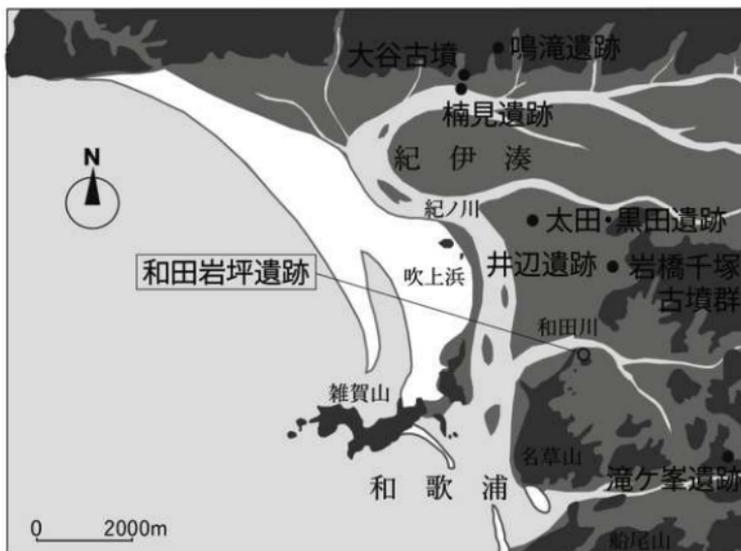


図2 和田岩坪遺跡周辺地形図（古墳時代）

（日下1979原図を基にした和歌山市立博物館1994の6頁左図を再トレース（一部加筆））



図3 和田岩坪遺跡と周辺の遺跡 (S=1/20,000、和歌山県埋蔵文化財包蔵地所在地図に一部加筆)

表2 和田岩坪遺跡と周辺の遺跡地名一覧 (和歌山県埋蔵文化財地名表に一部加筆)

遺跡番号	遺跡名	住所(町)	所在	種別	時代	立地	遺跡状況	備考
187	岩橋千原古墳群野辺前山地区	いわせせしつちのふもとに のりまき	寺内・井 辺、藤小寺 野	古墳群	古墳	山麓、丘 縁部		
186	岩橋千原古墳群井 辺前山地区	いわせせしつちのふもとに のりまき	井辺、福 崎、寺内、 神前、西、 藤小寺	古墳群	古墳	山麓	前方後円墳15基、円墳の基となる。	
188	森小手塚遺跡	もりこてのぼりせき	森小手塚	単体古墳	古墳	丘陵	須磨郡、土師郡、瓦22'	
301	和田遺跡	わたのせき	和田	単体古墳	弥生	神原地	弥生土器	
302	和田古墳遺跡	わたのこふんせき	和田	単体古墳	弥生～古墳	神原地	弥生土器、土師、須磨郡、土師郡	
303	和田古墳群	わたのこふん	和田	古墳群	古墳	丘陵	4基	
306	難波山古墳	なみのやまのこふん	和泉	単体古墳	古墳	丘陵	円墳	
307	坂田地原山古墳	さかちのせきやまのこふん	坂田	単体古墳	古墳	丘陵	円墳や横穴式石室、直刀、須磨郡	
307	神前遺跡	こひまへのせき	神前	散布地	弥生	神原地	弥生土器、石磨丁、鋳物車、石押、土師器	
308	井辺遺跡	いゝへのせき	井辺	散布地	弥生	神原地	弥生土器、土師器	
309	阿波國文遺跡	あまのこふんせき	井辺	散布地	弥生	山麓	阿波國文土器、石磨丁	
310	森小手塚埋蔵施設	もりこてのぼりせきのくわむら	森小手塚	埋蔵	古墳	山麓	4基(円墳、石室)	
312	井辺1遺跡	いゝへのぼりせき	井辺	散布地	弥生～古墳	丘陵	弥生土器、土師器	
332	藤原遺跡	つげのせき	藤原	散布地	弥生	神原地	弥生土器、ヤヌシ小	
338	アノの鼻古墳	あなのびせきのこふん	三葉	古墳	古墳	丘陵	長穴式石室、土師器(直)	
339	三田古墳群	さんだのこふん	三葉	古墳群	古墳	丘陵	4基	
342	井辺遺跡	いゝへのぼりせき	井辺	散布地	彌文	丘陵	4基	
383	神前遺跡	こひまへのせき	神前	散布地	古墳～彌生	神原地	土師器、須磨郡、土師、瓦器、陶器類	
407	藤原遺跡	つげのせき	藤原	散布地	弥生～鎌倉	神原地	水田・窯・土坑	
408	和田遺跡	わたのせき	和田	遺構?	弥生	丘陵	遺状構造、弥生土器	
435	坂田遺跡	さかちのせき	坂田	遺構跡	弥生、古墳、中 世	神原地	弥生土器、土師器、瓦質土器	

第3章 調査方法

第1節 調査現場の記録作業等

調査は、当センターの定めた『発掘調査マニュアル（基礎編）』（2006年4月）に準拠して作業を進めた。発掘調査で使用した調査コードは22-01・302（2022年度一和歌山市・和田岩坪遺跡）とした。出土遺物・記録資料は、この調査コードを用い整理・管理している。和田岩坪遺跡の調査に伴い、下記に示す記録作業等を行った。

1 調査の手順

発掘調査は、現代盛土・排水機場関連工事の埋戻土及び現代耕作土・床土を建設機械により掘削し、遺物包含層及び各遺構を人力により掘削した。遺構面は、1区・2区が2面、3-2区が1面あり、遺構面ごとに遺構検出を行い、遺構埋土の実測図作成・写真撮影後、各遺構を完掘して、全体平面図実測及び調査区土層断面図作成、全体写真撮影を実施した。

2 遺構番号及び出土遺物登録番号

遺構番号は、遺構種類にかかわらず001～の通し番号を使用した。遺構番号の後ろには必要に応じて遺構の性格を表す名称を付した（001土坑など）。

出土遺物については、中区画一小区画を取り上げの基本区画とし、各層位・各遺構別に取り上げた。また、それぞれ取り上げごとに遺物登録番号（1～）を通し番号で付した。なお、石製品などには1点ずつアルファベット+数字を用いた個別の登録番号を付している（石製品:S、木製品:W、杭:WS、鉄製品:M、土錘:CW、粘土塊:CL、土製品:C、タコ壺:OT、須恵器:SW、中世土器:MA、鳥形土器:BS、ミニチュア土器:MP、製塩土器:SP、骨:B、種:SE、昆虫:IN、貝殻:SH）。

3 実測図作成作業

記録図面は、縮尺=1:100の遺構全体図及び縮尺=1:20の遺構実測図（遺構平面図・遺物出土状況図・土層断面図）を作成した。

4 写真撮影作業

写真撮影については、記録用の35mmフルサイズデジタルカメラ及び中判デジタルカメラ、メモ記録用の35mmサイズデジタルカメラを使用し、デジタル画像データには全てファイルごとに内容を記載して保存している。一部、高所作業車からの撮影も行っている。

5 航空写真撮影

発掘調査により検出した遺構は、ドローンを使用した調査地全体の航空写真撮影及び航空写真測量による図化（縮尺=1:50及び1:100編纂図）を委託業務として実施した。航空写真は、垂直全体写真・垂直部分写真・周辺部を含む斜め写真を撮影した。

6 基準点

調査時の遺構図面作成や遺物取り上げなどに使用する基準点は、前回調査時及び排水機場本体工事時の4級基準点を使用した。標高（東京湾平均潮位（T.P.））についてもこの基準点を使用した。なお、この基準点は国土座標平面直角座標系（世界測地系）第VI系により既設の公共基準点を利用して設置されたものである。

第2節 出土遺物等資料の整理

出土遺物のうち土器類、石製品等は、通常の遺物収納コンテナ（容量280）にして133箱である。その他、実測した木製品70点を含む木質遺物がある。出土遺物の整理は、調査同様に『財団法人和歌山県文化財センター発掘調査マニュアル（基礎編）』（2006年4月）に準拠して行った。

1 出土遺物応急整理

出土遺物については、現場事務所において出土遺物の一部について応急的な洗浄作業を実施した。これは、調査の進捗に伴い、現地調査方法の判断資料として時期決定を行い、調査を円滑に進めていく必要があるためである。

2 出土遺物の基礎的な整理作業

調査で出土した遺物は、調査報告書作成に伴い一連の整理作業を行うとともに、現地調査の遺構図面・遺構写真などの調査記録資料の整理を行い、資料登録台帳などを作成した。

出土遺物は、応急整理済みの作業を省いて、遺物の洗浄作業、遺物の種類ごとの分別作業、遺物への調査コードと出土遺物登録番号の注記作業、遺物の詳細な内容及び破片点数の台帳登録・集計（各層序・各遺構別遺物数量）、登録番号個々の登録写真の撮影を行った。

洗浄、注記、登録作業を実施後、遺構ごと、遺物包含層ごとに遺物の接合作業を実施した。遺物の接合には接着剤を使用した。

3 主要遺物を対象とした整理作業

接合作業完了後、遺構の時期や性格、遺物包含層の時期を把握するために、その遺構と遺物包含層から出土したものの中から必要な出土遺物を実測用に抽出した。実測対象のうち、接合面が脆弱な箇所には充填剤を使用した補強作業を行った。また、写真撮影に際して全体の形がわかるようにするため、実測対象の出土遺物のうち150点について復元作業を行った。出土遺物の残存部について型取りをし、その型を基に充填剤を用いて成形と微調整を行った。

実測点数は、土器544点・土製品114点・石製品20点・木製品70点である。また、実測遺物の台帳登録（本書に掲載の「出土遺物一覧」として利用）、遺物実測図のデジタルトレース、トレース図の組版、遺物実測図の整理、集計登録データ等各種データのPC入力作業を行った。

4 実測遺物の写真撮影

実測した遺物については全点写真撮影を行った。一部の遺物については集合写真を撮影した。撮影後、デジタル現像を行い、各写真に遺物登録番号などを記載して、遺物種類ごとにフォルダにまとめている。遺物写真の一部は報告書掲載用に抽出して組版を行った。

5 遺構図面の整理

現地調査の遺構図面の整理は、遺構位置全体図・地区・図面の種類ごとにまとめて台帳登録を行った。調査報告書に掲載する遺構図面については、作図・レイアウト・組版作業を行い、調査報告書に掲載する図面原稿のデジタルトレース作業を行った。

6 遺構写真の整理

調査現場の記録写真であるデジタル画像データ（JPEGデータ及びRAWデータ）は全てデジタル現像した後、ファイルごとに内容を記載して保存して、地区ごとにフォルダにまとめている。

一部のデジタル写真画像については、調査報告書に使用する目的で掲載用に抽出し、検出遺構の写真図版の組版作成を行った。

7 出土遺物の掲載方法

出土遺物のうち、土器については遺構や遺物包含層の時期を示すものや特徴的なもの、石製品や木製品などについては器種や形状がわかるものを中心にデジタルトレースした実測図を組版して報告書に掲載した。報告書掲載用に抽出した土器については実測図番号をそのまま報告書掲載番号とし、個別番号を付した石製品などの遺物についてはそのまま個別番号を報告書掲載番号とした。また、報告書掲載用の土器及び個別番号を付した遺物については、遺物観察表を作成して報告書に掲載した。

8 木製品の保存処理

木製品は水漬けの状態で出土し、乾燥すると腐朽してしまうため、保存処理が必要である。木製品のうち、重要であると考えられる50点について、「和歌山平野農地防災事業新溝支線水路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査等業務に係る保存処理委託業務」として株式会社吉田生物研究所に再委託して高級アルコール法による保存処理を実施した。また、これ以外の木製品については、当センターにおいて、トレハロースを用いた糖アルコール法による保存処理を実施している。

第3節 調査区の設定

1 地区割

遺構実測図作成や遺物取り上げの際に用いた地区割の基準線は、国土座標平面直角座標系（世界測地系）第VI系の座標軸を使用し、同一地域で平成22～25年度に当センターが発掘調査を実施した井辺遺跡、和田遺跡及び平成30年度に実施した和田岩坪遺跡第1次調査に準拠して、和田岩坪遺跡を網羅する北東隅の数値を地区割の基点（ $X=-197,000\text{m}$ 、 $Y=-72,000\text{m}$ ）とした。

この基点から、西方向および南方向に各々1kmごとに区切った区画を1単位とした大区画を設定し、基点から西方向にローマ数字のⅠ・Ⅱで、南方向にはアラビア数字の1・2で表記した。これにより、今回の和田岩坪遺跡は大区画Ⅱ2区に位置することとなる（図4）。

この基点から、それぞれ100m四方の区画を1単位とした中区画を設定し、北東端を基点とし西方向へアルファベット大文字でA～Jと、南方向へアラビア数字で1～10と表記した。さらに4m四方の区画を1単位とした小区画を設定し、北東端を基点とし西方向へアルファベット小文字でa～yと、南方向へアラビア数字で1～25と表記した（図5）。遺構図面作成や遺物取り上げの際には原則として、4m四方の小区画で行い、大区画・中区画・小区画を組み合わせて表記する（例：Ⅱ2C8e16）。ただし、今回の調査範囲は、全て大区画Ⅱ2区・中区画C8に入るため、遺物の取り上げ時のラベル記載や本文の記述などにおいては大区画・中区画の表記は省略した。

方位は座標北を使用し、標高は東京湾平均海面（T.P.+）を基準とした値を使用した。なお、座標北は磁北から $6^{\circ}54'13''$ 東偏する。また、座標北は真北から $0^{\circ}26'47''$ 西偏する。

2 調査区の設定

調査区は、調査開始順に南側地区を1区、その北側隣接地を2区とした。次に実施した3区については、一部先行した調査区を3-1区、3-1区と2区間の調査区を3-2区とした（図5）。隣接する第1次調査では1-1区～2-3区を使用しているため、区別が必要な場合は第2次1区などとする。調査面積は、1区が 318.6m^2 、2区が 22.6m^2 、3-1区が 22.6m^2 、3-2区が 121.6m^2 、計 485.4m^2 である。

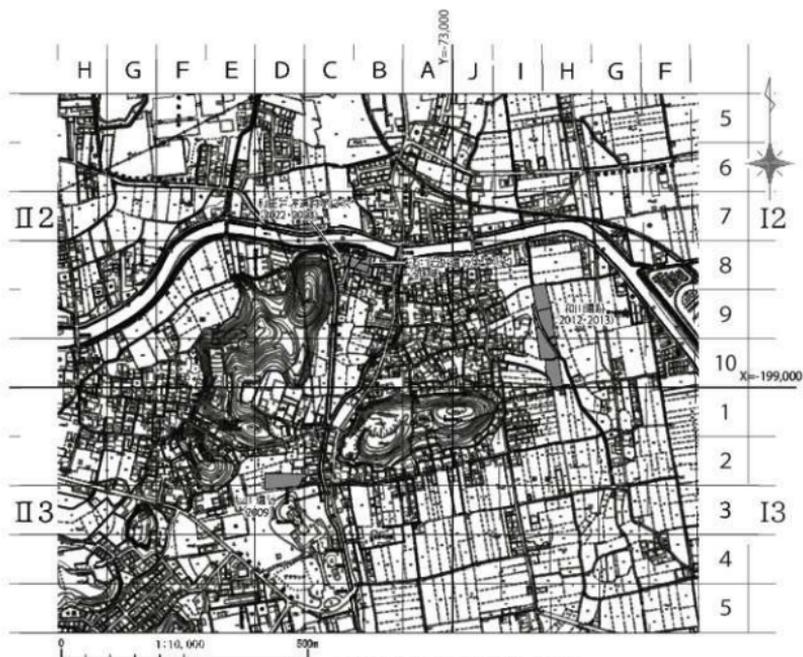


図4 調査位置と区画割 (100m区画)

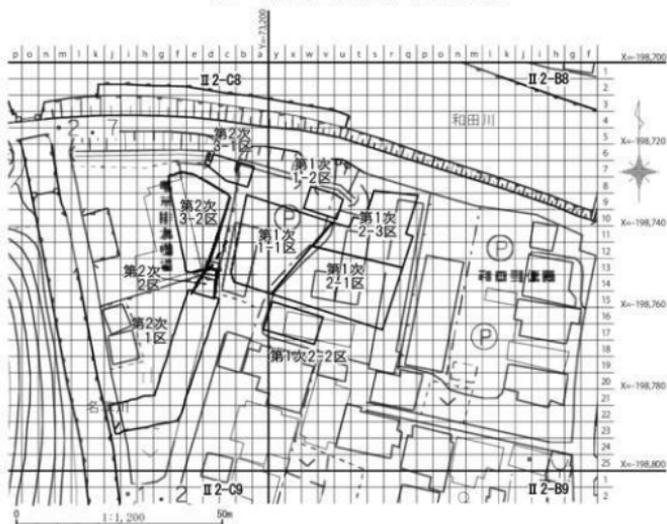


図5 調査範囲と地区割 (4m区画)

第4章 調査成果

第1節 調査区の基本層序と土層堆積

今回の調査における基本層序は、第0層＝現代の造成盛土・工事関係埋土(第1次調査第0層)、第1層＝現代水田耕作土(第1次調査第1層)、第2層＝現代水田床土(第1次調査第2層)、第3層＝近世水成堆積層? (第1次調査第2層系埋土)、第4層＝中世遺物包含層・耕作関係堆積(第1次調査第3層)、第5層＝自然流路上層(第1次調査第4層・第5層)、第6層＝自然流路中層(第1次調査第6層)、第7層＝自然流路下層(第1次調査第7層)、第8層＝自然流路最下層、第9層～第11層＝基盤層(第1次調査基盤層R・T・X・Y・Z)である。

調査地の土層堆積を詳しく見ていくと、調査対象地は昭和50～56年に駐車場用地として造成盛土された場所で、それ以前は水田であった。造成盛土及び排水機場建設工事関係の埋土を第0層とし、第1層は造成以前の昭和時代の水田耕作土、第2層は水田耕作土に伴う床土とする。第2層の下は鎌倉時代の遺物を含む黄褐色の遺物包含層である。第2層と鎌倉時代の遺物包含層の間に土層は確認できなかったが、遺物包含層上面で水成堆積と推測される灰色の落ち込みを広範囲で確認した。現代の水田耕作による造成などで削平されていると考えられ、この灰色の落ち込み状の土層を第3層とする。したがって、第2層下の中世の遺物包含層を第4層とし、この上面で中世の鋤溝や畦畔状の遺構を検出した。なお、3-2区では第2層下が基盤層となり、第4層が削平されていると推測され、各遺構を基盤層上面で検出した。第4層より下位は自然流路に関わる堆積及び基盤層と考えられ、自然流路が完全に埋没する黒褐色の堆積を第5層とする。第5層では多量の古墳時代前期の遺物とともに、古墳時代中期の初期須恵器も少量ながら出土している。第6層は黒褐色シルト質の滞水した状況での堆積と考えられ、自然流路が埋没する過程で堆積している層である。弥生時代後期末から古墳時代前期の遺物を多量に含む。第6層下部で多量の木製遺物が出土している。第7層は自然流路の下層における堆積で、シルト層と砂層の互層となっており、滞水と流水が繰り返されていた状況を示している。第7層も弥生時代後期末の遺物を多量に含む。第8層は自然流路の最下層で砂層となるが、部分的にしか確認できなかったため、流路の最下層がすべて砂層であったかは明らかにできなかった。弥生時代後期の堆積か。第9層以下は基盤層で、第9層は自然流路の肩部を構成する堆積で、いわゆる地山と考えられる黄褐色シルト層である。水による影響を受けない乾燥した状況下での堆積と考えられ、遺物は出土していない。第10層は黄褐色シルト層の下で確認した黒褐色シルト層で、滞水した状況での堆積と考えられ、遺物は出土していない。自然流路の第6層や第7層の黒褐色シルト層に類似した層で、自然流路によってある程度削られて自然流路内に第6層や第7層として堆積したと推測される。第11層は細礫～粗砂を含む流水に伴う堆積で、3-2区北壁では木質や炭化物を多く含む間層を挟みながら、西側から東側へ傾斜して堆積する状況が確認され、西側の丘陵地から流れ込んだ堆積と推察される。当該地は縄文時代前期頃の縄文海進時には内湾であったとされており、第9層～第11層とした基盤層も縄文時代前期以降に堆積したものと考えられる。第1次調査では基盤層を掘り込む弥生時代前期の溝や土坑が確認されており、基盤層は弥生時代前期までには形成されていたといえる。3-2区北東隅では地震による液状化の痕跡とされる噴砂が確認された。

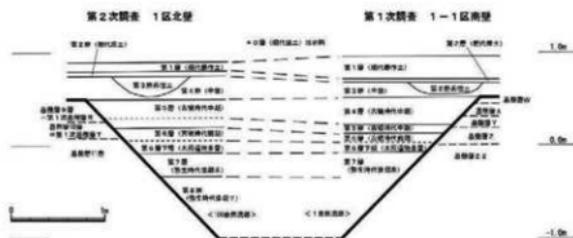


図6 和田岩坪遺跡 基本層序 (第1・2次調査対応関係)

第2節 検出遺構

1 100自然流路 (1・2区)

第1次調査で検出した弥生時代後期末の庄内式併行期から古墳時代後期にかけて埋積した1自然流路の延長を検出した。特に弥生時代後期末から古墳時代前期の遺物が多量に出土しているとともに、流路下層の第6層下部から多量の木製遺物が出土している。木製遺物には杭が多くみられる他、一部に鉋や曲物、木錘などの木製品が出土しているが、自然木も多く出土しており、押し流されてきて堆積したものと考えられる。古墳時代中期には完全に埋没したと考えられる。遺物は層ごとに取り上げたが、調査時には湧水や調査区壁側からの流水が止まらず、明確に分けて取り上げることは困難であった。自然流路は、南南西から北北東側方向に延びる。今回の調査では西側の肩部を、前回の調査で東側の肩部を検出し、幅約17m前後になるものと考えられる。流路の肩部には杭または杭の痕跡を複数確認しており、護岸に関わる杭列の可能性もある。流路からはしがらみ材と推測される杭が多数出土している。また、肩部の一部に流路側に張り出す地点があり、そこに石を並べていることから(石列、石敷1~3)、川の水を利用する場を造り出した可能性がある。

2 鋤溝・畦畔 (1・2区)

第4層上面で鋤溝や畦畔などの耕作に関わる遺構を確認した。遺構から時期を限定できる遺物は出土していないが、第4層には鎌倉時代の瓦器などの遺物が含まれることから、鎌倉時代の遺構であると判断した。自然流路が埋没した後も土地利用を進まず、中世になってようやく耕作に利用できるようになったものと推測される。

3 土坑及び杭跡 (3-2区)

3-2区では土坑や杭跡を複数検出した。出土した土器は細片であったため各遺構の時期は判然としませんが、遺構検出面が1・2区の第4層とほぼ同じ標高であることから中世の遺構である可能性が高い。3-2区は100自然流路の西側にあたり、1区・2区で検出した100自然流路はこの範囲には続いていることがわかった。

4 噴砂 (3-2区北東隅)

3-2区北東隅で地震による液状化の痕跡とされる噴砂が確認されたが、遺物包含層が削平されている箇所であり、噴砂が発生した時期は確定できなかった。

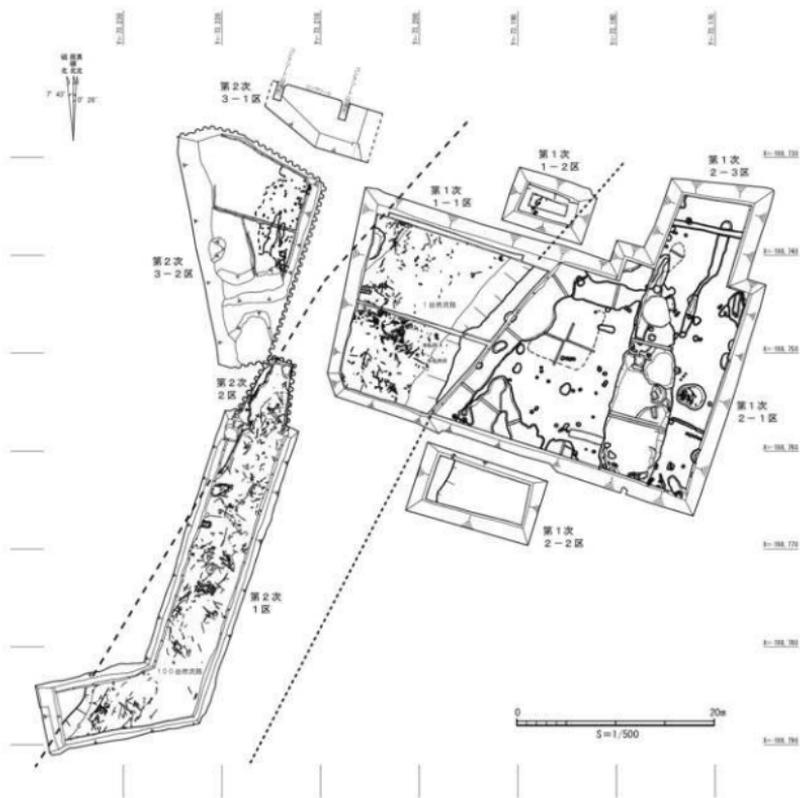


图7 調査区配置図全体図 (S=1/500)

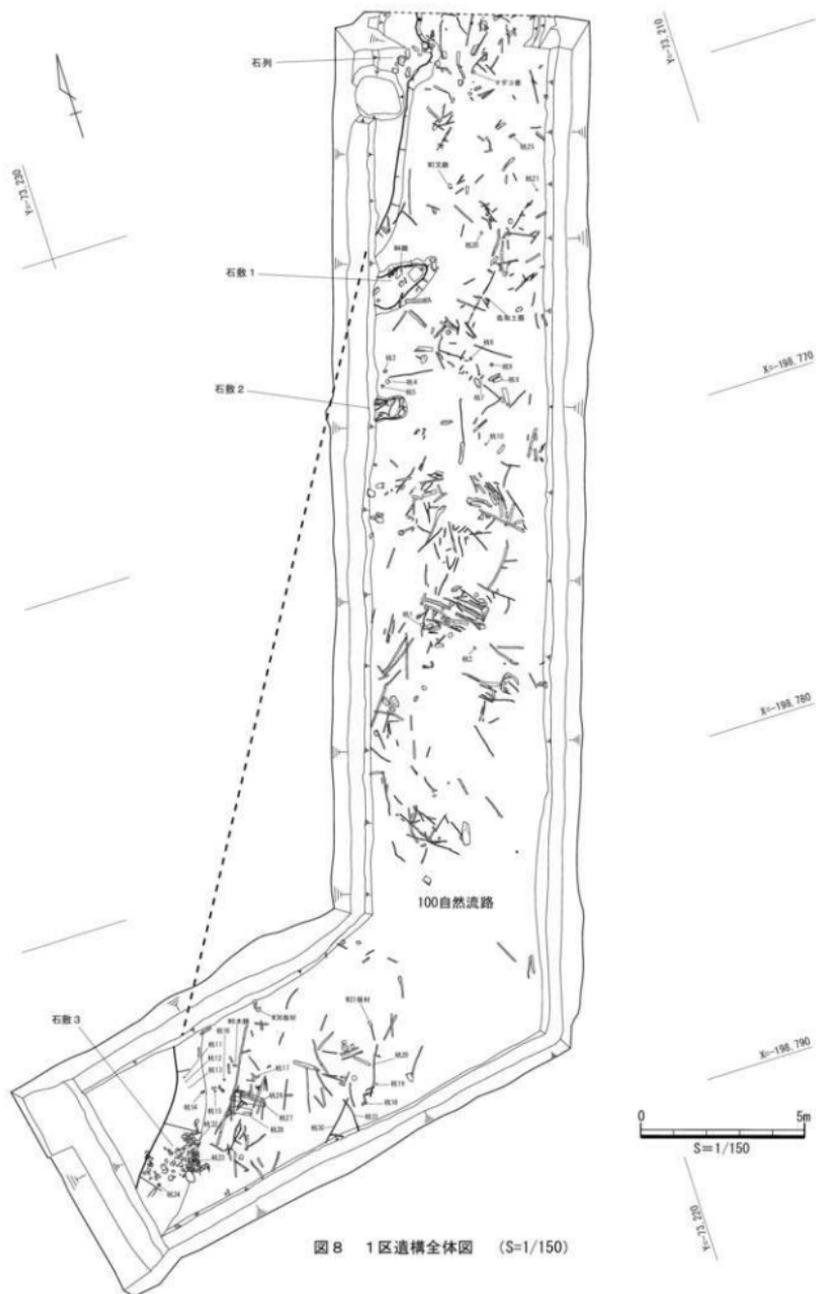


图 8 1区遺構全体圖 (S=1/150)

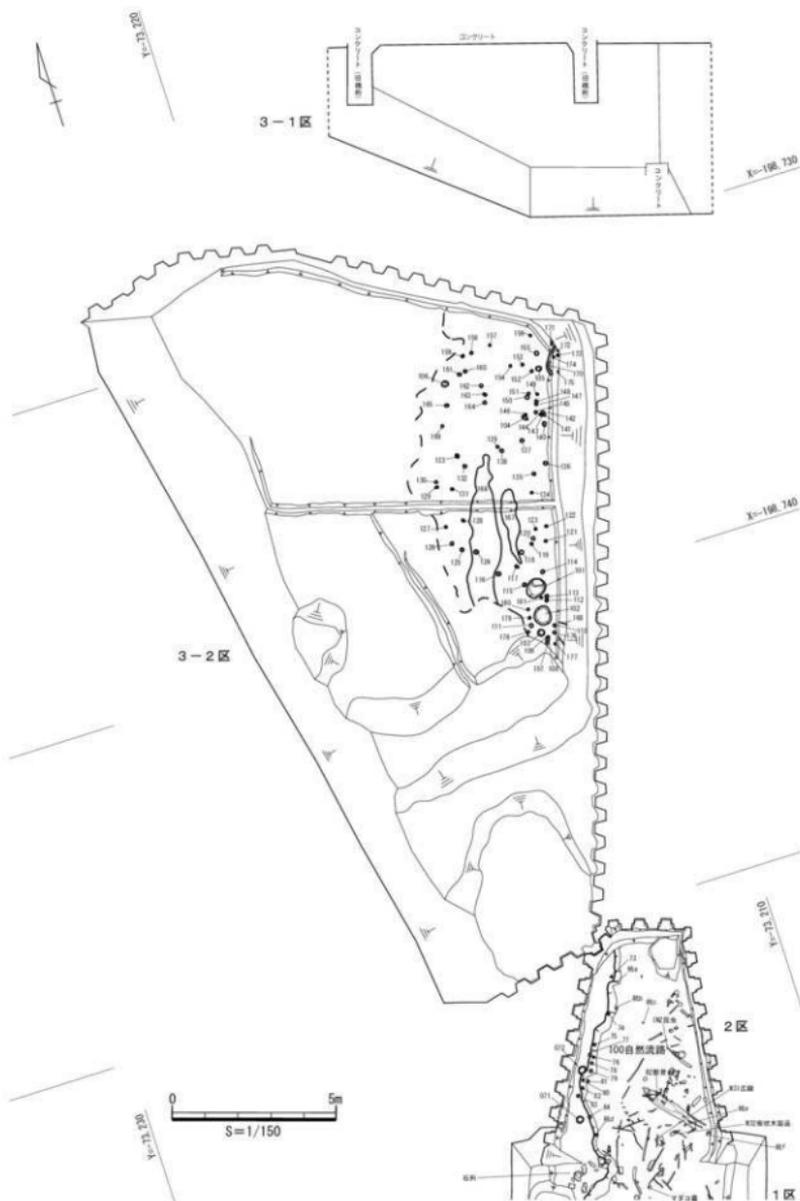


図9 2区、3-1区・3-2区遺構全体図 (S=1/150)

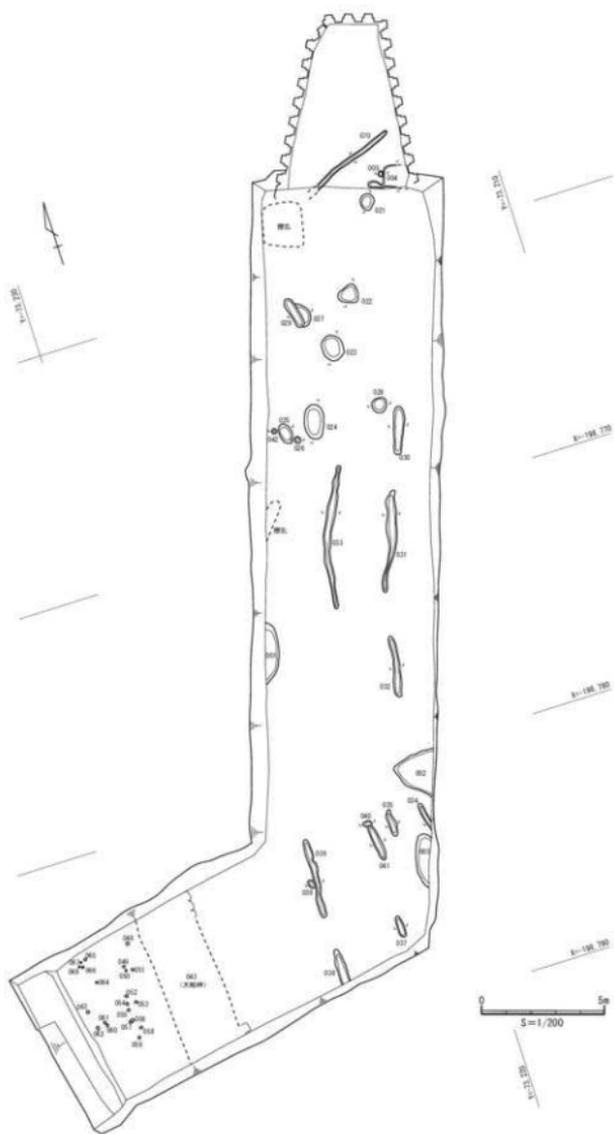


图10 1区·2区4层上面(中世)遺構面 遺構全体圖 (S=1/200)

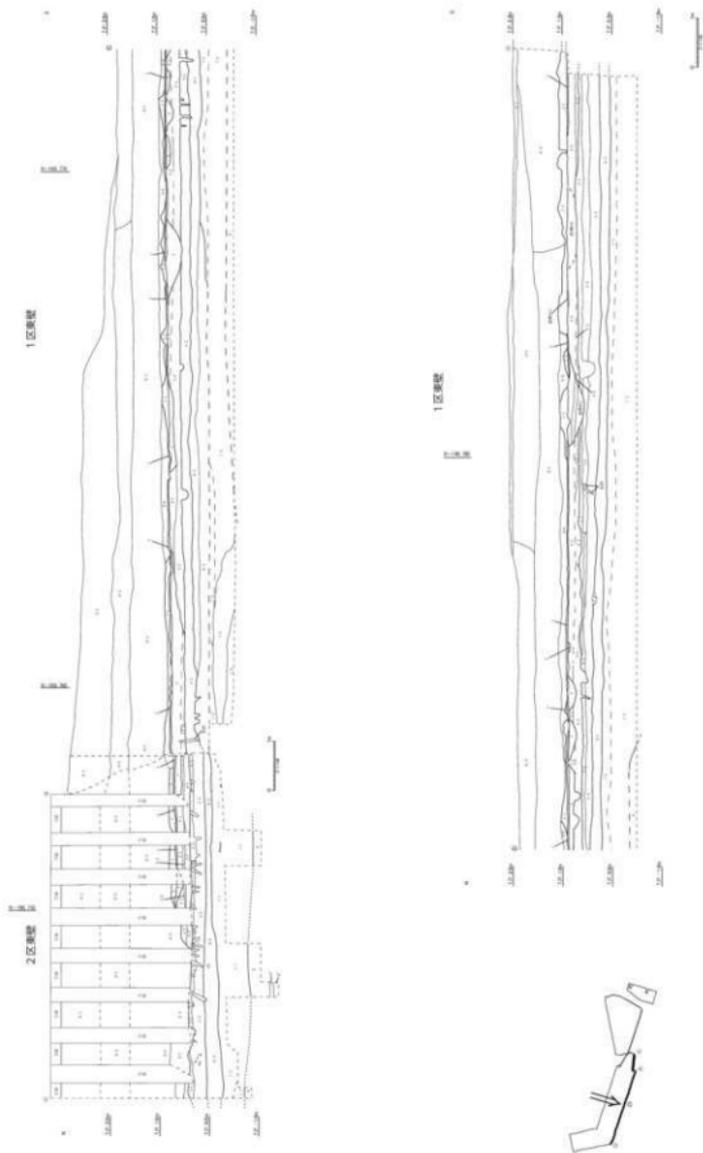


图11 調査区土層断面図 1 (S=1/100)

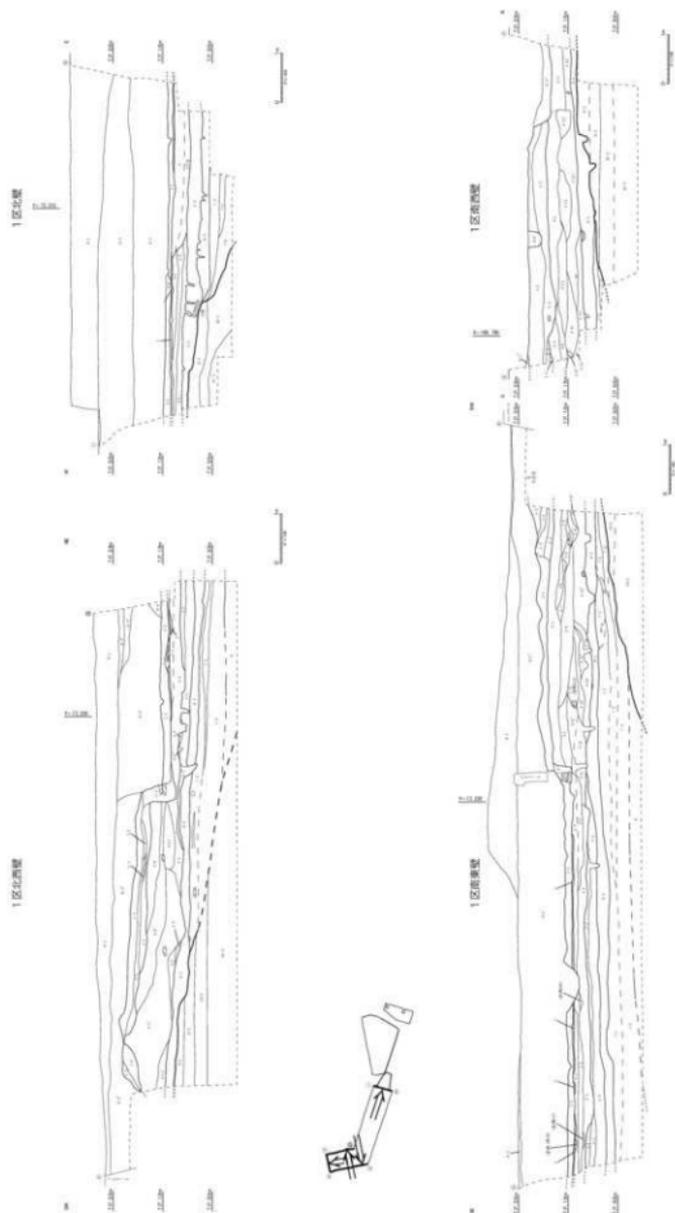


图13 調查区土層断面图3 (S=1/100)

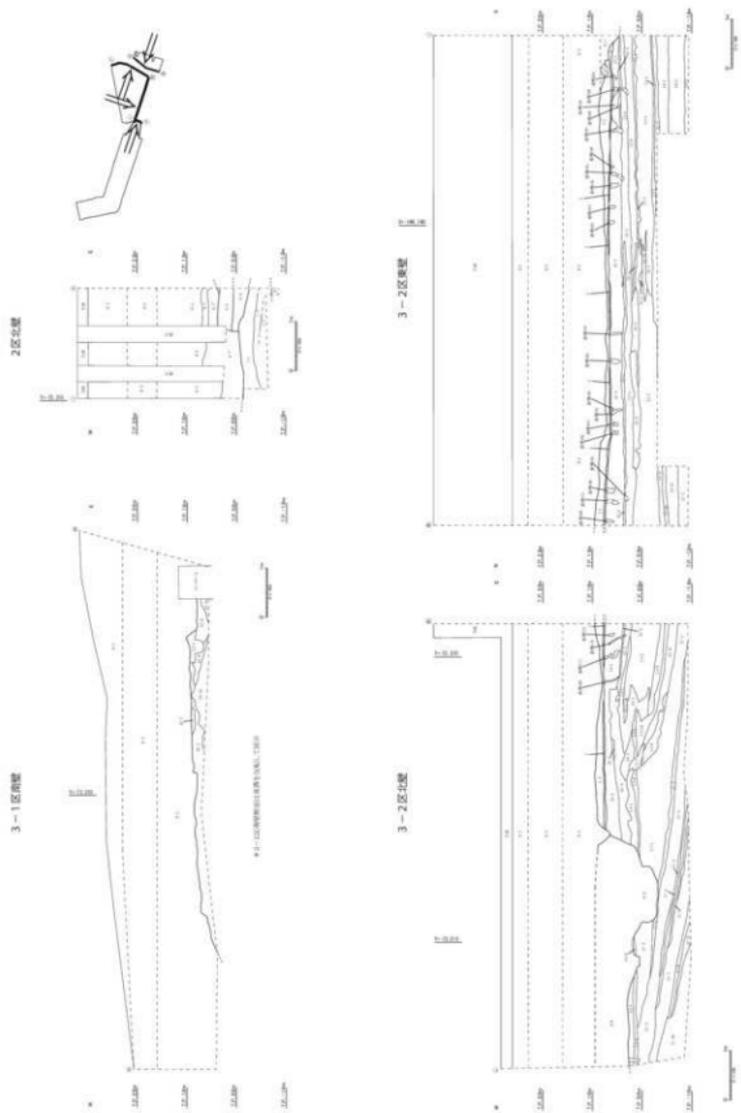


图14 調査区土層断面图 4 (S=1/100)

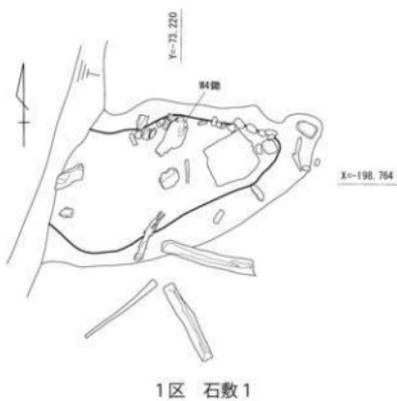
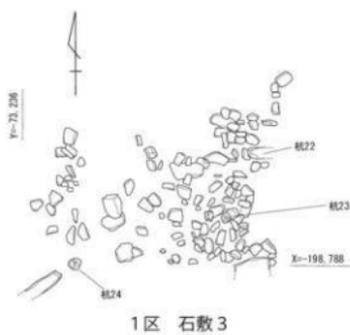
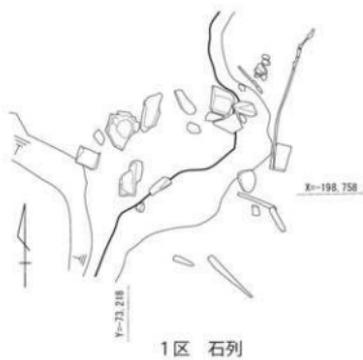


图15 遺構平面圖 (S=1/40)

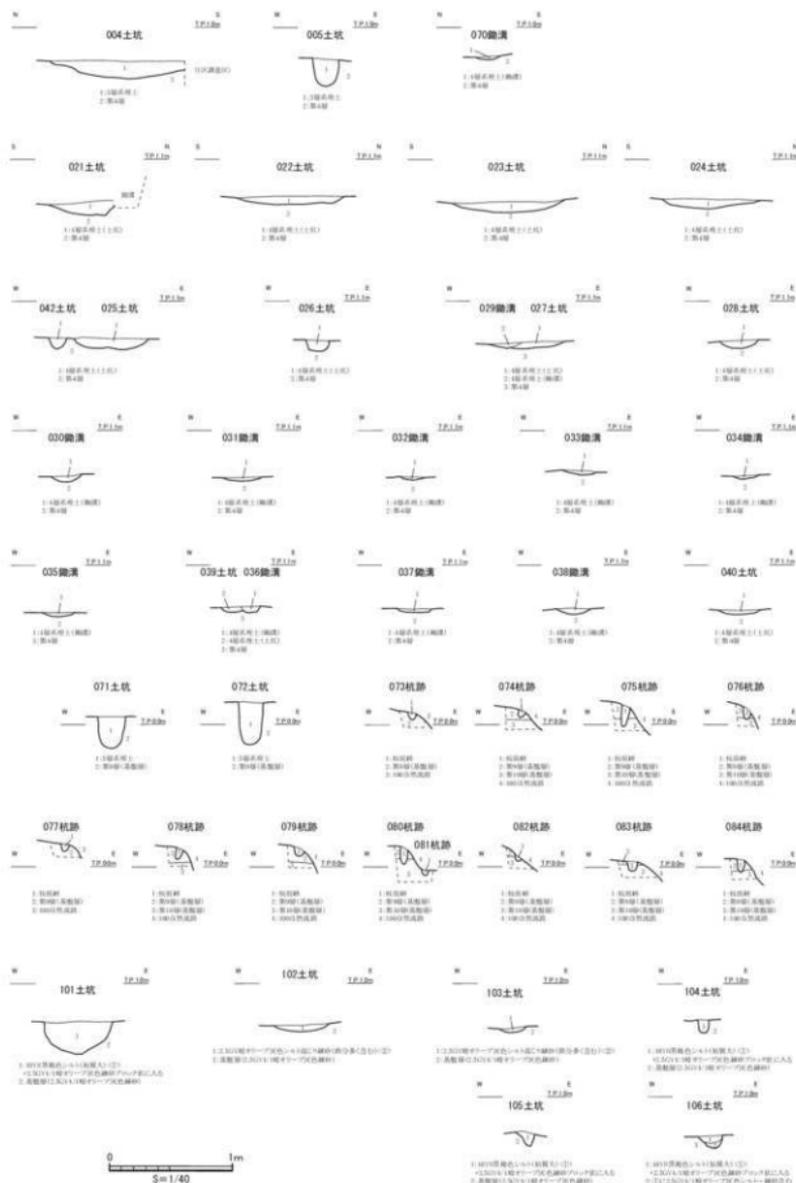


図16 遺構断面図 1 (S=1/40)

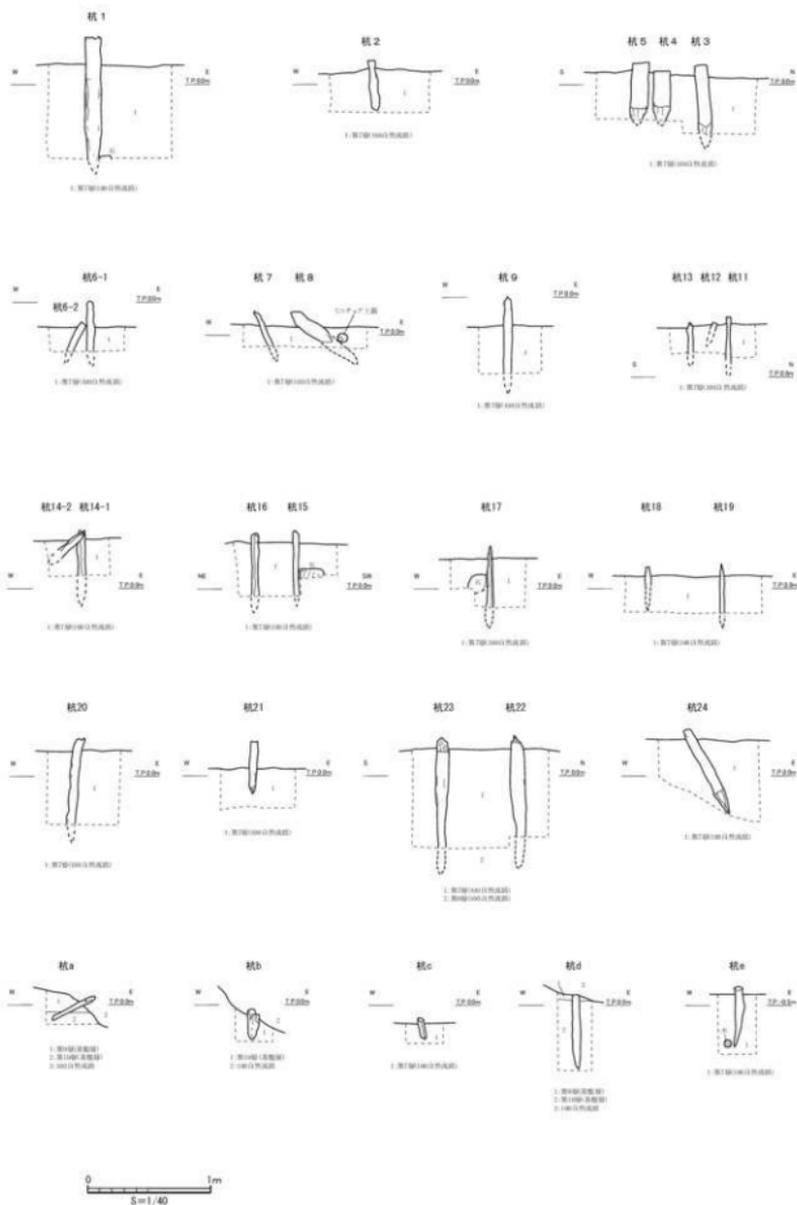


圖17 遺構断面圖2 (S=1/40)

第3節 出土遺物

1 土器

弥生土器・土師器 弥生土器・土師器は404点実測図を掲載した(図18～32)。主な器種は、甕、壺、高坏、鉢、小形器台であり、弥生時代後期末(紀伊V-5・6様式)から古墳時代前期のものがほとんどである。胎土には片岩を含むものが多くみられ、遺跡周辺で製作された可能性がある。紀伊型甕(155)は、弥生時代中期初頭(II-1様式)の所産と考えられる。受口状口縁を有する甕(127、136、157、350)は、吉備地域など他地域からの搬入品または影響を受けてつくられたものである可能性がある。壺(48、176、215)、鉢(281)は弥生時代中期の所産と考えられ、混入品の可能性がある。一部、第7層や第8層などから52、53、76、83、220、292など弥生時代後期前半の所産と考えられる土器が出土している。受口状口縁を有する甕(62、346、348)、甕(337)、壺(370)、壺と考えられるもの(146)、二重口縁壺(248)、二重口縁壺と考えられるもの(245、258)は、他地域からの搬入品または影響を受けて作られたものである可能性がある。壺と考えられるもの(159、217)は、線刻が施されており、絵画土器または記号文の可能性があり、45、386は手焙形土器である。

第5層を中心に甕(154)、坏(181)、甕または埴(366)、把手(354、367、369、372、402、403)、皿(399、400)は古墳時代中期以降の所産と考えられるものが出土している。弥生土器・土師器には、大型の甕または壺(115、145、146、147、148、218、351、352)も含まれる。

ミニチュア土器 ミニチュア土器は27点が主に100自然流路から出土している(図33)。器種は、甕、壺、鉢であり、弥生時代後期末～古墳時代前期の所産と考えられる。胎土には片岩を含むものがみられ、遺跡周辺で製作されたと推測される。

製塩土器 製塩土器が196点出土している。脚台式2式が2点、脚台式3・4式が133点、深碗形と考えられるものが59点、甕形と考えられるものが2点出土した(図34)。脚台式2式は弥生時代後期、脚台式3・4式は弥生時代後期末～古墳時代前期、深碗形・甕形は古墳時代中期の所産と考えられる。

真蛸壺 真蛸壺が3点出土している(図35)。いずれも外面にタタキ調整がなされており、底部から体部にかけての傾きが甕や鉢と比較して急傾斜である特徴をもつ。OT3については底部が残存しており、木の葉状の文様が施され、中央は穿孔される。これは、大阪府臨浜遺跡出土の真蛸壺と類似する(福宜田1998)。なお、和歌山県内における出土事例はほとんどみられない。

鳥形土器 鳥形土器が1点、鳥形土器に器形が類似する土器が1点出土している(図36)。和歌山県内では大日山I遺跡、鳴神地区遺跡、井辺遺跡、津秦遺跡出土事例など少量しか出土していない(和歌山市 前田敬彦氏、富永里菜氏御教示による)。流路等水に関係する場所から出土する傾向があり、本遺跡でも自然流路内より出土したことから、水辺の祭祀が行われていた可能性がある。

須恵器 須恵器は第5層を中心に出土しており、そのうち36点を掲載した(図41)。主な器種は、坏身・坏蓋、甕、壺、高坏、鉢、碗、甕である。初期須恵器がほとんどであり、古墳時代中期前半の所産と考えられる。SW36については、瓦質土器であり、他の土器とは異なる様相を呈する。外面には鋸歯文が施されるが、楠見式の初期須恵器や、朝鮮半島の杵形土器にも類似する鋸歯文が施されている(和歌山県教育委員会 仲辻慧大氏御教示による)。

中世の土器 第4層を中心に中世の土器が出土しており、そのうち13点を掲載した(図40)。器種は、瓦器椀・小皿、備前焼播鉢・大甕、瓦質土器羽釜、青磁碗、施釉陶器碗、無施釉陶器播鉢である。

2 土製品

泥面子 C1は亀の泥面子と考えられ、壁面が崩れた際に出土したため、層位は不明である。近世の所産と考えられる。

粘土塊 粘土塊(CL1~CL19)は、第3層・第4層及び100自然流路第5~7層より85点出土した。粘土塊の用途は不明である。

土錘 土錘(CW1~CW58-2)は、第4層及び100自然流路第5~7層より114点出土した(図37~39)。

管状土錘(12点)と有孔土錘(73点)の二種に分類でき、特に有孔土錘は多量に出土しているため、漁網に括り付けて使用されていたものが出土したと想定できる。焼成はやや軟化なものが大半を占めており、全体的に劣化が著しく、調整が判然するものは少ない。胎土には片岩を含むものが一定数あり、遺跡周辺で製作された土錘群である可能性がある。

3 石製品

100自然流路から石製品が78点出土している(図42)。

S1は径3.1cm・厚み0.3cmの滑石製有孔円板で、径0.15cmの孔が2箇所穿孔されている。今回の調査区では滑石製模造品の出土は1点のみだが、和田岩坪遺跡の南側約500mにある龜山神社に隣接する坂田遺跡からは滑石製の琴柱形石製品や有孔円板、勾玉が出土しており、関連性がうかがえる。

S2~S4・S9・S10は結晶片岩製で、S2は石庖丁、S3は大形石庖丁、S4・S9は石庖丁製作途中品である。S10は円板状石製品で用途不明であるが、環状石斧の製作途中品である可能性がある。S5~S7はサヌカイト剥片である。出土した石製品のうち、石庖丁やサヌカイト剥片などは近畿において弥生時代後期後半以降はほぼ消滅していることから、古い時期の混入である可能性が高い。自然流路の埋土の一部を1mmの篩で水洗したが、サヌカイトの微細な剥片がほぼ確認できなかったことから、出土土器の中心となる時期である弥生時代後期末から古墳時代前期には周辺でサヌカイト製品を製作している状況ではなかったと推測できる。

S8は卵形の石製品で、両端部を叩石として使用しており、図の下端部にはわずかながら朱の付着が認められる(巻頭図版参照)。和歌山県工業技術センターのエネルギー分散型蛍光X線分析装置で分析した結果、Hg(水銀)とS(硫黄)が検出されたことから、水銀朱(HgS)であることが判明した。和歌山県では古墳時代前期を中心とした時期に朱が付着した石杵や土器が出土していることから、当該期の石杵である可能性が高い。

出土した石製品の大半は砥石や凹石、叩石、磨石などの礫石器である。この他、軽石が5点出土している。これらのうち、S11・S12・S15・S17は褐灰白色の細粒砂岩製の砥石で、いずれも100自然流路最上層の第5層から出土しており、第5層堆積時期である古墳時代中期の鉄製品用の砥石と推定される。

4 鉄製品

鉄製品は2点のみ出土している。M1は2区の004近世以降の落込みから出土し、断面形状は刀

子状を呈する。M2は1区の排土中より出土したが、近現代の鉄製品の可能性もある。

5 木製品・木質遺物

100自然流路から木質遺物(木製品・自然木・植物遺体)が多量に出土している(計501点、図43～61)。特に第6層から自然木を含む木質遺物が洪水などで押し流されてきた状況で出土している。これらの多量の木質遺物を取り上げた後に、それより下層から出土したものを第6層下部として取り上げている。流路下層の第7層からも一定量の木質遺物が出土している。流路上層の第5層で取り上げた木質遺物もあるが、上層の遺物包含層である第4層や第5層上部には木質遺物は含まれず、第5層下部と第6層との境界付近を掘削した際に第5層として取り上げたものである。したがって、木質遺物のほとんどが第6層及び第7層の埋没時期である弥生時代後期末から古墳時代前期の所産と捉えることができる。わずかに自然流路最下層の第8層から出土しているが、これらは弥生時代後期末より古い時期の可能性もある。

W31は広鋸、W1・W2は鋸の舟形突起、W3・W5は又鋸で、W4は鋤などの製作途中品の可能性がある。W13は鎌の柄で、先端部に鎌の挿入部が認められ、反対側端部には把手が作り出されている。W18・W32・W52・W58は用途不明であるが農具の可能性もある。W6・W7・W45～W48・W109は木錘で、W6のみ中央部分の袢りを大きく加工する形態であるが、残りは丸太材の中央部分の細い袢りと両端部を加工するだけの形態である。木錘は編具と考えられるが、簡易な作り方やまとまって出土することから漁具の浮きである可能性も考えられる。W11・W33・W39～W41・W54・W56・W59・W88・W107は有頭棒で、完形品がなく用途は不明である。頭部全体を加工するものと、一方だけに袢りを入れるものがあり、後者は後述するしがらみ材の可能性もある。W33は小形品のため他とは違う用途かもしれない。

W14・W16・W49は細長い板状木製品で、紡織具の可能性も考えられる。W15・W30・W43・W44・W55・W150はへら状あるいは匙状木製品で、端部を薄く加工している。W8～W10・W50・W78・W79・W110・W142～W147・W152～W154・W156～W158は小形の加工品で用途は不明である。W9は柄、W10は栓の可能性があり、W142・W145・W152・W156・W157などは小形の楔の可能性もある。W20・W21・W28・W36・W61・W94・W139～W141は板状木製品で、W28・W20・W21には小穿孔が認められ、浮きの可能性もある。W17・W63・W65・W66・W73は端部を斜めに加工しており、楔と考えられる。W101は丸太状の片側の端部を杭状の加工が施されたもので、W70・W91・W93・W100は袢り状の加工が施されたもので、いずれも用途不明である。W12・W37・W51・W57・W69・W82・W92は柄穴が認められるもので建築部材の可能性もある。W62は柄状の加工部が残存している。W19・W71・W83は穿孔のある板材で、W19は田下駄の可能性もある。W25・W67は側面を丁寧に加工するものであるが、用途は不明である。W35は細長い形状で端部に加工が認められることから弓もしくは網杵の可能性もある。W90・W148・W149・W151・W155は端部を杭状に加工するもの、W72は袢り部を加工するもの、W108は羽子板状に加工するもので、いずれも用途不明である。W75～W77・W81・W84は細長い板状木製品、W22・W29・W74・W80は細長い角材で、用途不明である。W22・W74・W80の端部には切痕と推測される工具痕が残されている。W356は3-2区の基盤層から出土したもので、端部を丸く加工している。3-2区の基盤層は縄文海進以降に堆積した層で、和田岩坪遺跡第1次調査で基盤層上面で弥生時代前期の溝を検出していることから、W356の出土した層は縄文時代から弥生時代前期の堆積層と推定される。

100 自然流路第6層～第7層から樹皮製品が多く出土している（樹皮製品に関する用語は浦2014による）。W26・W27・W42は樹皮紐を丸く束ねたもので、使用前の製品であると考えられる。この他、製品（W114・W116・W119・W120・W123-1・W123-2・W128・W130・W131・W134・W135・W137）、製品残材（W111～W113）、加工段階（W115・W121・W125・W126・W129・W136・W138）、素材（W117・W118・W122・W124・W127・W132・W133）といった各製作段階のものが出土している。C字状やU字状になったものが多く、素材としたものは巻物状になっている。これらは形状からサクラ属の樹皮とみられる。サクラ樹皮は乾燥を防ぐため水漬けが必要とされており（浦2014）、これらの樹皮製品は自然流路を利用して製作や保管をしていたと推測される。W23・W24・W38は大きい樹皮製品で、曲物あるいは曲物製作途中品の可能性がある。

杭は100自然流路の第6層を中心に押し流された状態で多く出土したが、なかには打ち込まれた状態で検出されたものもあった。ほぼ弥生時代後期末から古墳時代前期の所産と考えられるが、上層から打ち込まれた杭が一部含まれる可能性は否定できない。先端部に杭状の加工が施されたものを杭としたが、完形品のものはほとんどない。ほぼ完形品とみられるものはWS29・WS56・WS14・WS30・WS69で、いずれも細長い形状をしており、頭部に工具痕がある。WS56は二又になった枝部分を残して切断した痕跡がある。WS29・WS69にも切断痕が残り、WS114は頭部を少し細く加工し、WS30は抉りを入れている。これらは杭の形状をしているが頭部に打ち込みの痕跡がなく、湿地状の場所に突き刺して使用したものと推測される。抉りが入った杭状製品は建築部材の転用と想定されることもあるが、枝を残したWS56や湾曲のあるW29などが建築部材とは考えにくく、これらは自然流路内で使用されたしがらみ材であると想定される。頭部の二又や抉りは紐や棒などでしがらみ材同士を繋縛する部分である可能性がある。この他、WS1やWS3のような大形の杭が出土しており、WS3は石敷遺構に隣接して検出されたことから、橋桁であった可能性もある。WS35のように端部に切断痕があり、樹皮が残る木材が複数出土しているが、杭のように鋭利に加工していないことから、伐採木であると推測され、木製品を加工するために持ち込まれた木材である可能性がある。

6 自然遺体

骨 B1はニホンジカの角であり、1区d25の100自然流路第7層より出土した。B2はニホンジカの右後肢の距骨である（骨の鑑定は和歌山県立自然博物館佐々木学芸員による）。

種実 モモの種実が427点、松ぼっくりが8点出土した。この他、鑑定はしていないが、多くの種実が出土している。モモの種実のうち、SE9-9等、噛み痕と考えられる痕跡が残るものが36点確認できる。また、SE28、SE29-1、SE29-2は小形丸底壺内より出土している。

昆虫 IN1、IN2は昆虫の前胸背板であり、前者は1区g22の100自然流路第7層より出土した。後者は2区d14の第6層下部より出土した。ともにコウチュウ目 Coleoptera コガネムシ科 Scarabaei-dae スジコガネ属 *Anomala* の一種と考えられ、形態や大きさ、色彩から、現生種のアオドウガネ（またはヤマトアオドウガネ）が最も近いと判断される（昆虫の鑑定は和歌山県立自然博物館松野学芸員による。県文化財センター2023『風車』103号参照）。

貝類・甲殻類 SH1はフネガイの破片であり、2区d13の100自然流路第7層以下（ほぼ第8層）より出土した。SH2はオウギガニ一種の鉗脚破片であり、1区f19の100自然流路第6層より出土した（貝類・甲殻類の鑑定は和歌山県立自然博物館山名学芸員による）。この他、貝類の破片が

少量出土している。



C1



M1



B1



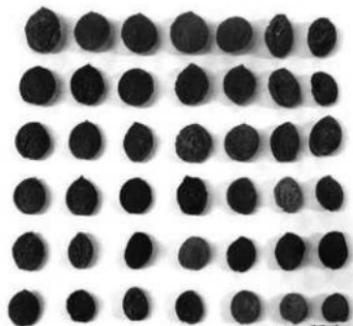
B2



IN1



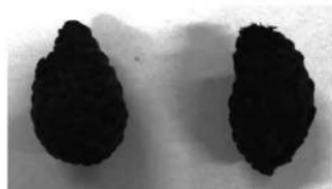
IN2



モモ種実



粘土塊



松ぼっくり



軽石

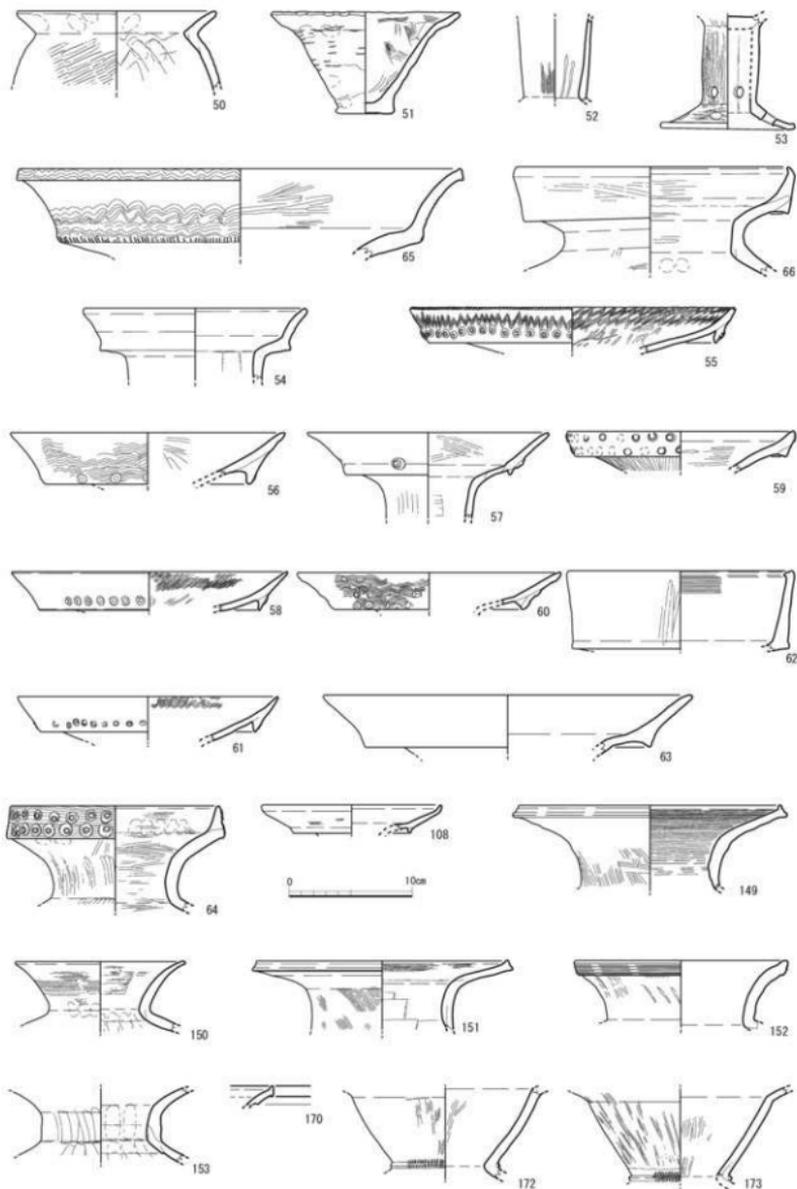


图18 出土遺物(弥生土器・土師器1)実測図(S=1/4)

100自然流路第8層出土：50~53、100自然流路第7層出土：54, 66, 108, 149~153, 170, 172, 173

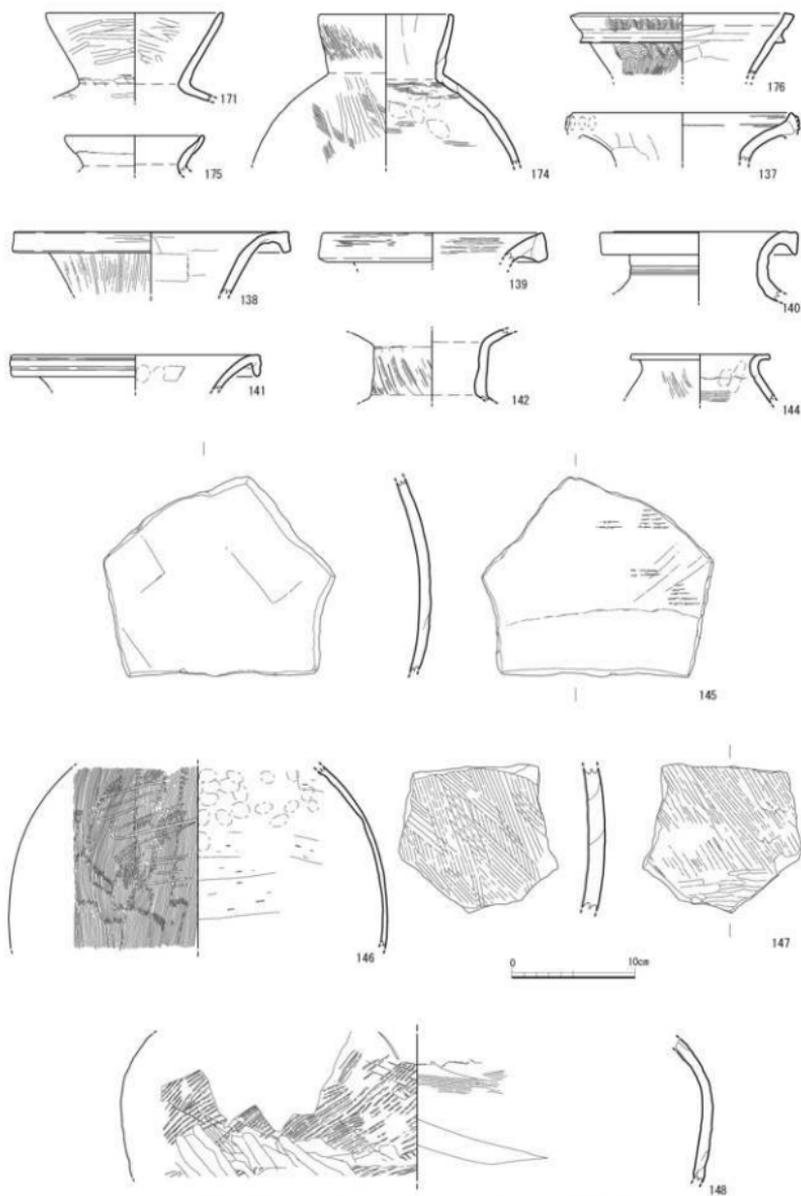


図19 出土遺物(弥生土器・土師器2)実測図(S=1/4)、100自然流路第7層出土
 ※146のみ100自然流路第6層出土

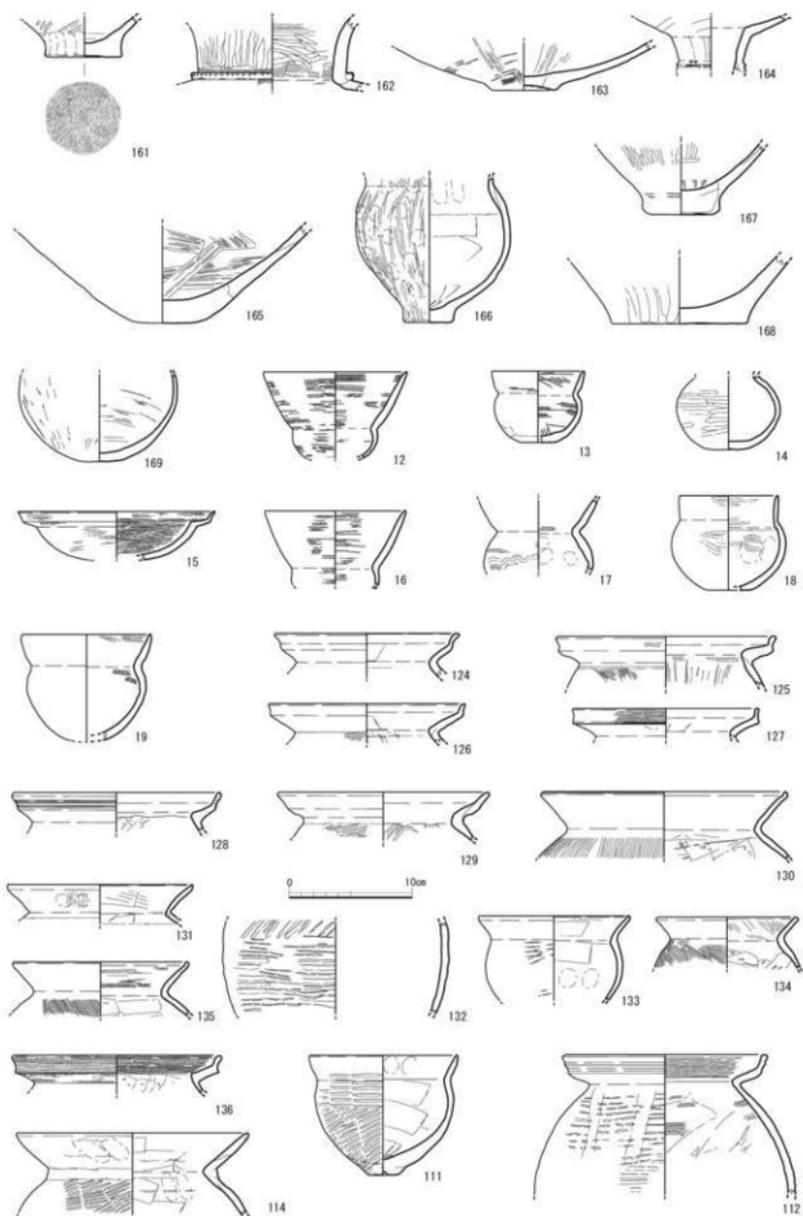


图20 出土遺物（弥生土器・土師器3）実測圖（S=1/4）、100自然流路第7層出土

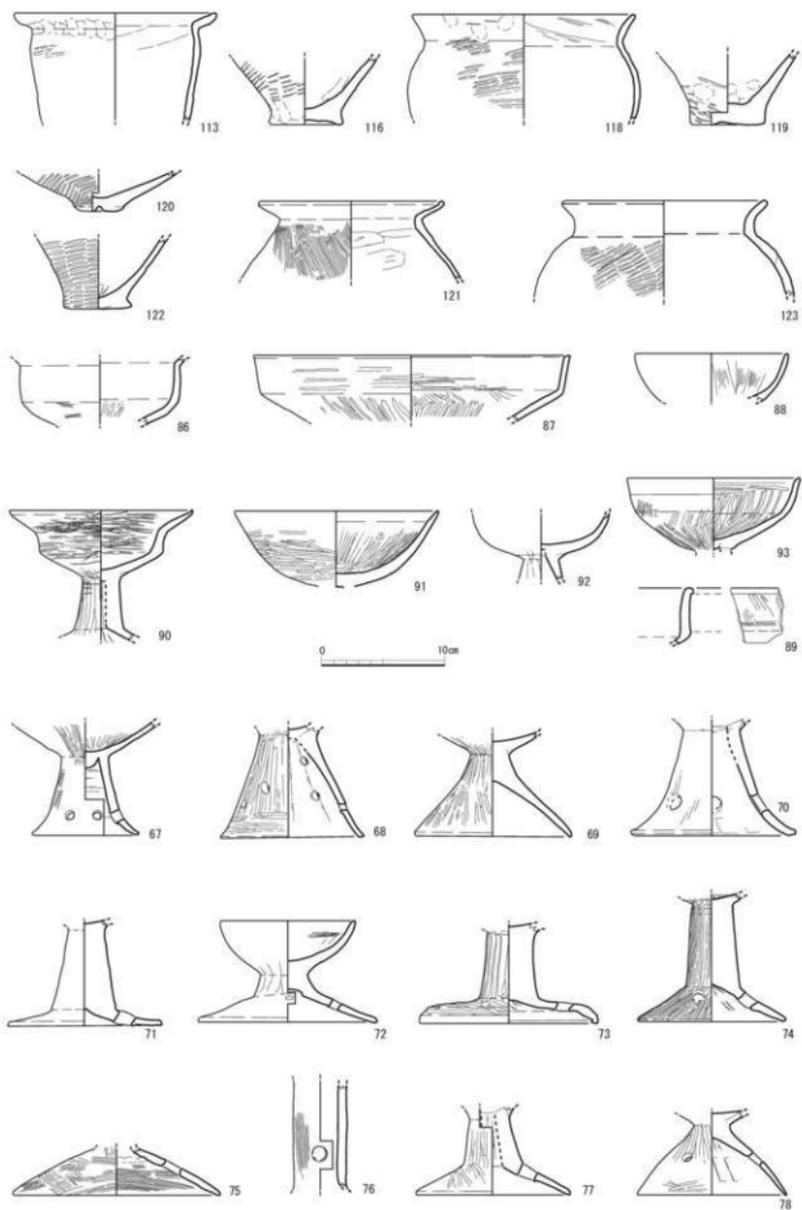


图21 出土遺物（弥生土器・土師器4）実測圖（S=1/4）、100自然流路第7層出土

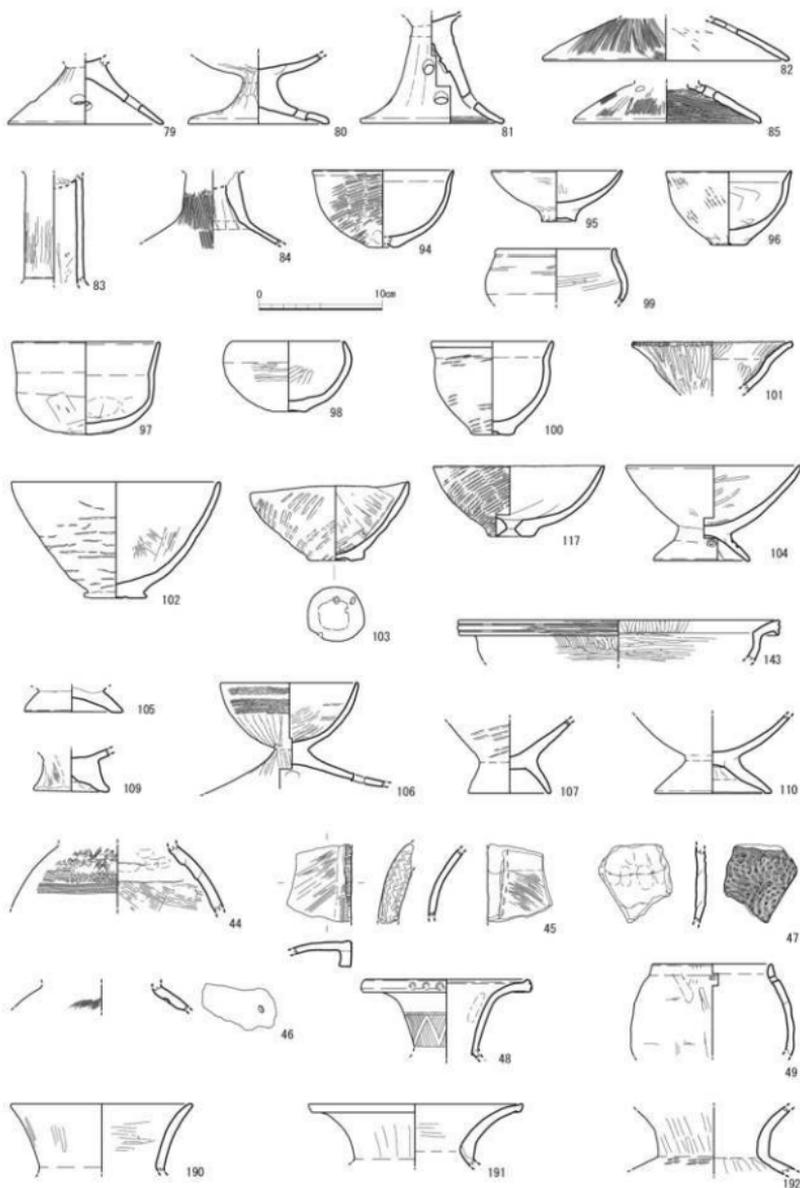


图22 出土遺物(弥生土器・土師器5)実測図(S=1/4) 100自然流路第7層出土: 44~49, 79~85, 94~107, 109, 110, 117, 143、100自然流路第6層下部出土: 190~192

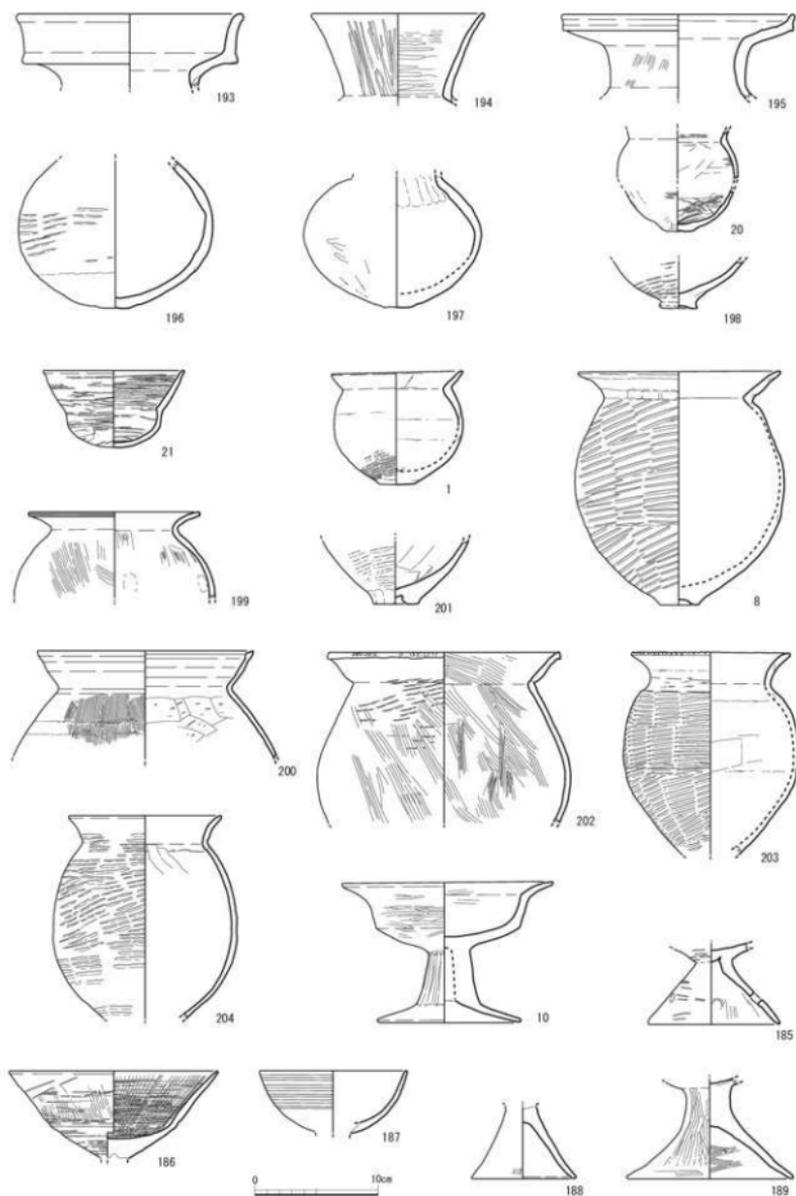


圖23 出土遺物(弥生土器・土師器6)実測図(S=1/4)、100自然流路第6層下部出土

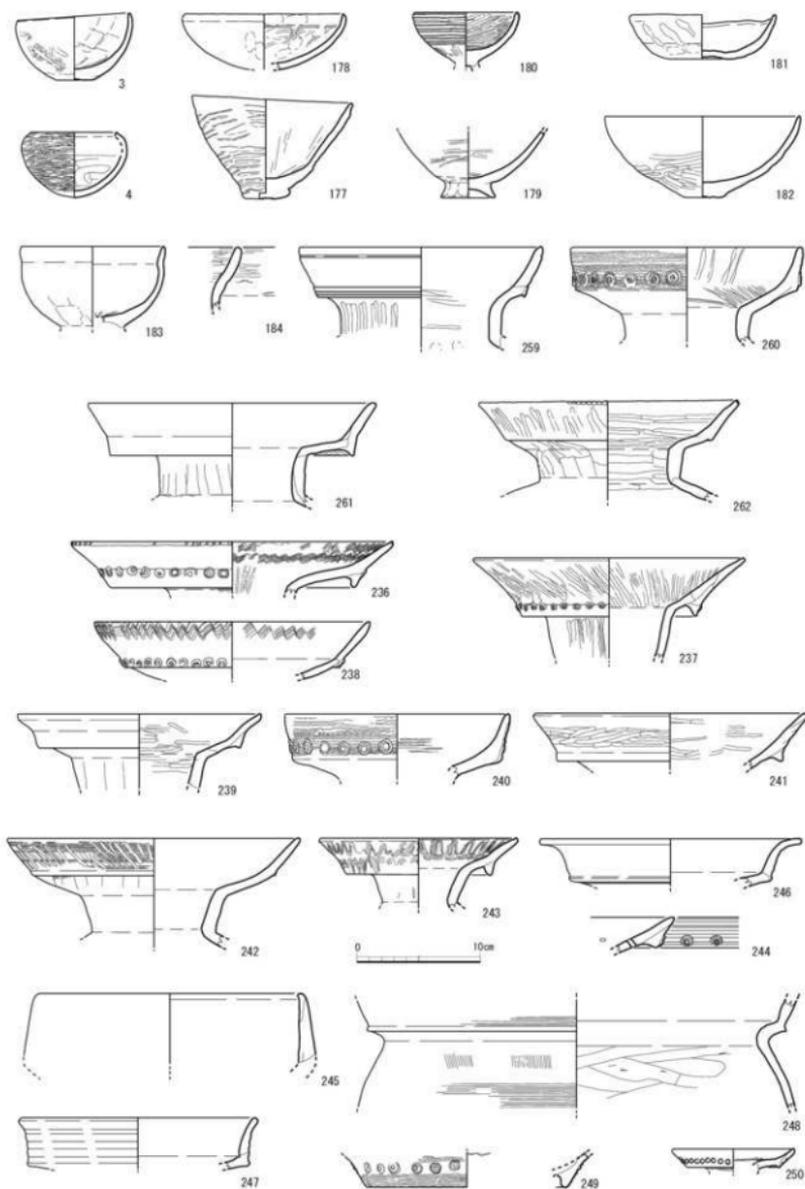


图24 出土遺物(弥生土器・土師器7)実測図(S=1/4)

100自然流路第6層下部出土: 3, 4, 177~184、100自然流路第6層出土: 236~250, 259~262

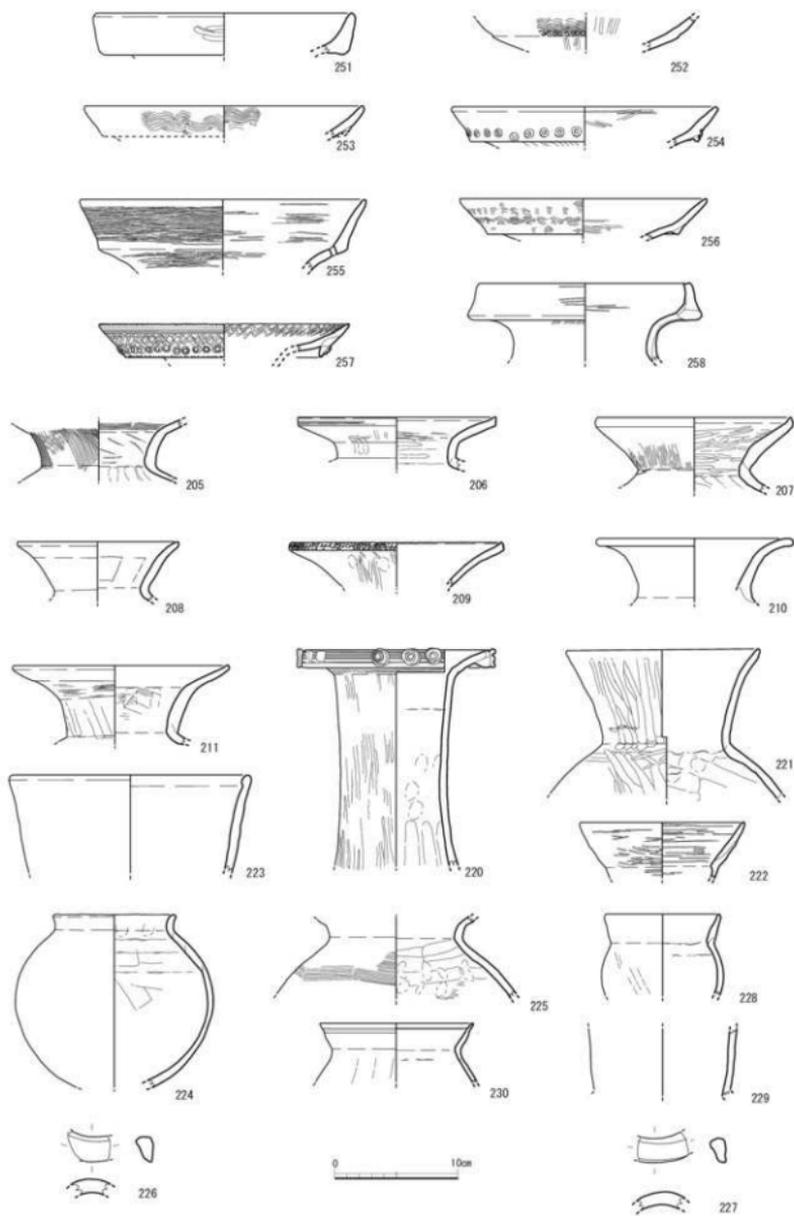


圖25 出土遺物（弥生土器・土師器8）実測圖（S=1/4）、100自然流路第6層出土

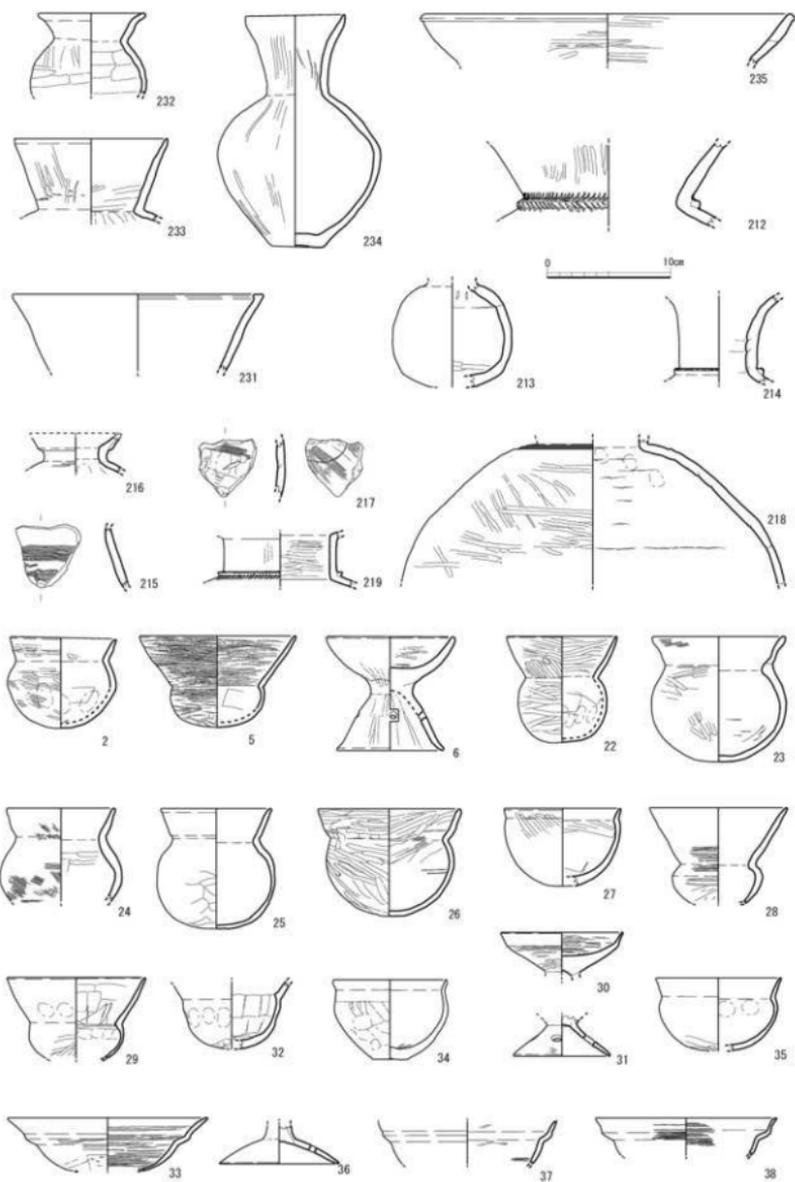


図26 出土遺物（弥生土器・土師器 9）実測図（S=1/4）、100自然流路第6層出土
 ※33のみ排土（主に100自然流路第6～7層）出土

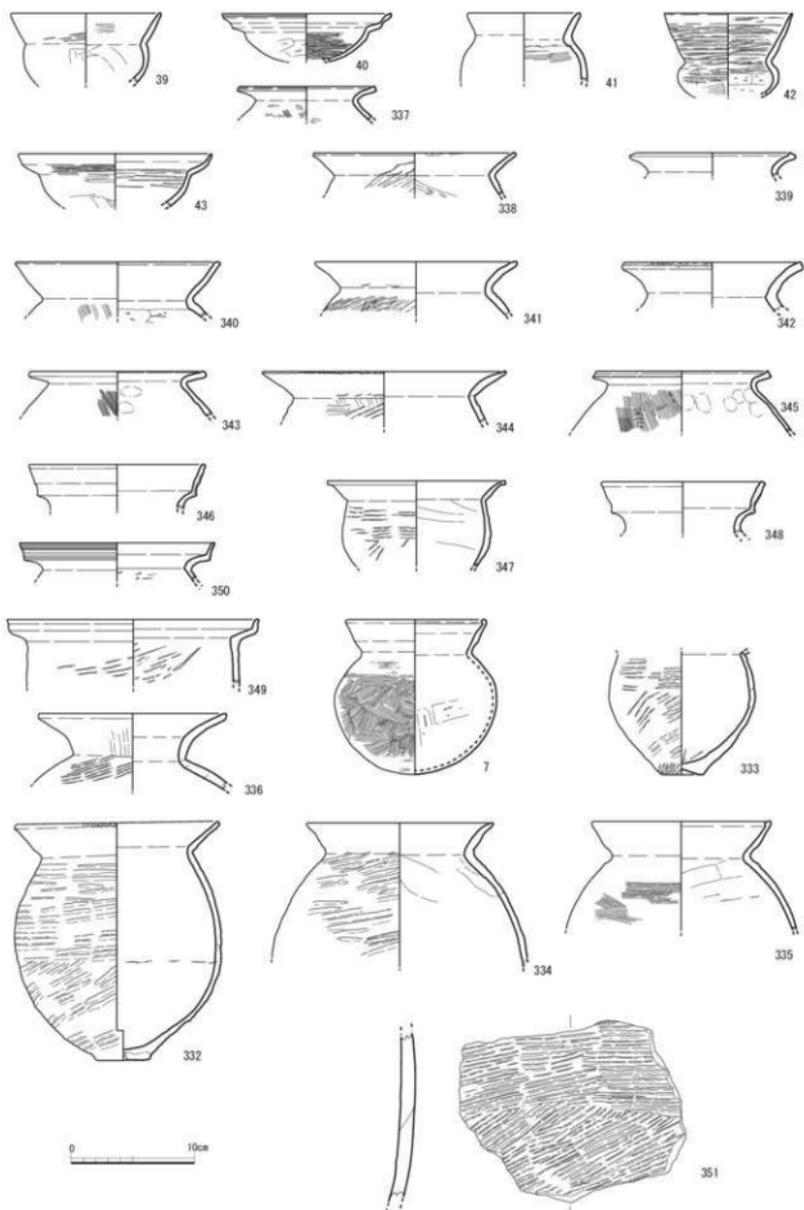


圖27 出土遺物（弥生土器・土師器10）実測圖（S=1/4）、100自然流路第6層出土

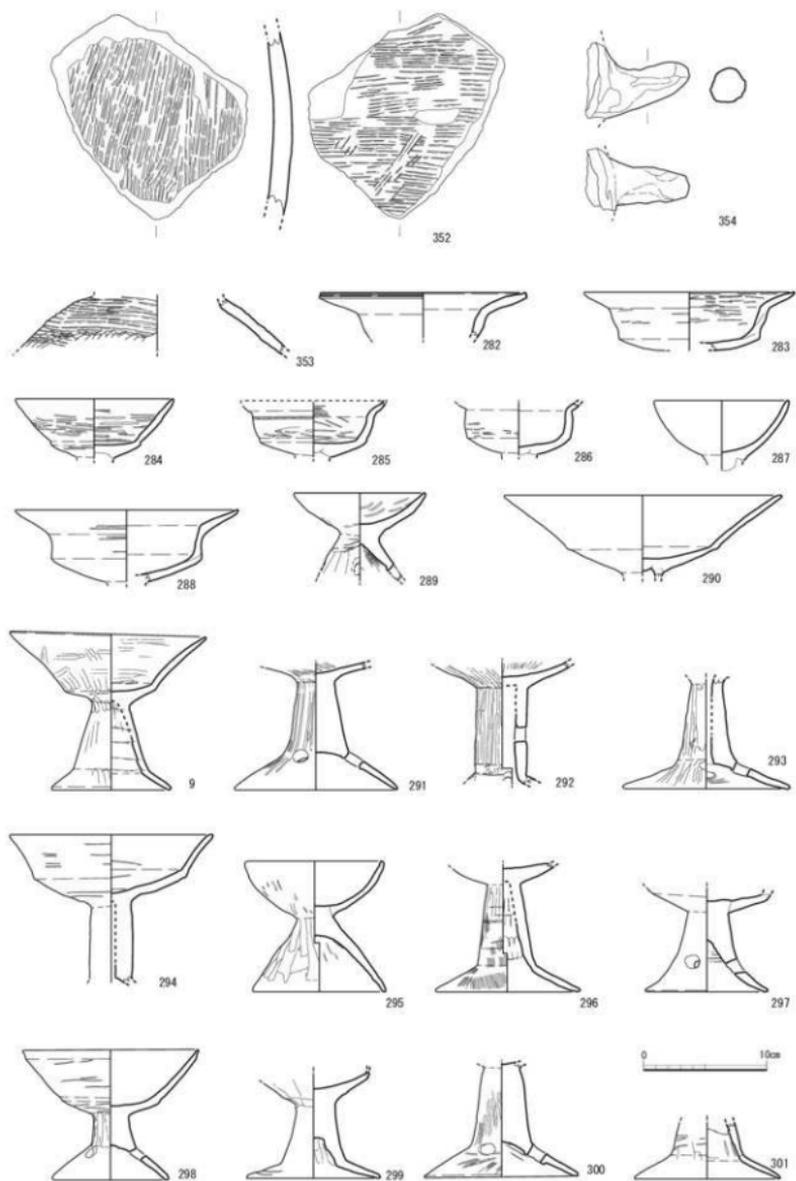


图28 出土遺物(弥生土器・土師器11)実測図(S=1/4)、100自然流路第6層出土

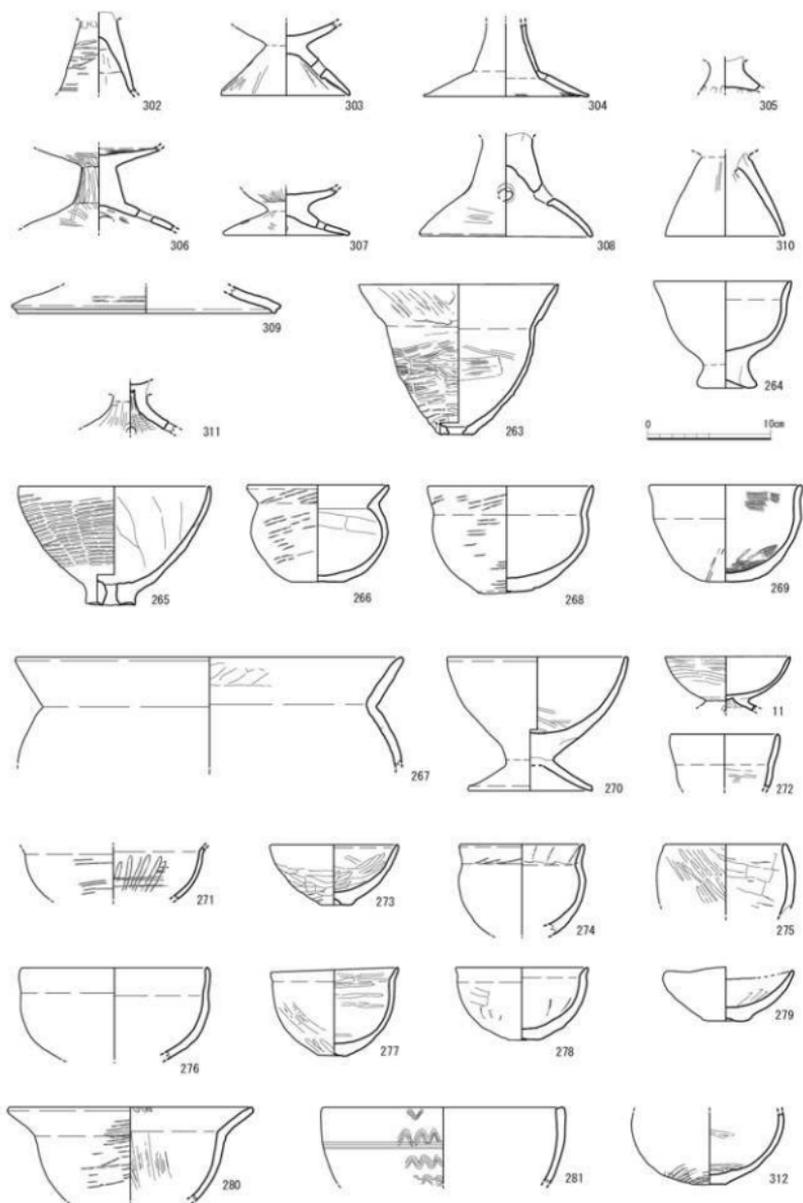


图29 出土遺物(弥生土器・土師器12)実測図(S=1/4)、100自然流路第6層出土

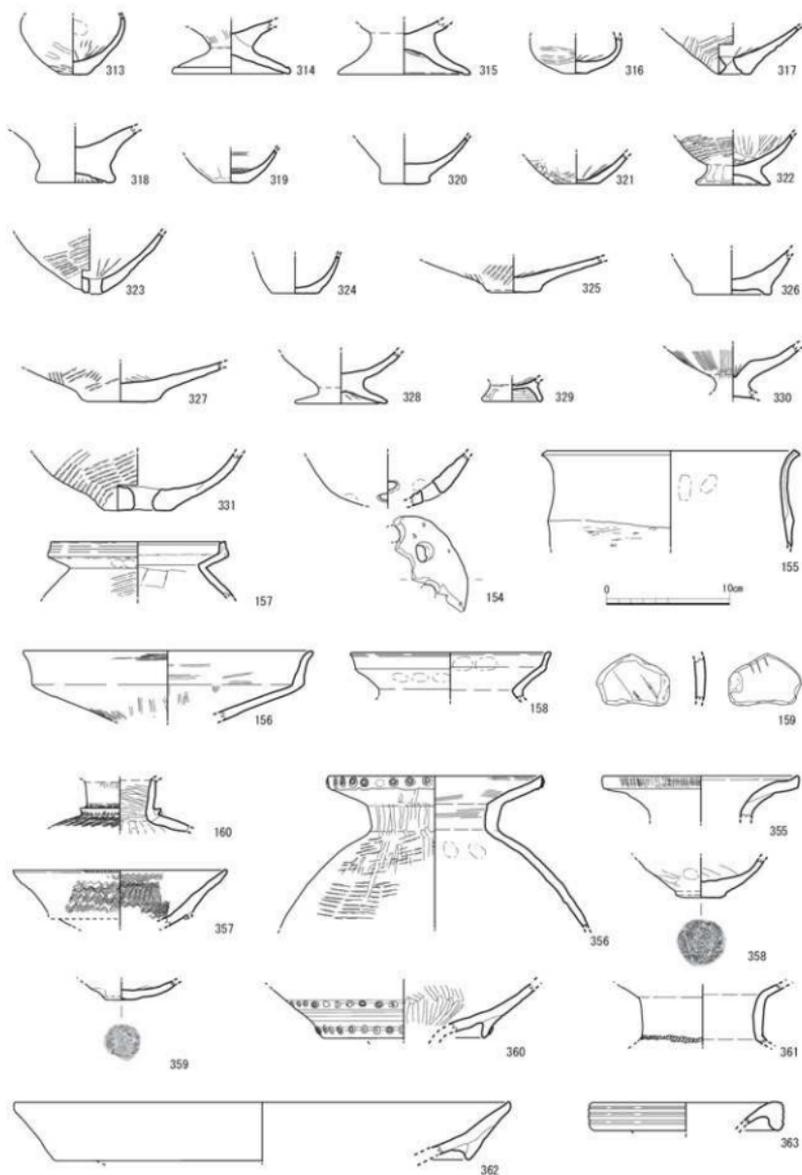


図30 出土遺物(弥生土器・土師器13)実測図(S=1/4) 100自然流路第6層出土: 313~331、
 排土(主に100自然流路第6~7層)出土: 154~160、100自然流路第5層出土: 355~363

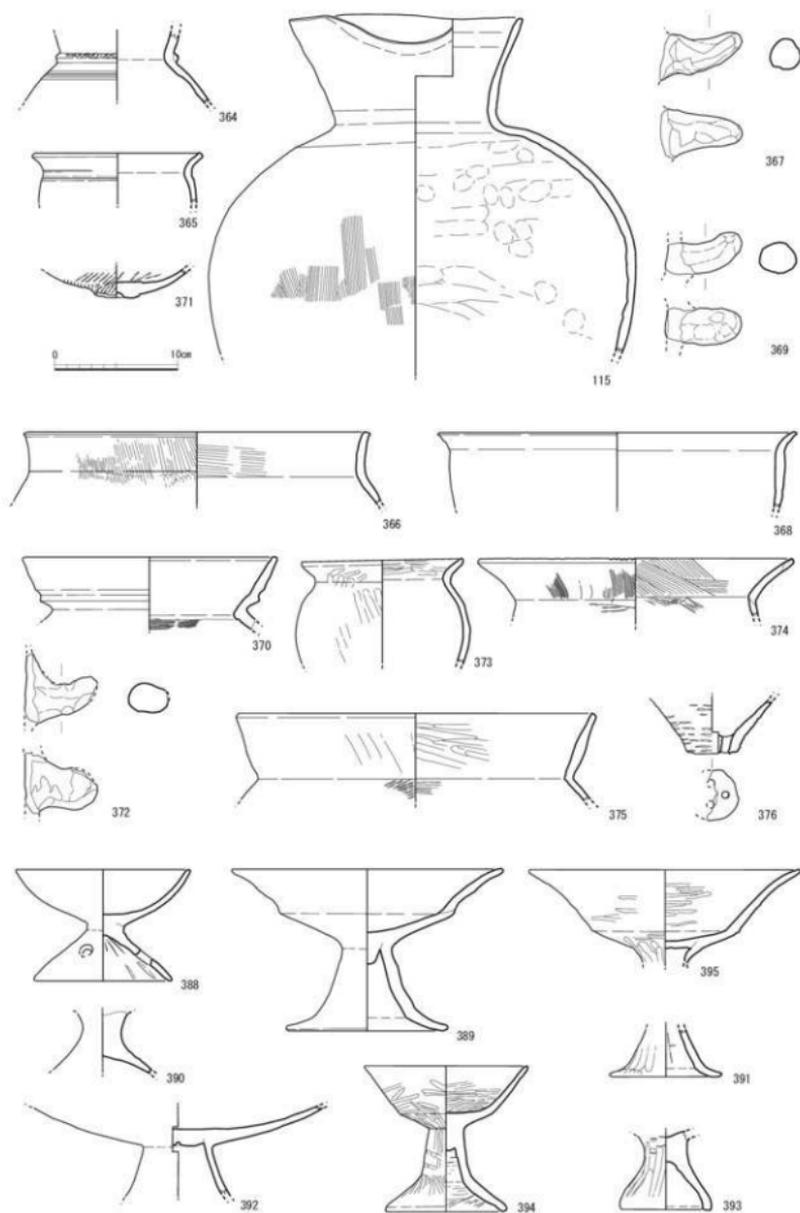


圖31 出土遺物（弥生土器・土師器14）実測圖（S=1/4）、100自然流路第5層出土

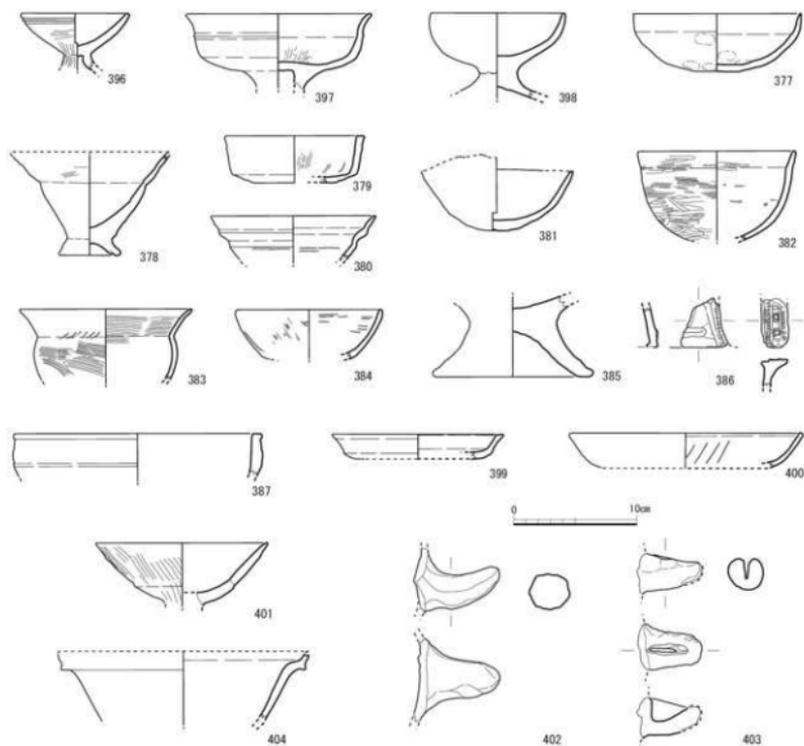


図32 出土遺物（弥生土器・土師器15）実測図（S=1/4）
 100自然流路第5層出土：377～387、396～398、
 100自然流路第3～4層出土：399～404

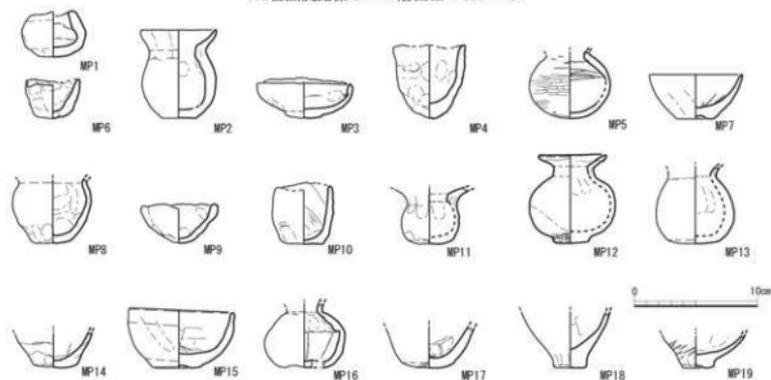


図33 出土遺物（ミニチュア土器）実測図（S=1/4）

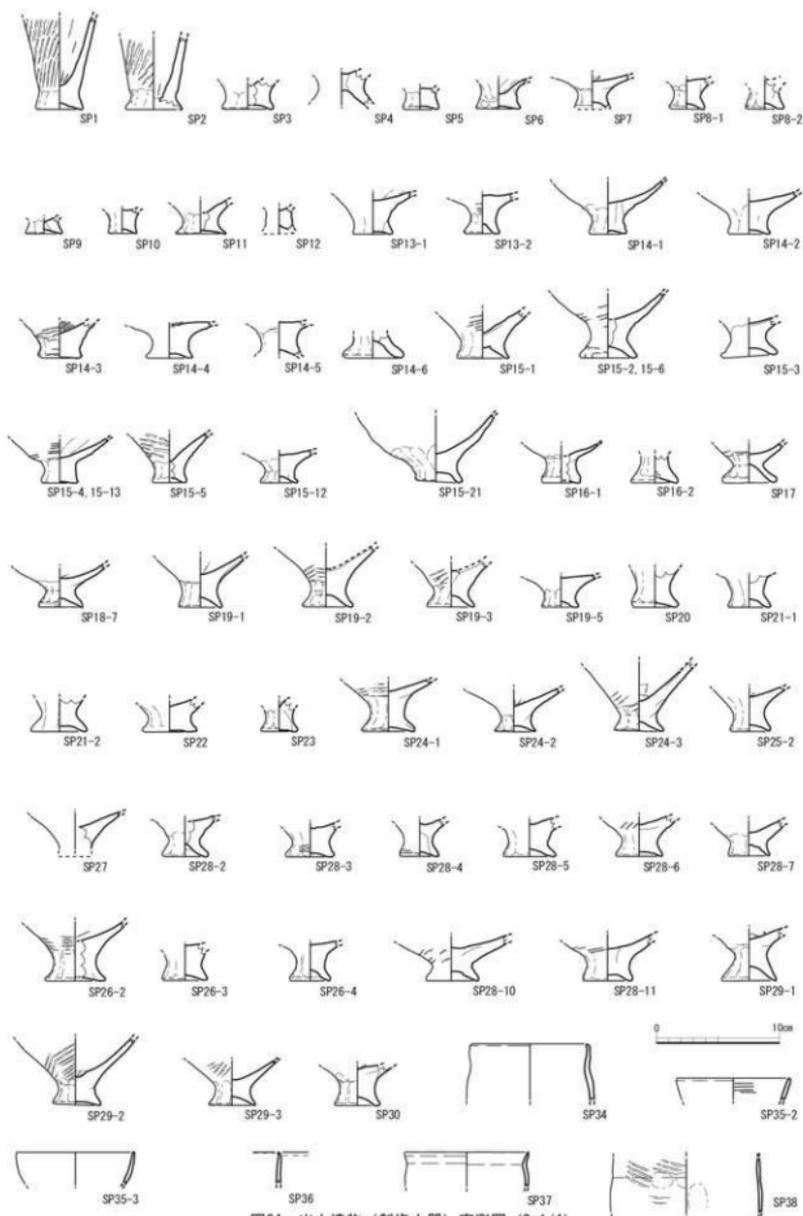


圖34 出土遺物（製埴土器）實測圖（S=1/4）

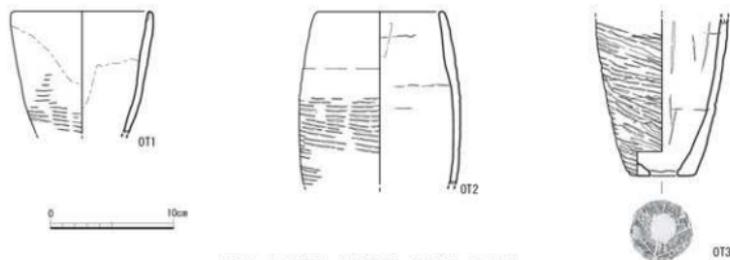


图35 出土遺物（真蛸壺）実測図（S=1/4）

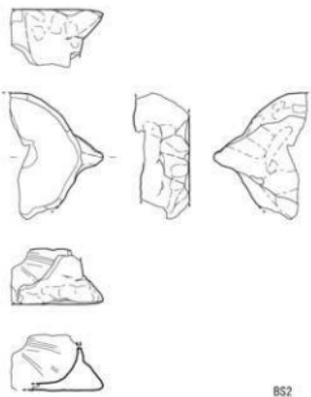
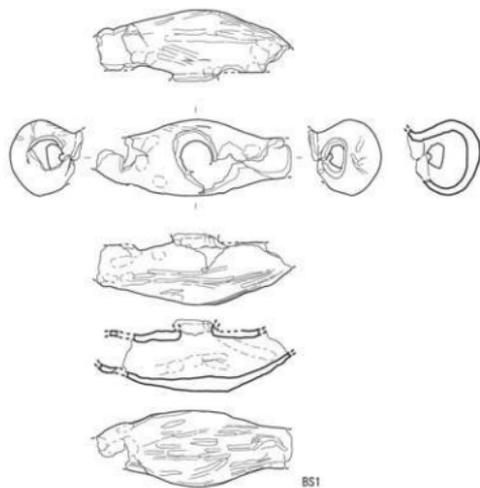


图36 出土遺物（鳥形土器）実測図（S=1/4）

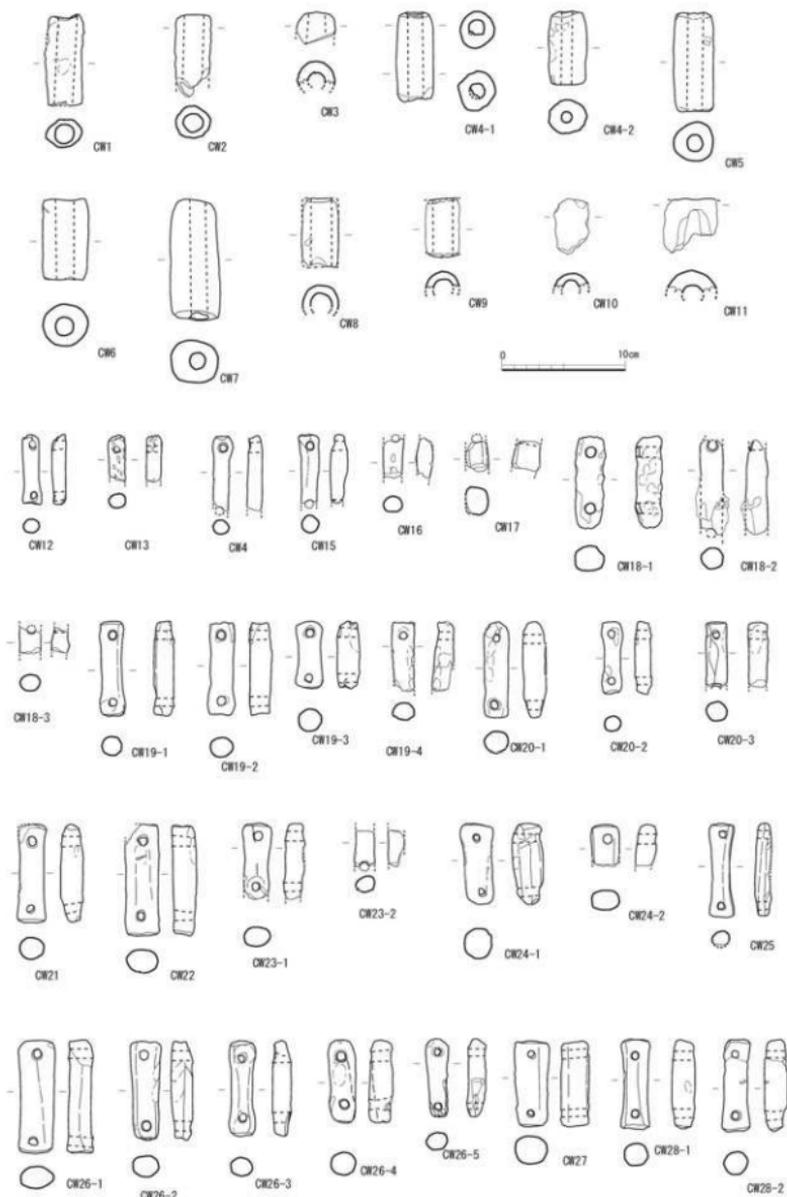


图37 出土遺物（土鍾1）実測図（S=1/4）

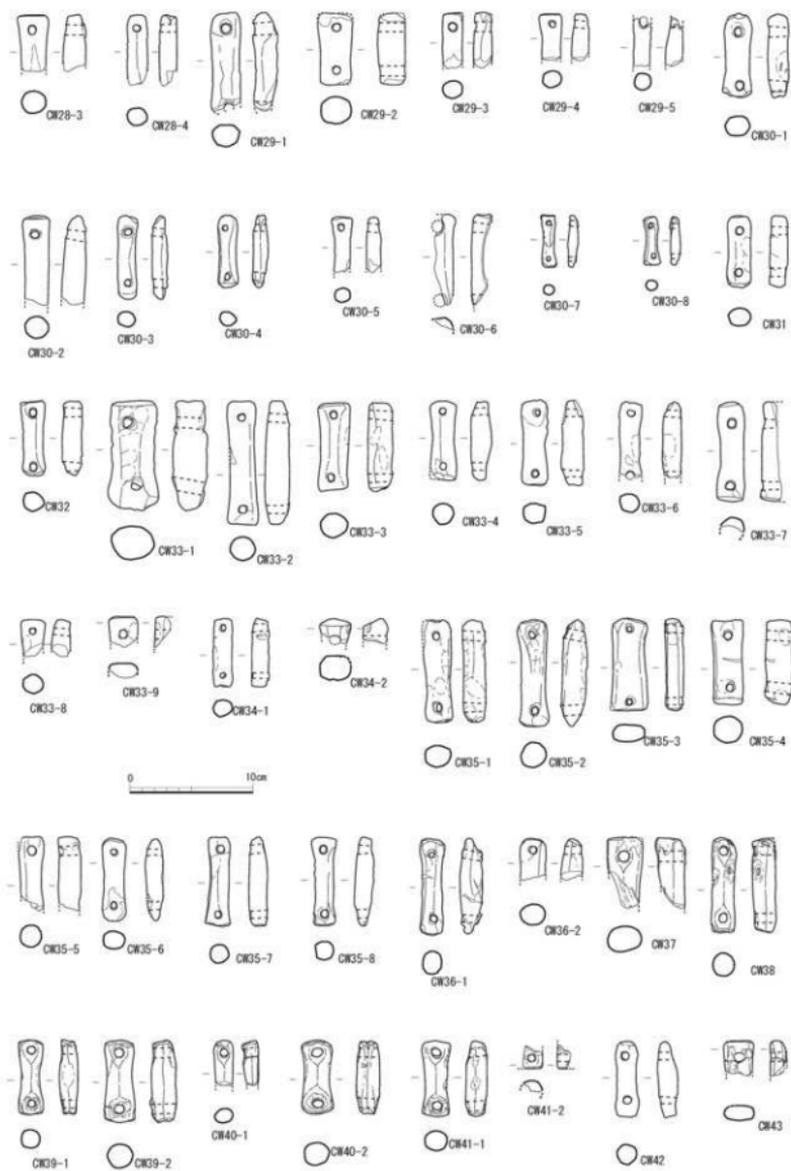


図38 出土遺物（土鍾2）実測図（S=1/4）

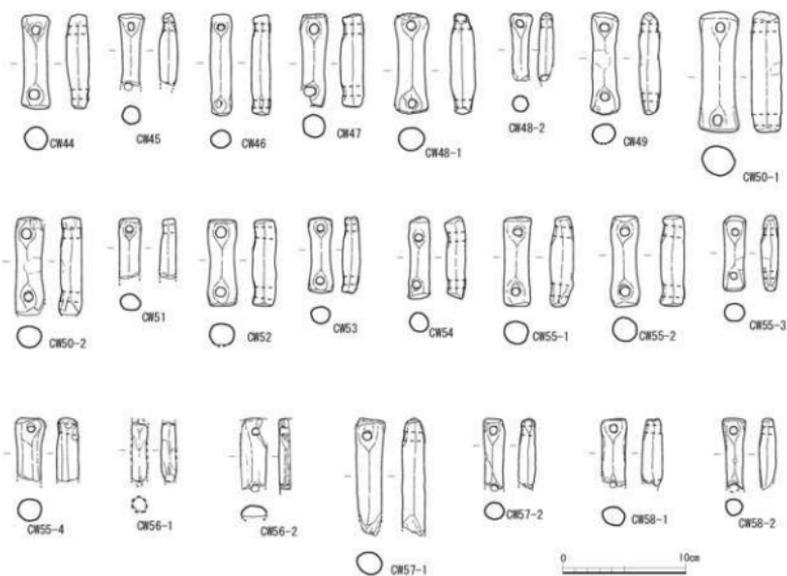


図39 出土遺物（土鍾3）実測図（S=1/4）

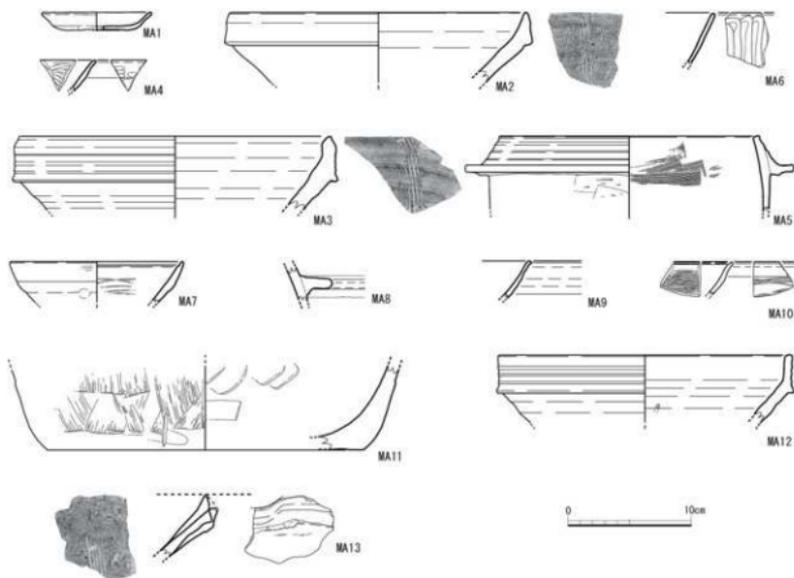


図40 出土遺物（中世）実測図（S=1/4）

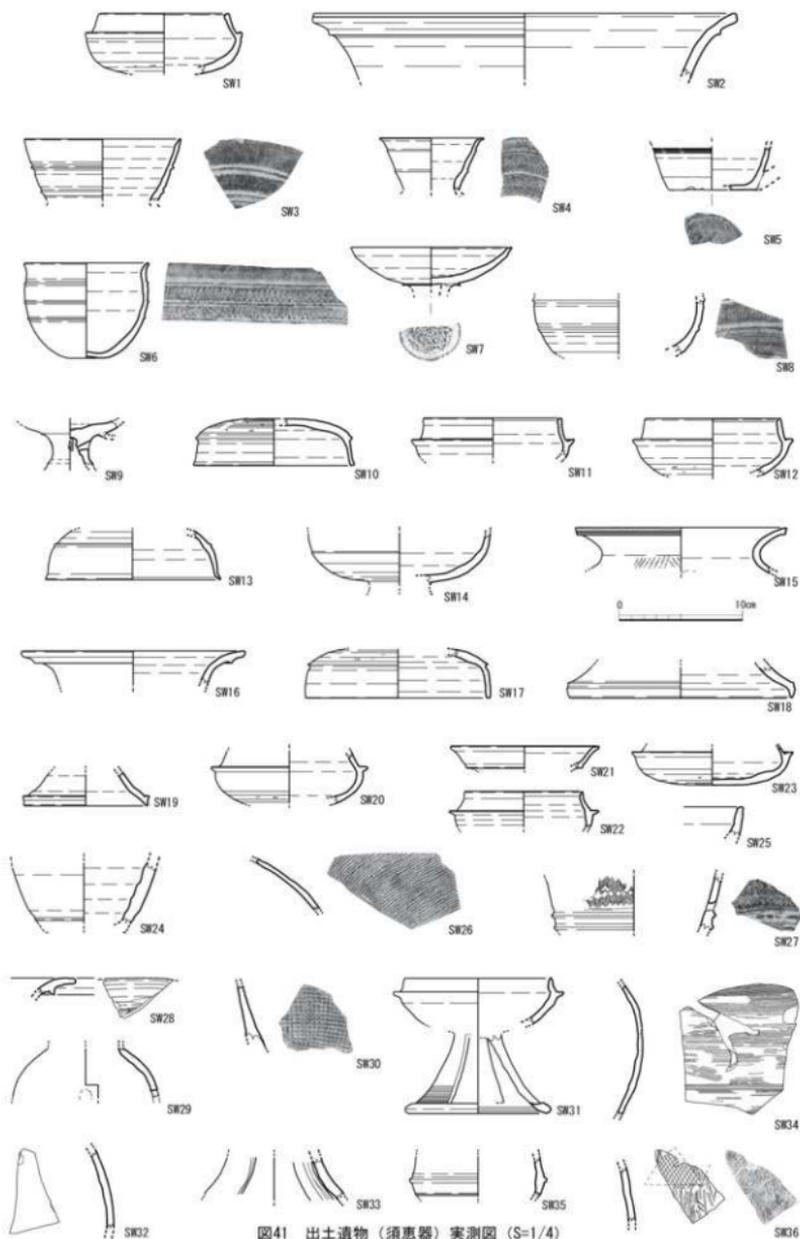


图41 出土遺物(須惠器)実測図(S=1/4)

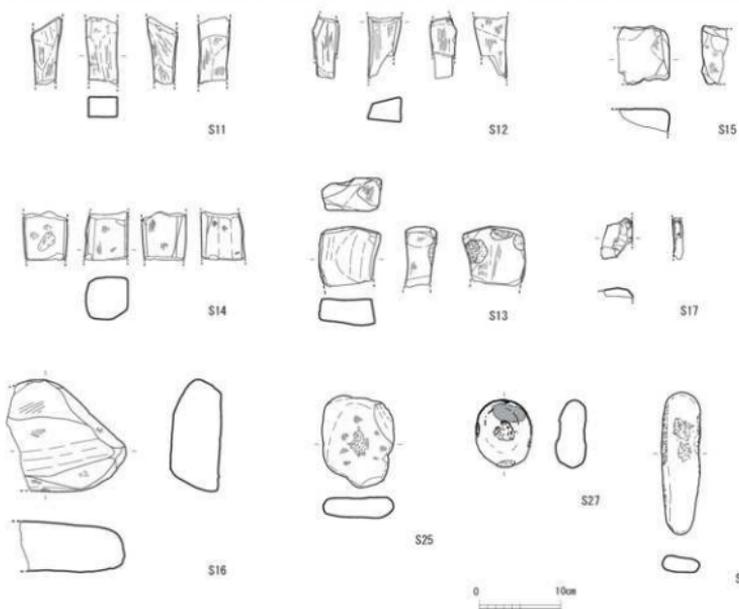
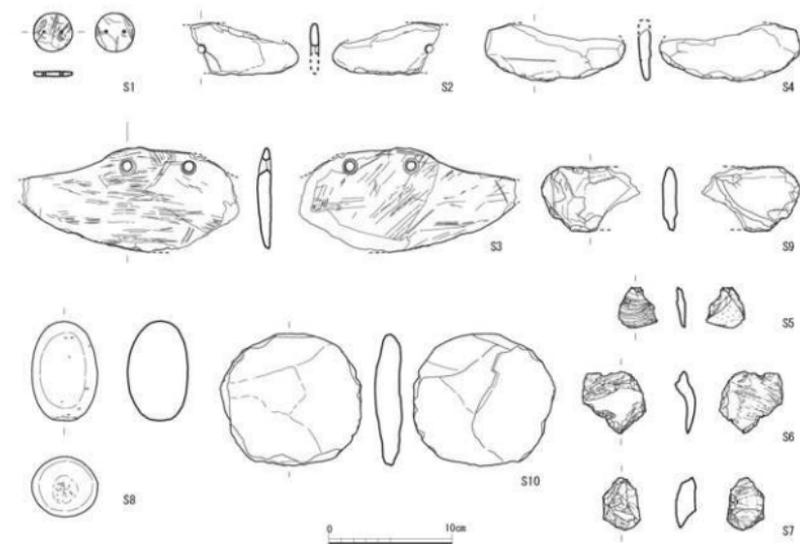


图42 出土遺物（石製品）実測図 (S=1/4・S=1/6)

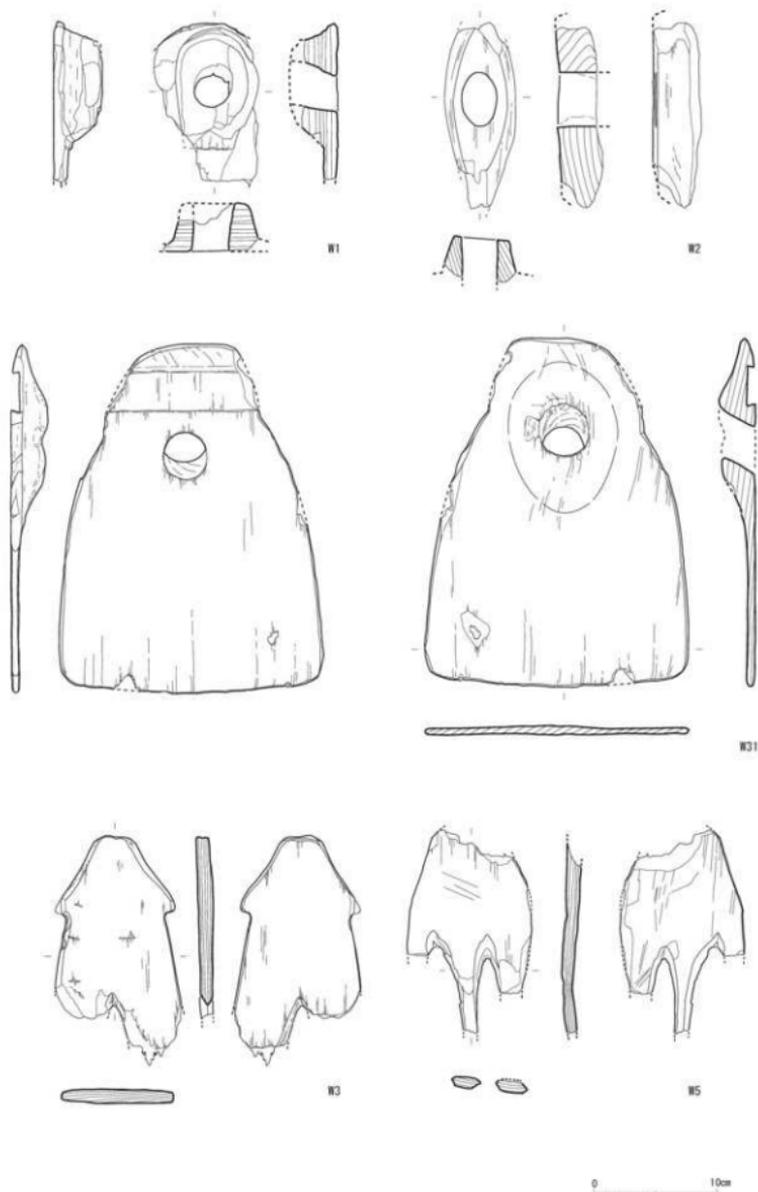


圖43 出土遺物（木製品1）実測圖（S=1/4）

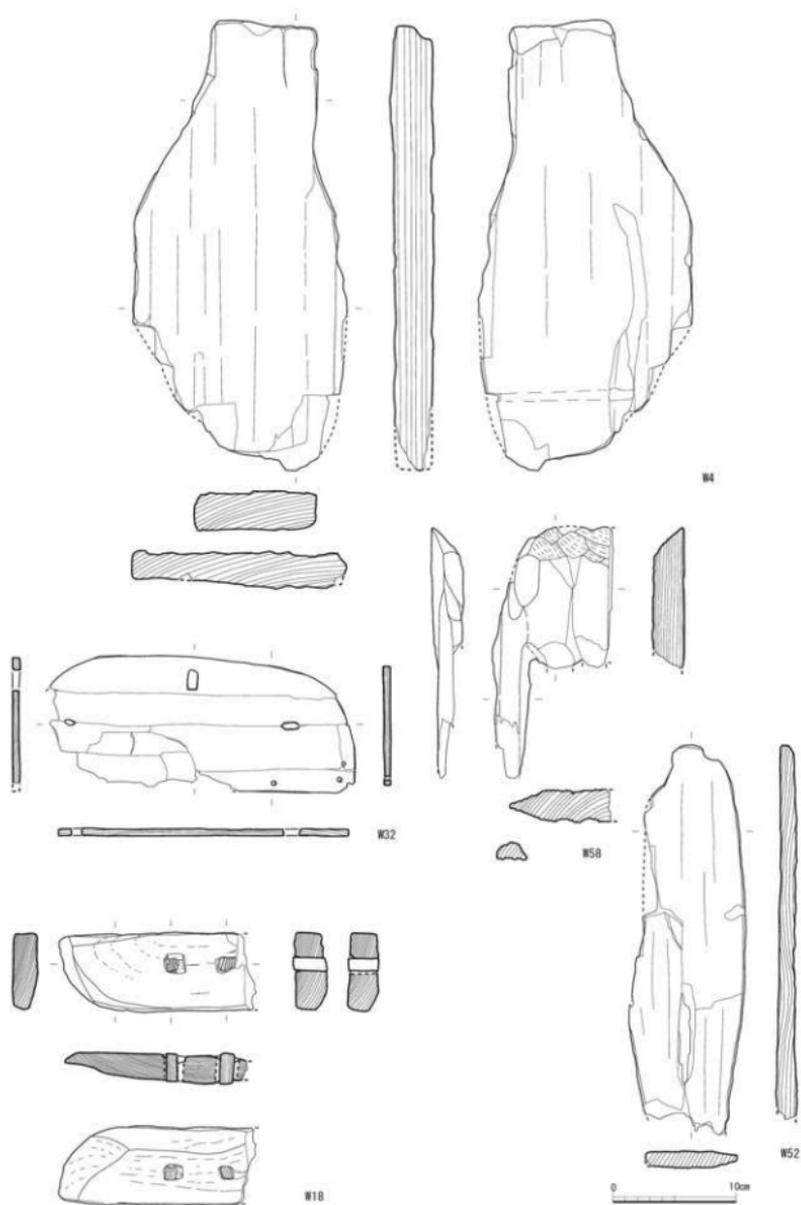


図44 出土遺物(木製品2)実測図 (S=1/4)

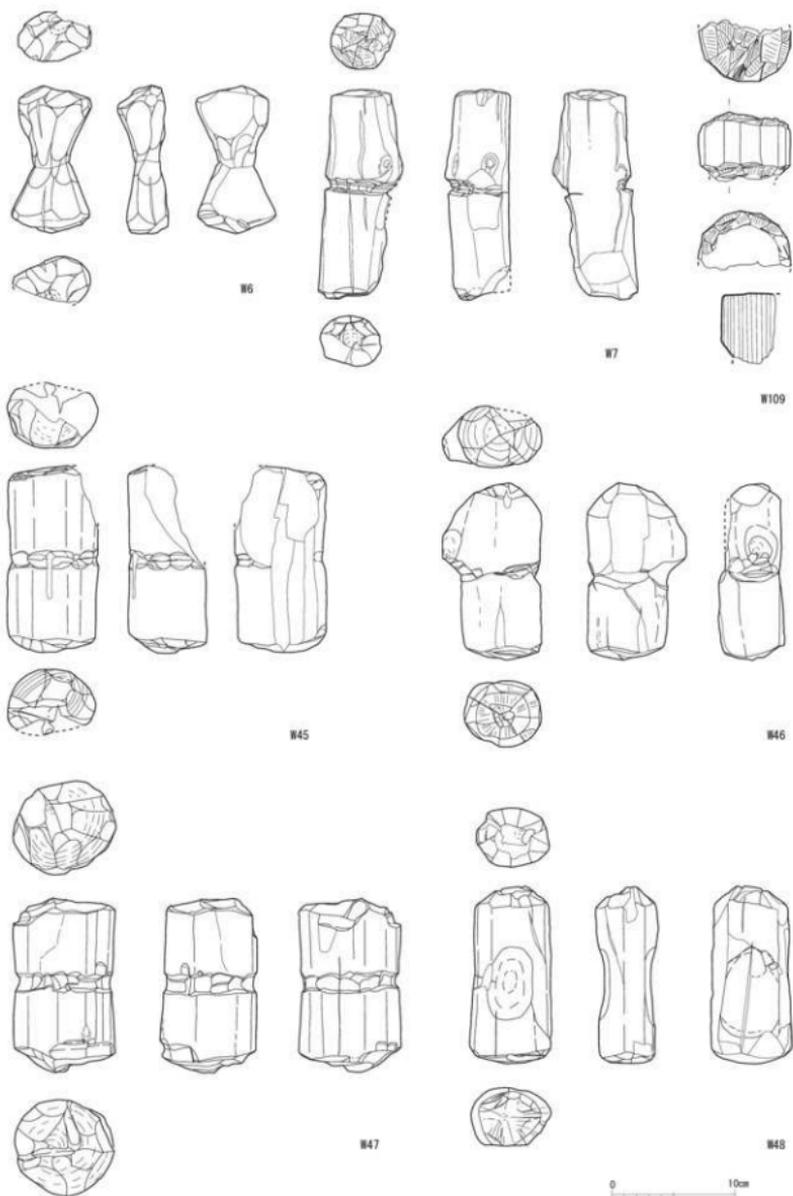


圖45 出土遺物（木製品3）実測圖（S=1/4）

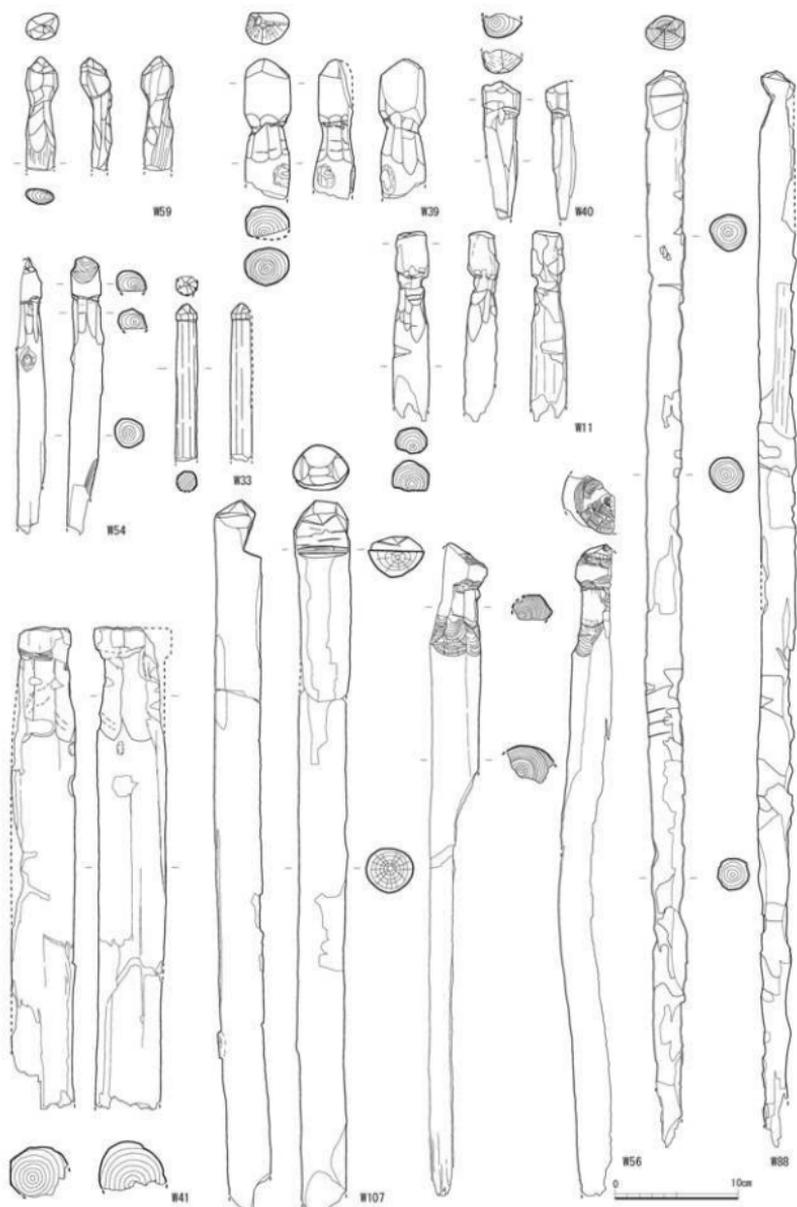


圖46 出土遺物 (木製品4) 実測圖 (S=1/4)

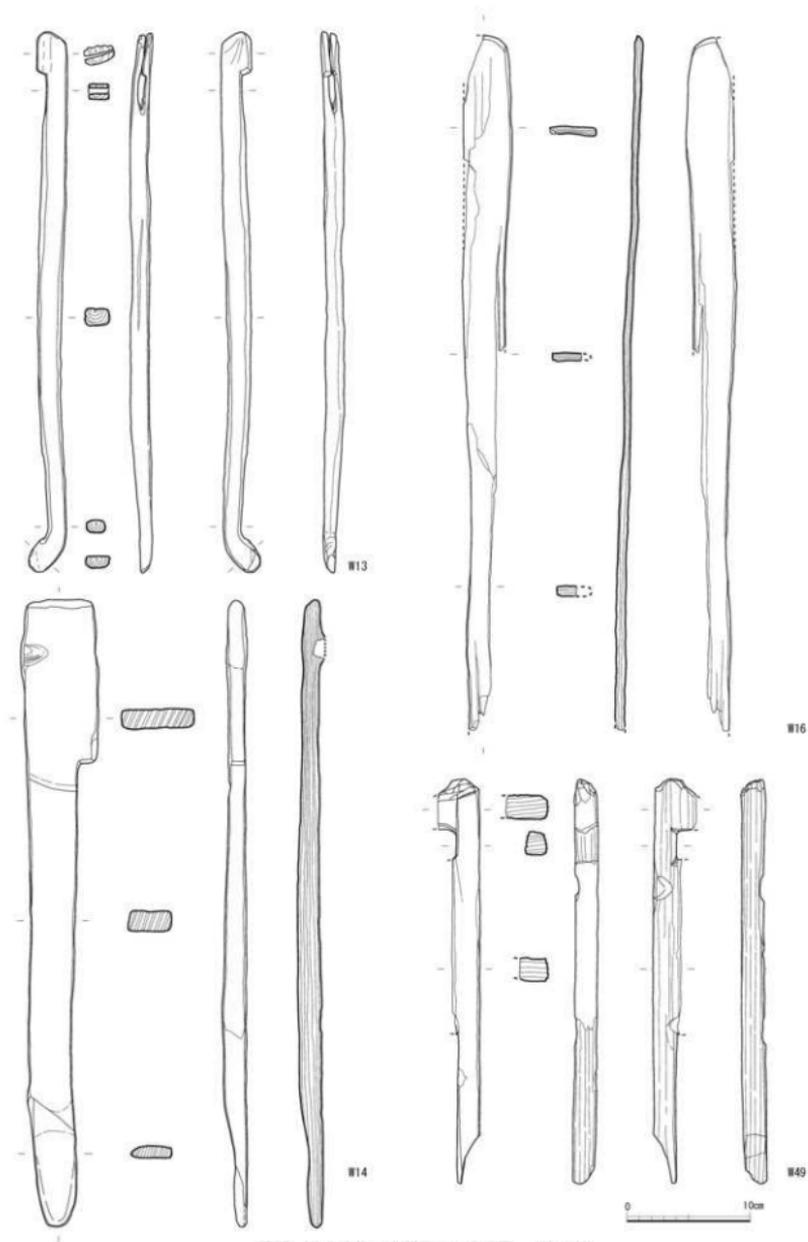


図47 出土遺物(木製品5)実測図 (S=1/4)

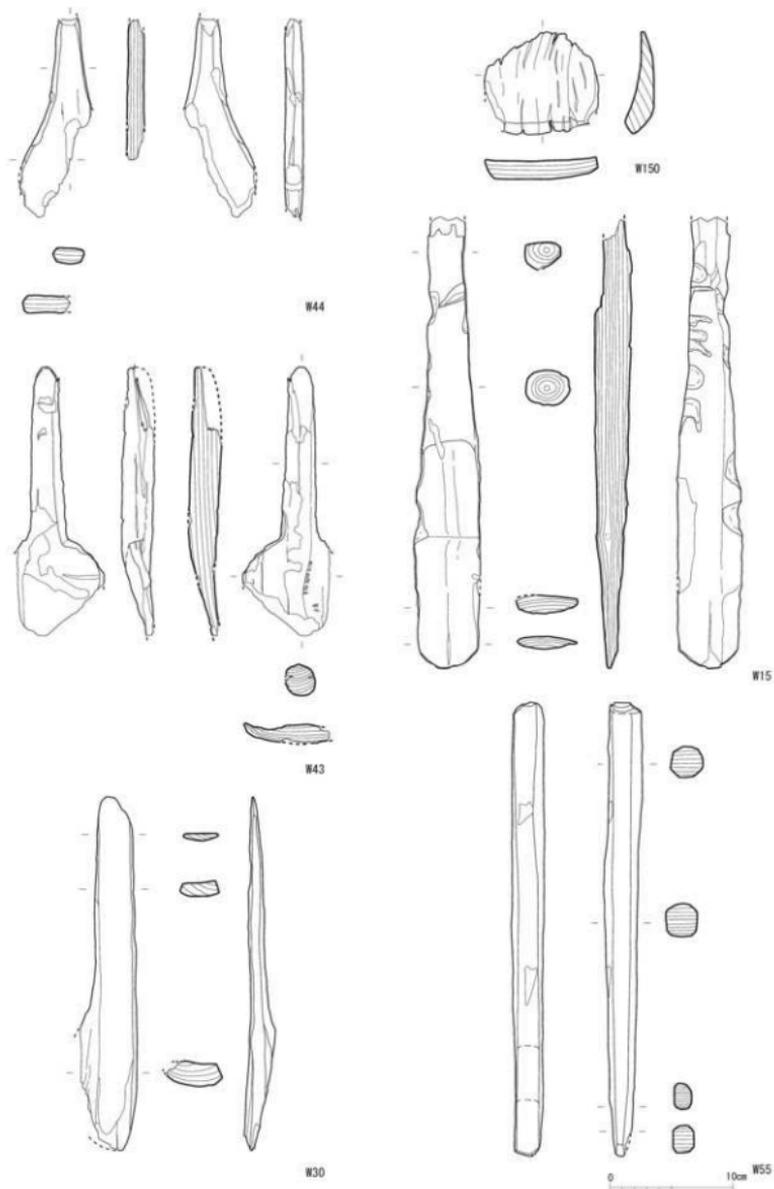


図48 出土遺物（木製品6）実測図（S=1/4）

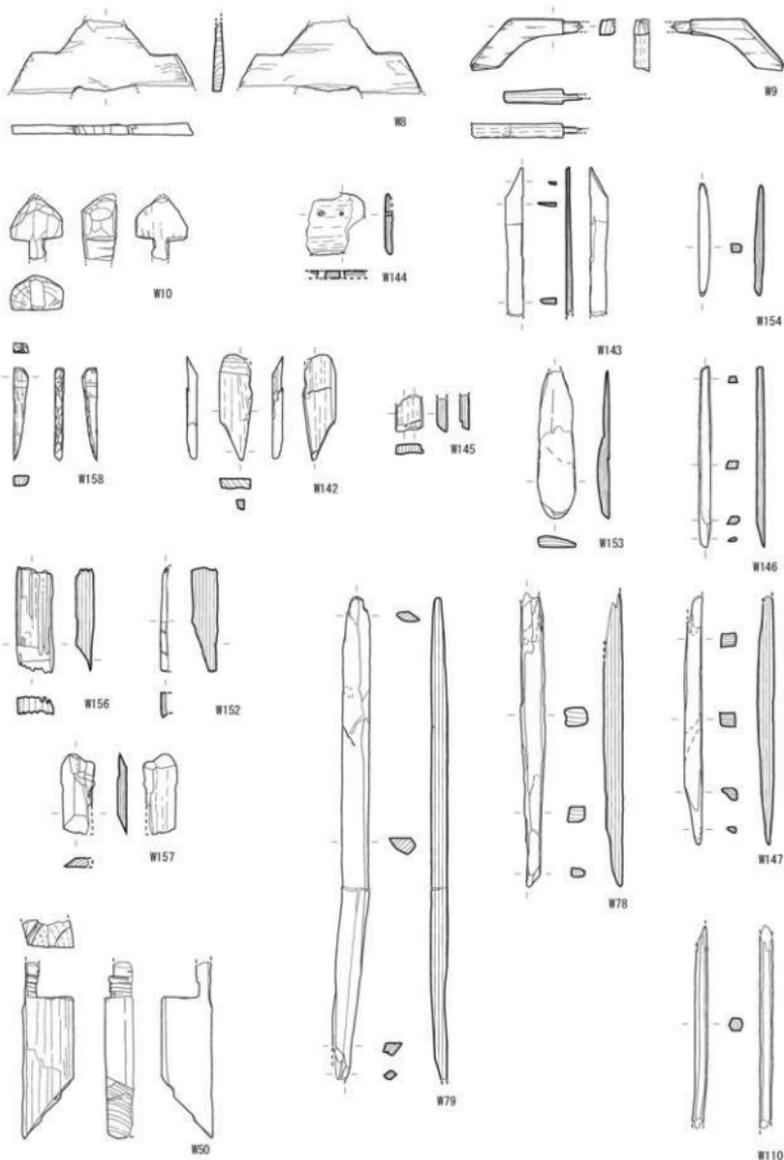


図49 出土遺物（木製品7）実測図（S=1/4）

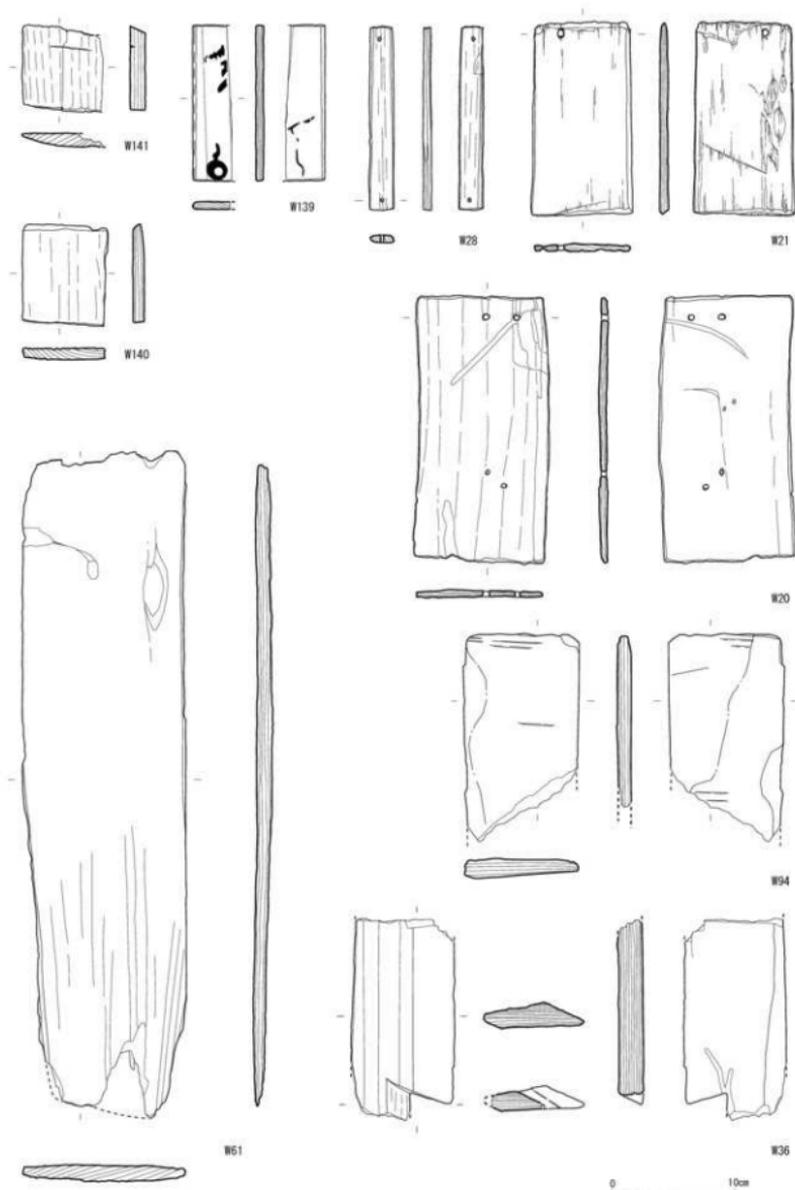


圖50 出土遺物（木製品8）実測圖（S=1/4）

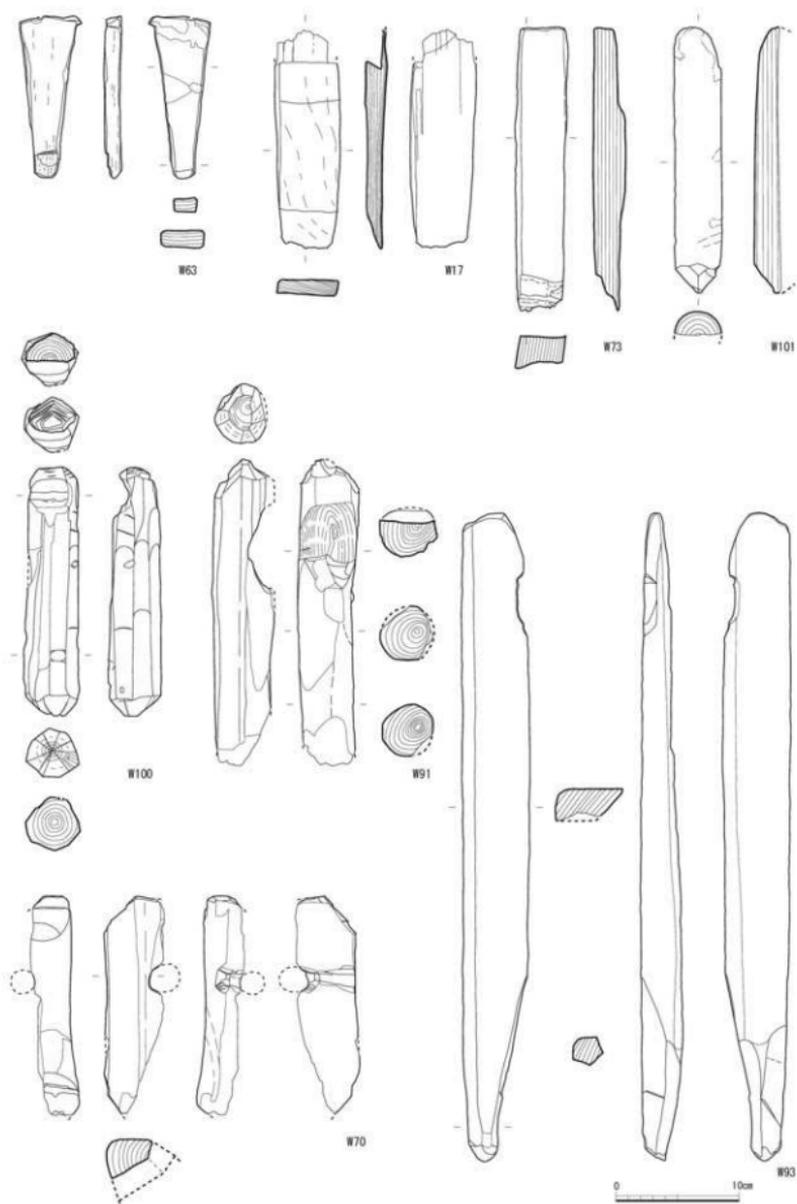


圖51 出土遺物(木製品9)実測圖 (S=1/4)

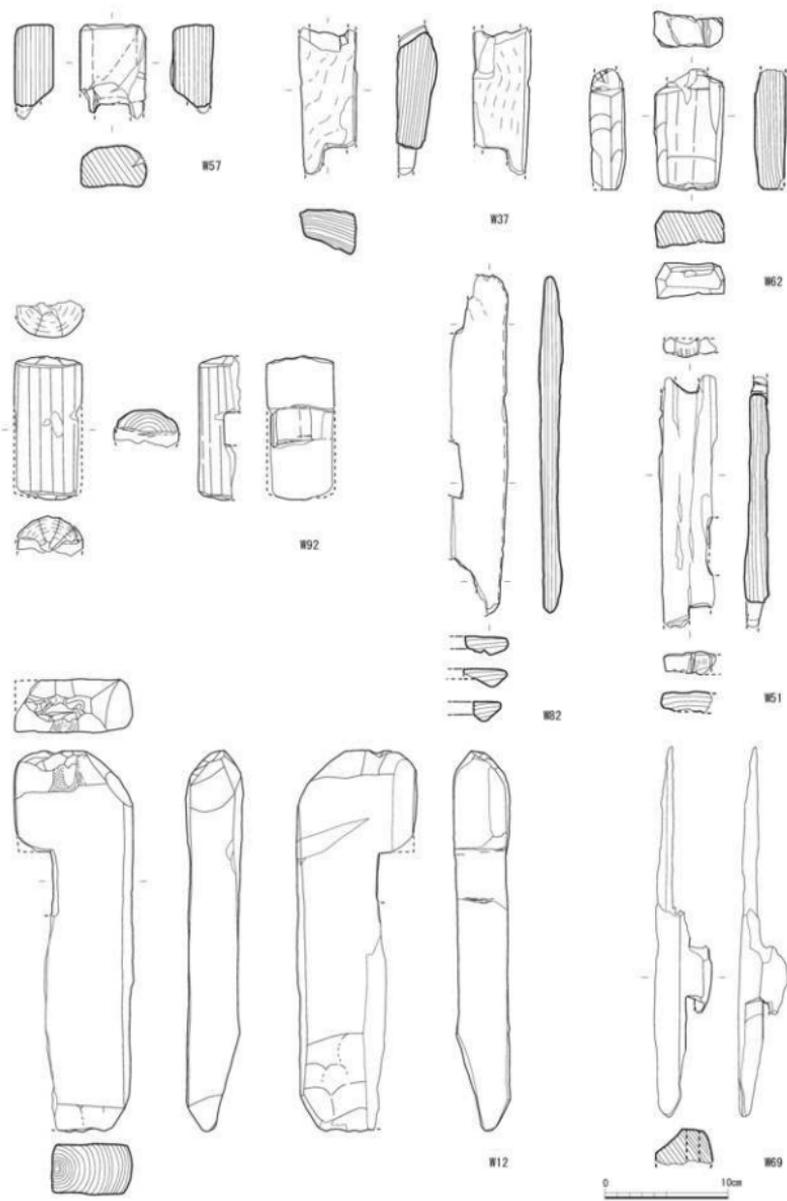


圖52 出土遺物(木製品10)実測圖 (S=1/4)

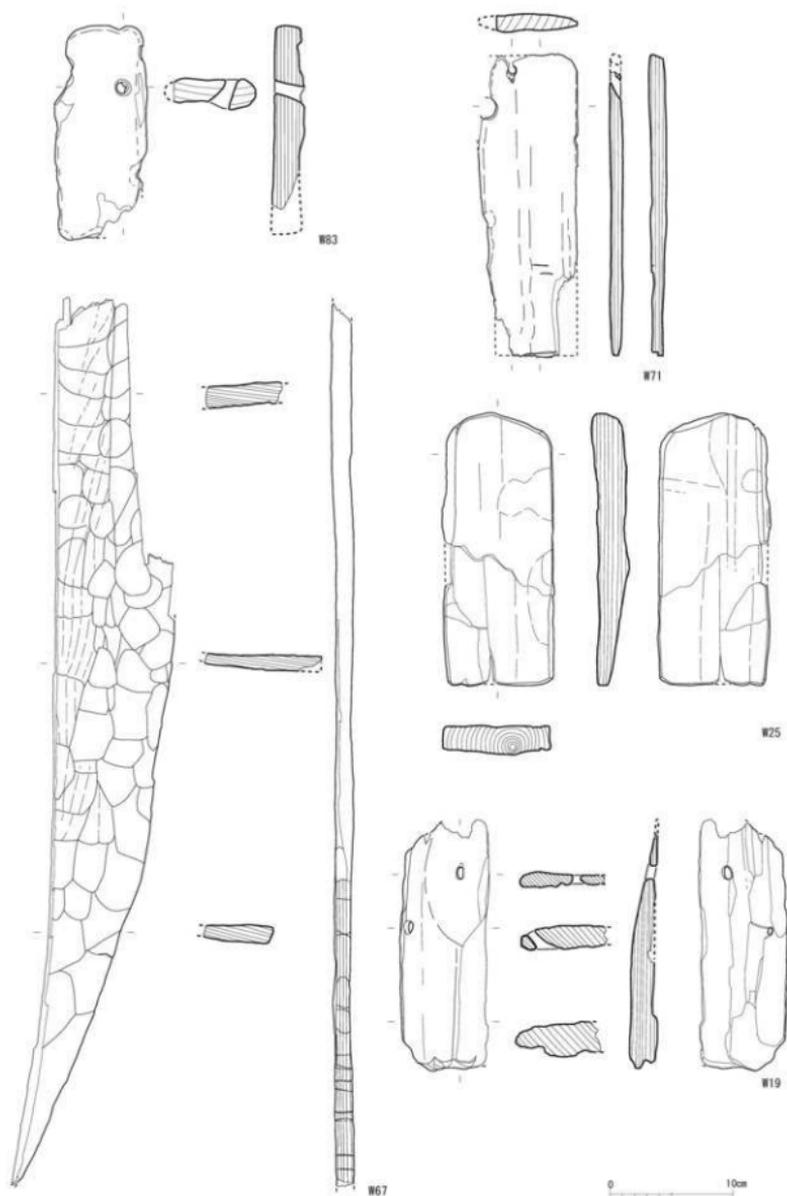


圖53 出土遺物(木製品11)実測圖 (S=1/4)

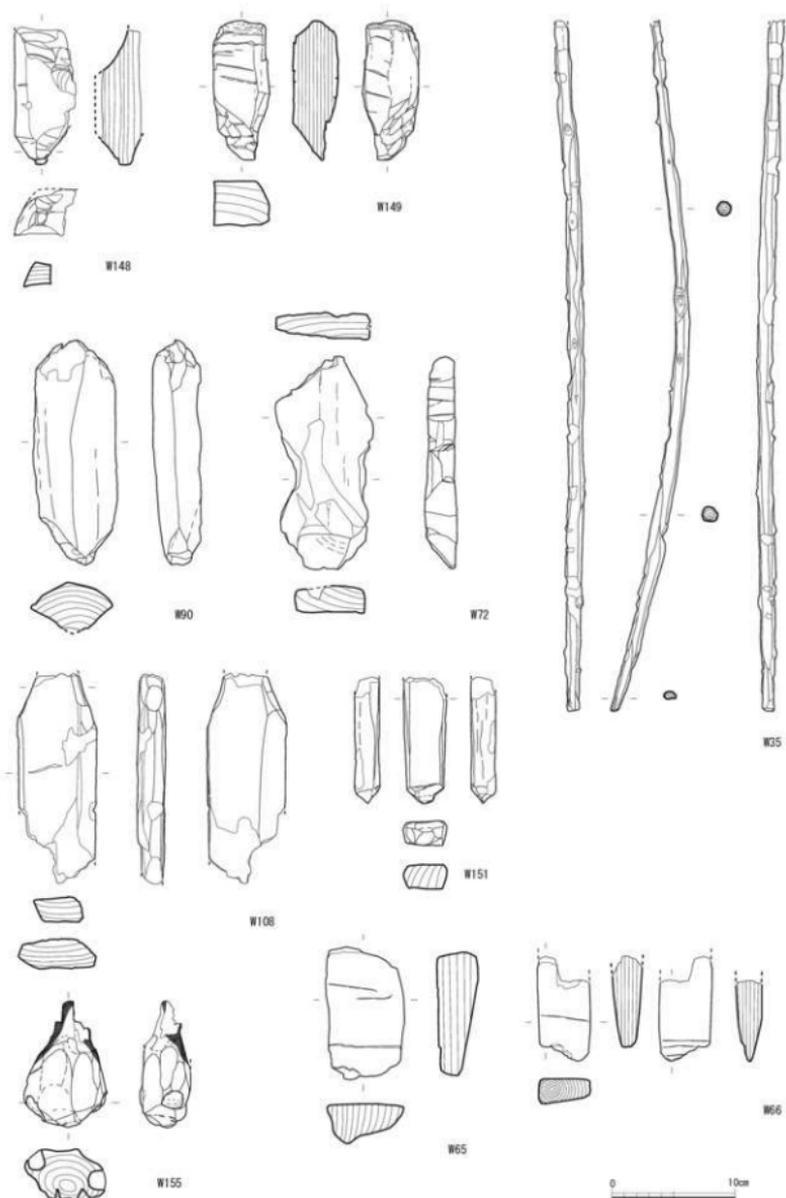


圖54 出土遺物(木製品12)実測圖 (S=1/4)

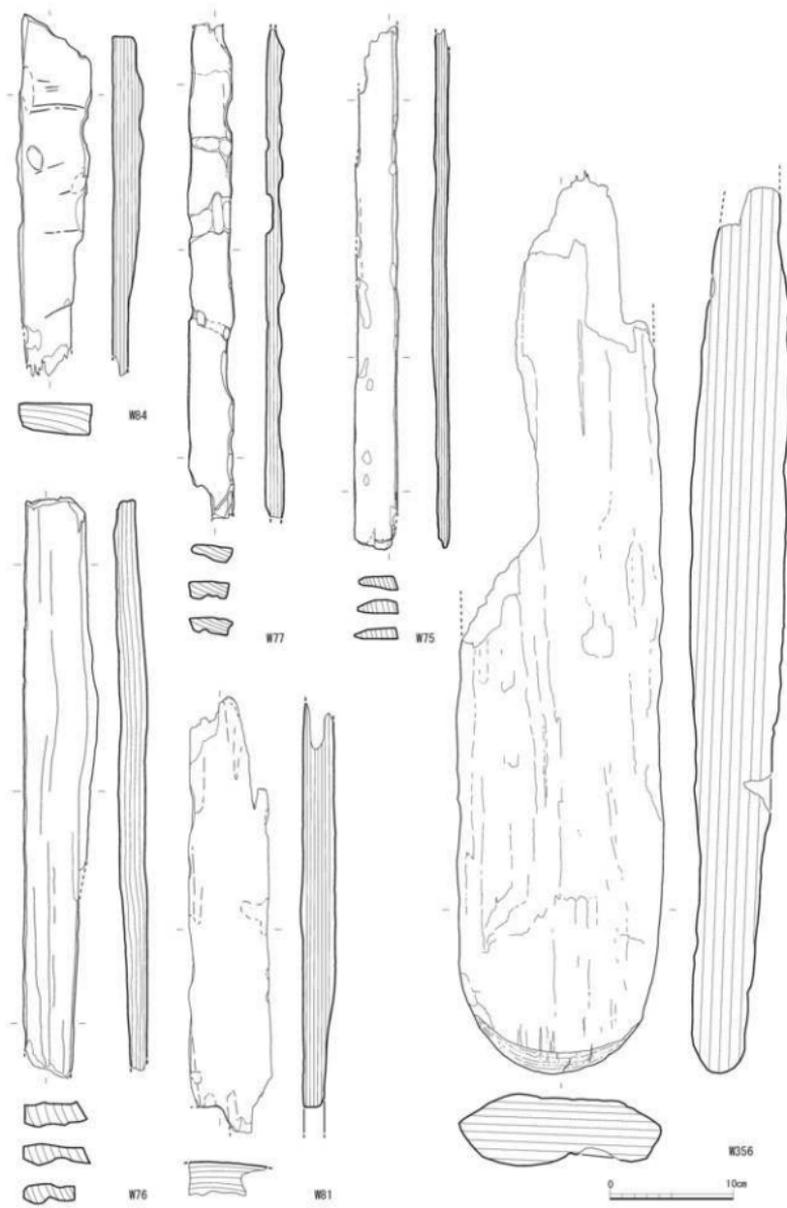


圖55 出土遺物 (木製品13) 実測図 (S=1/4)

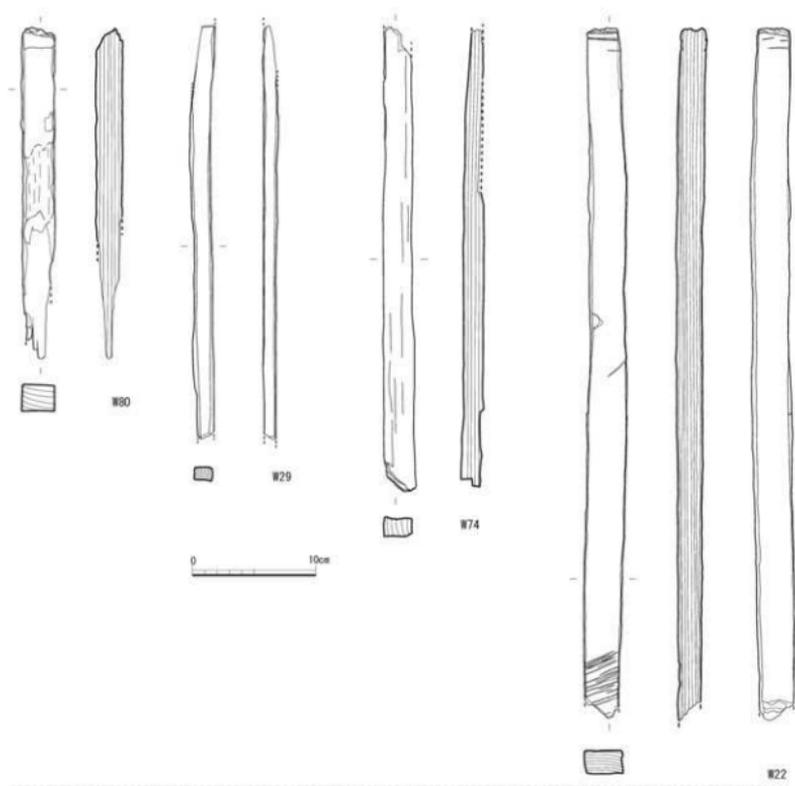


図56 出土遺物（木製品14）実測図（S=1/4・1/2）

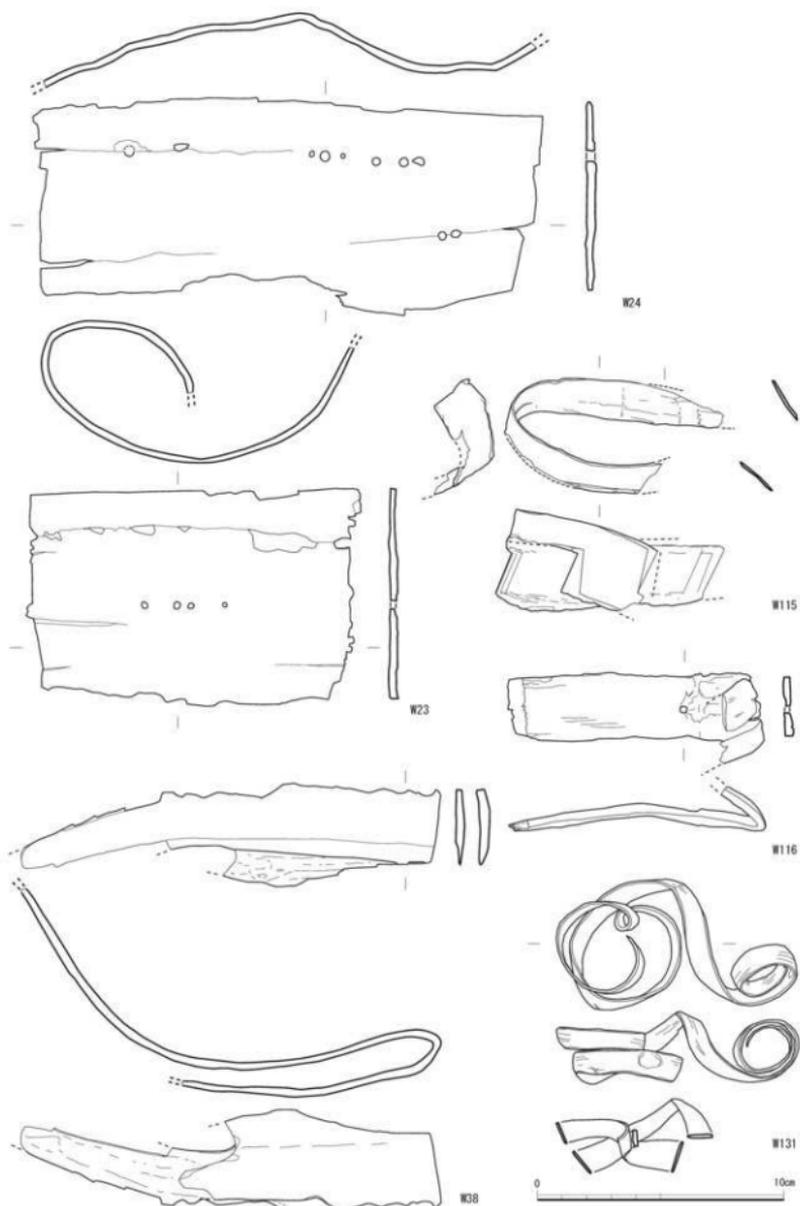


圖57 出土遺物(木製品15)実測圖 (S=1/2)

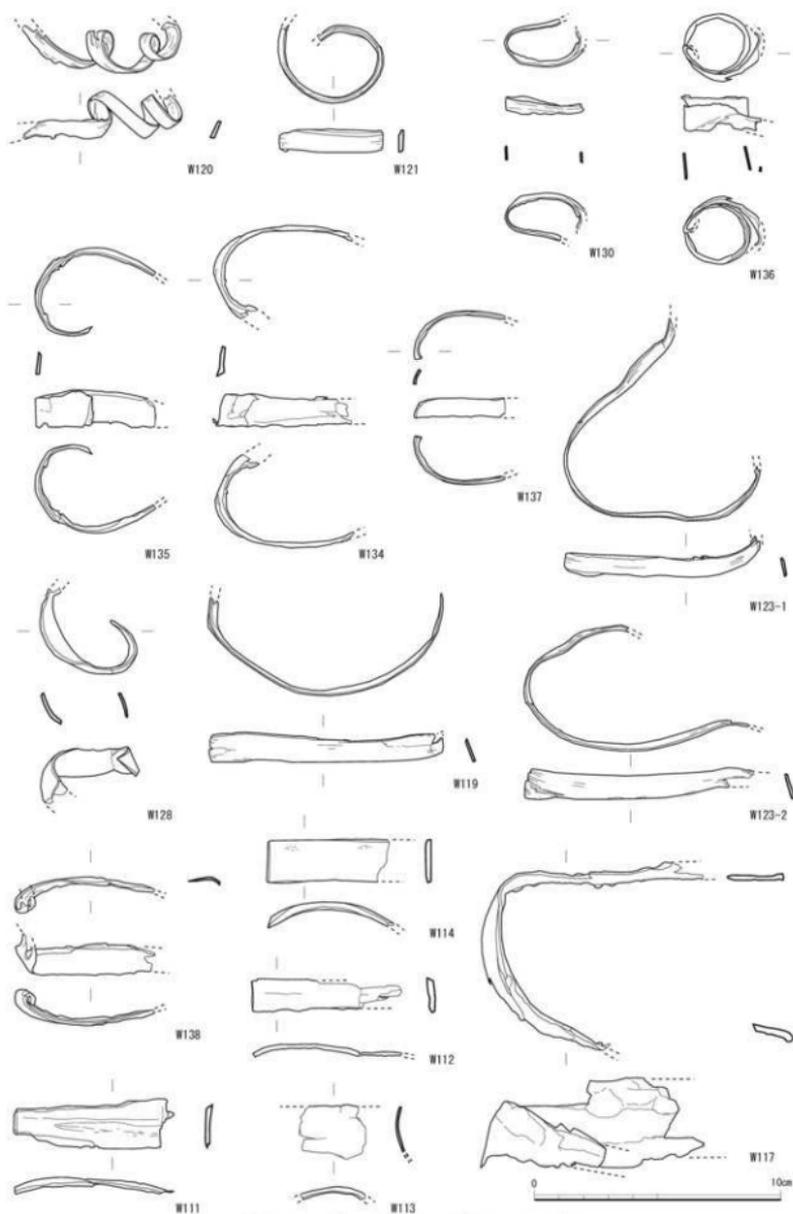


圖58 出土遺物(木製品16)実測圖 (S=1/2)

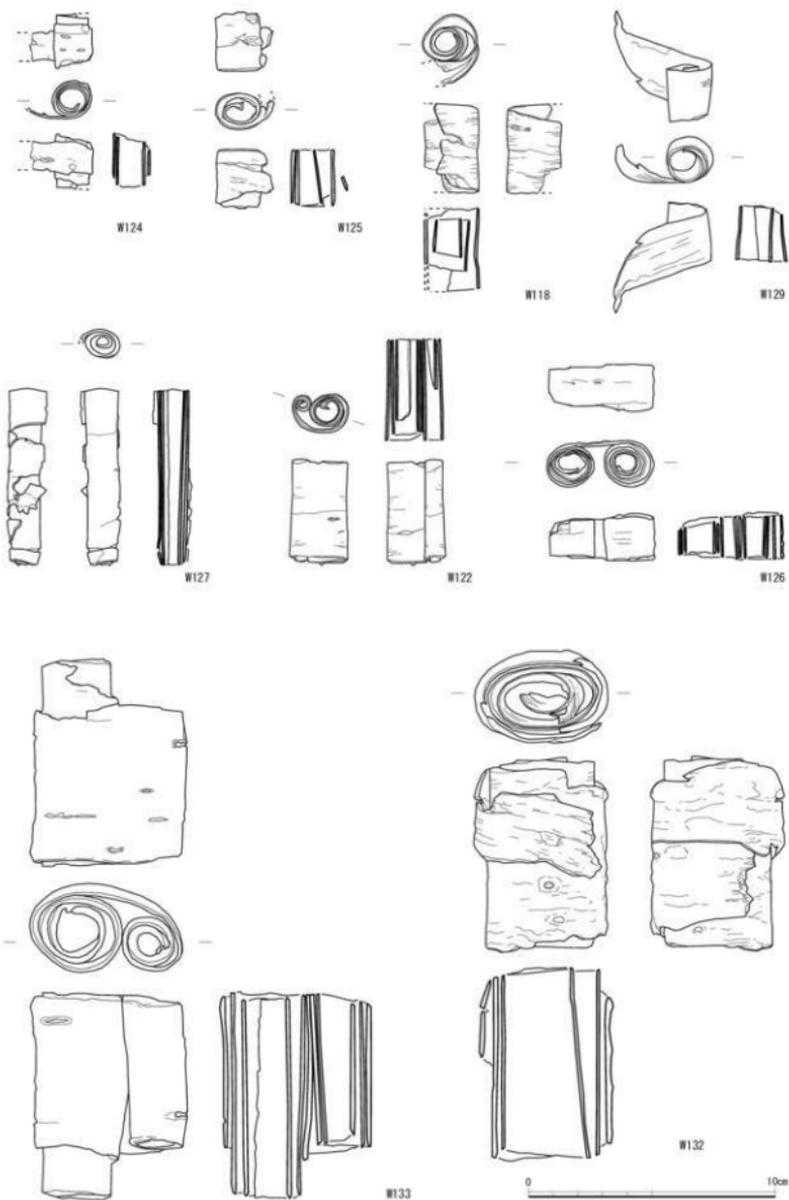


圖59 出土遺物（木製品17）実測圖（S=1/2）

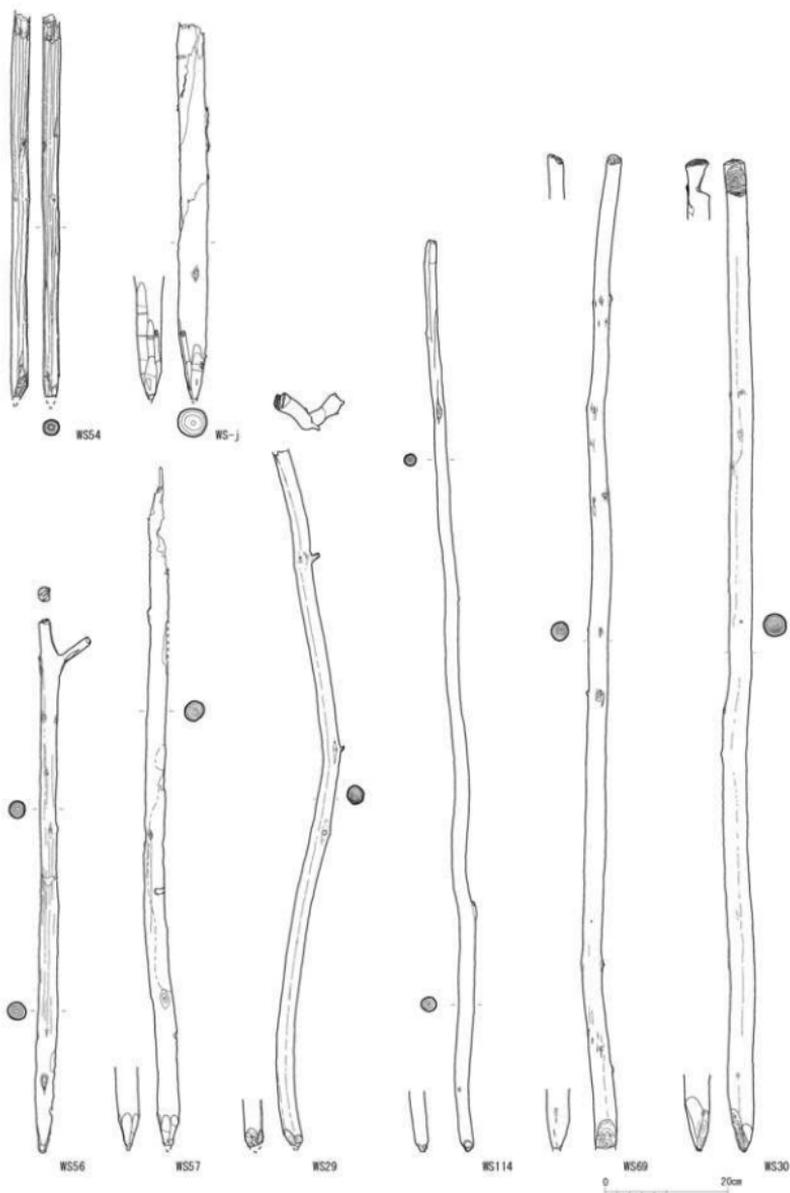


圖60 出土遺物(木製品18)実測圖 (S=1/8)

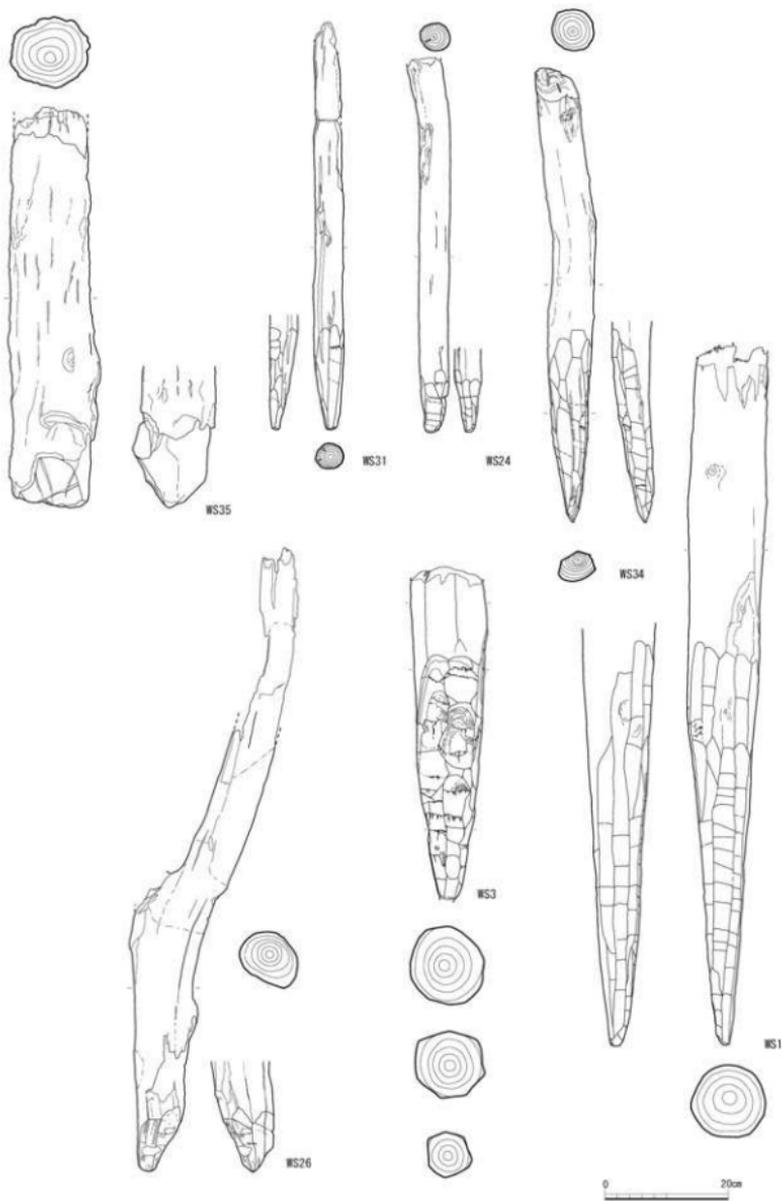


圖61 出土遺物 (木製品19) 実測圖 (S=1/8)

第5章 まとめ

今回の調査では、最終埋積が古墳時代中期となる自然流路の範囲にあたり、弥生時代後期末～古墳時代前期の土器を多量に含むことから、隣接地で当該期の大規模な集落があったものと想定される。

本調査で確認された自然流路は、現在の名草川の流向と同じであることから、名草川の前身の流路と考えられる。自然流路という遺構の性質上、弥生時代前・中期や古墳時代中期以降と考えられる土器も混入していた。出土土器の中には、他地域からの搬入土器と考えられるものも含まれており、本遺跡周辺で暮らしていた人びとが、他地域の人びとと交流していたことがうかがえる。また、土錘や真蛸壺、製塩土器等の漁撈・製塩関連遺物が出土し、海浜部近くに位置する集落としての生業の実態が推定できる。一方、木製品に農具が含まれることから、農業にも従事していたと考えられる。樹皮製品については、製品だけでなく未製品も出土していることから、隣接する集落で樹皮製品を製作していたことが想定できる。

祭祀遺物と考えられる鳥形土器や滑石製有孔円板等も出土しており、水辺の祭祀を行っていた可能性が考えられる。周辺に所在する竈山神社や、琴柱形石製品が出土した坂田遺跡との関連について、今後検討する必要がある。

初期須恵器も一定量出土しており、古墳時代中期においても周辺で集落が営まれていたと推測できる。

中世の土器も出土しているが、本調査では耕作関連の遺構のみ検出した。第1次調査では鎌倉時代の屋敷地関連の遺構が確認されている（県文化財センター2020）ことから、流路範囲の外側では集落が営まれており、旧流路上は耕作地として利用していたと考えられる。

【参考文献】

- 市毛 勲 1998『新版 朱の考古学』(雄山閣出版)
- 伊東隆夫・山田昌久編 2012『木の考古学—出土木製品用材データベース—』(海青社)
- 浦 蓉子 2014『楕皮製品』『八日市地方遺跡Ⅱ—小松駅東土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書— 第3部製玉編・第4部木器編』(小松市教育委員会)
- 大木 要 2011『和歌山平野における弥生集落の様相—和歌山市東吉礼遺跡採集遺物の検討から—』『和歌山市立博物館研究紀要』第26号
- 大野左千夫 1980『有孔土鍾について』『古代学研究』93(古代学研究会)
- 大山真充 1992『備前瀬戸のマダコ壺』『同志社大学考古学シリーズV 考古学と生活文化』(同志社大学考古学シリーズ刊行会)
- 岡山真知子 2003『水銀朱精製用具の検討—弥生時代中期末～後期初頭—』『古代文化』第55巻第6号(財)古代学協会)
- 金原正明 1999『稲作文化とともに伝播した諸要素の一考察』『古代学研究』146(古代学研究会)
- 日下雅義 1979『紀伊淡と吹上浜』『和歌山の研究』第1巻地質・考古篇(清文堂出版)
- 古代史博物館・泉南市埋蔵文化財センター1999『古代史博物館第2回企画展示 タコ壺—壺からひろがるさまざまなイメージ—展示参考資料』
- 近藤義郎 1994『日本土器製塩研究』(青木書店)
- 籾宮 正 2012『マダコ壺造の開始と展開』『発原Ⅱ—森岡秀人さん遺習記念論文集—』(発原刊行会)
- 田中敬忠 1979『和田川流域の弥生式遺跡』『紀州今昔 和歌山県の歴史と民俗』(帯伊書店)
- 仲原知之 2023『特集 和田岩坪遺跡第2次発掘調査』『和歌山県文化財センター季刊情報誌 風車』第103号
- 仲原知之 2024『和田岩坪遺跡隣接地で見つかった貝殻』『和歌山県文化財センター季刊情報誌 風車』第106号
- 奈良国立文化財研究所 1993『木器集成図録 近畿原始篇』
- 西本和哉 2018『弥生時代における赤色顔料の生産と流通』『徳島発展の歴史的基盤—「地力」と地域社会—』(雄山閣)
- 西本和哉 2019『弥生時代における辰砂すり潰し行為の復元的研究』『古代文化』第71巻第1号(古代学協会)
- 西本和哉 2019『伊都国にみる水銀朱の入手と使用』『古墳と国家形成期の諸問題』白石太一郎先生追悼記念論文集(山川出版社)
- 西本和哉 2021『弥生時代の赤色塗料調査具』『古代文化』第73号第3号(古代学協会)
- 西本和哉 2022『弥生・古墳時代の墳墓に持ち込まれた朱の生産具』『考古学研究』第69巻第3号(考古学研究会)
- 額田雅裕 2003『和歌山平野における戦国時代ころの地形環境』『和歌山地方史研究』第46号(和歌山地方史研究会)
- 額田雅裕 2013『和歌山平野南部の地形と土地開発』『和歌山市立博物館研究紀要』第28号
- 額田雅裕 1998『蛸壺形土器について』『臨浜遺跡Ⅱ 都市計画道路貝塚中央線建設に伴う発掘調査報告書』(財)大阪府埋蔵文化財協会)
- 樋上 昇 2010『木製品から考える地域社会—弥生から古墳へ—』(雄山閣)
- 富加見泰彦 1993『紀伊における土器製塩の現状と課題』『古文化談義』第30巻(中)(九州古文化研究会)
- 富加見泰彦 2001『紀淡海峡の製塩土器』『久保と土君追悼考古論文集』(久保と土君追悼考古論文集刊行会)
- 富加見泰彦 2024『原史・古代における海人の研究—紀伊の海人と古代氏族紀氏を中心として—』(芙蓉書房出版)
- 本田光子 1990『石杵考』『古代』第90号(早稲田大学考古学会)
- 洪津輔 1998『釜山山 三韓時代 遺蹟Ⅱ 遺物1—東萊貝塚—』(부산광역시립박물관 月刊분간)
- 前田敬彦 2007『吉備慶三郎氏採集考古資料について(その1)』『和歌山市立博物館研究紀要』第21号
- 松野茂富『和歌山県立自然博物館松野茂富学芸員(昆虫担当)のコメント』『和歌山県文化財センター季刊情報誌 風車』第103号

- 真鍋篤行 1995「弥生・古墳時代の瀬戸内地方の漁業」『瀬戸内海歴史民俗資料館紀要』Ⅷ
- 宮地聡一郎 2000「考察 脚台式製塩土器について」『小島北磯遺跡—岬町多奈川地区多目的公園用地造成土砂採取事業に伴う発掘調査—』（財）大阪府文化財センター）
- 水ノ江和同・工藤雄一郎・百原 新・門叶冬樹 2024「日本列島におけるモモの伝来をめぐる諸問題」『日本考古学』第 59 号（（一財）日本考古学協会）
- 和歌山県教育委員会 1972「大日山 1 遺跡」「音浦遺跡」『近畿自動車道と歌山線埋蔵文化財調査報告（和歌山県文化財学術調査報告書 5）』
- （財）和歌山県文化財センター 1997『秋月遺跡発掘調査概報』
- （財）和歌山県文化財センター 2005『秋月遺跡』『葛籬谷遺跡』『緊急雇用対策特別基金事業に係る発掘調査資料整理概報—和歌山県内 6 遺跡の概要報告書—』
- （財）和歌山県文化財センター 2011『秋月遺跡（県第 9 次調査）—県立向陽中・高等学校体育館建替事業に伴う発掘調査報告書—』
- （財）和歌山県文化財センター 2011『坂田遺跡発掘調査報告書—県道三田三島線道路改良工事に伴う発掘調査—』
- （公財）和歌山県文化財センター 2013『井辺遺跡—都市計画道路湊神前線道路改良工事に伴う発掘調査報告書—』
- （公財）和歌山県文化財センター 2014『神前遺跡—和歌山橋本線道路改良工事に伴う発掘調査報告書—』
- （公財）和歌山県文化財センター 2014『井辺遺跡、神前遺跡—都市計画道路松島本渡線（神前南）道路改良工事に伴う発掘調査報告書—』
- （公財）和歌山県文化財センター 2015『和田遺跡—秋月海南線道路改良工事に伴う発掘調査報告書—』
- （公財）和歌山県文化財センター 2017『寺内古墳群、相方遺跡—和歌山橋本線道路改良工事及び近畿自動車道松原那智勝浦線（仮称）和歌山南スマートインターチェンジ建設事業、海草振興局建設部庁舎移転外事業に伴う発掘調査報告書—』
- （公財）和歌山県文化財センター 2020『和田岩坪遺跡—和歌山平野農地防災事業 名草排水機場建設工事に伴う発掘調査報告書—』
- （公財）和歌山県文化財センター 2024『岩橋千塚古墳群寺内地区—和歌山平野農地防災事業新溝文線本路工事に伴う発掘調査報告書—』
- 和歌山市 2020『坂田遺跡第 2 次発掘調査報告書』
- 和歌山市教育委員会 1965『井辺弥生式遺跡 発掘調査報告（社会教育資料 24）』
- 和歌山市教育委員会 1981『和田岩坪遺跡緊急発掘調査概要』
- （公財）和歌山市文化スポーツ振興財団 2018『井辺遺跡第 23・27・30・34・36・42 次、津秦Ⅱ遺跡第 9・10・14 次発掘調査報告書—松島本渡線道路建設に伴う発掘調査—』
- （公財）和歌山市文化スポーツ振興財団 2020『井辺遺跡第 56 次発掘調査報告書』
- （公財）和歌山市文化スポーツ振興財団 2021『井辺遺跡第 62 次発掘調査報告書』
- （公財）和歌山市文化スポーツ振興財団 2021『井辺遺跡第 69 次発掘調査報告書』
- （公財）和歌山市文化スポーツ振興財団 2022『津秦遺跡第 15 次発掘調査報告書』
- （公財）和歌山市文化スポーツ振興財団 2023『秋月遺跡第 25・26 次発掘調査報告書』
- （公財）和歌山市文化スポーツ振興財団 2024『神前遺跡第 29 次発掘調査報告書』
- 和歌山市立博物館 1994『和歌山市立博物館総合案内』
- 和田晴吾 1982「弥生・古墳時代の漁具」『考古学論考』（小林行雄博士古稀記念論文集刊行委員会編、平凡社）

出土遺物觀察表 (石製品-製品)

品目 番号	品名	材質	遺物種類	石種	測定法	中位径	小位径	遺物・部位	質量 (g)				備考
									長	幅	厚	重量	
42-66-51-51	有孔片断	緑石(燧石)	片断	燧石	1.2	9.2-CR	122	100自然光透射(燧石)	3.1	3.1	0.3	6.56	天然、2.全面研磨、長さ15mm
42-66-52-52	石器丁	燧石	燧石片(燧石)	燧石	1.2	9.2-CR	496	100自然光透射(燧石)	18.5	4.2	0.65	31.8	15.5片断(燧石)・燧石片、長さ約10cm、燧石片(燧石)
42-66-53-53	大型石器丁	燧石	燧石片(燧石)	燧石	1.2	9.2-CR	719	100自然光透射(燧石)	17.5	8.5	1.1	27.0	2.片断、長さ約10cm、燧石片
42-66-54-54	石器丁製作用小品	燧石	燧石片(燧石)	燧石	1.2	9.2-CR	127	100自然光透射(燧石)	5.6	14.0	0.8	22.0	1.燧石燧石片、長さ約10cm、燧石片(燧石)
42-66-55-55	石器丁製作用	燧石	燧石片(燧石)	燧石	1.2	9.2-CR	822-23	第4層(燧石燧石)	3.3	3.1	0.7	5.73	1.燧石燧石片、長さ約10cm、燧石片(燧石)
42-66-56-56	石器丁製作用	燧石	燧石片(燧石)	燧石	1.2	9.2-CR	127	100自然光透射(燧石)	5.1	5.1	1.1	28.61	1.燧石燧石片、長さ約10cm、燧石片(燧石)
42-66-57-57	石器丁製作用	燧石	燧石片(燧石)	燧石	2.2	9.2-CR	414	100自然光透射(燧石)	4.2	3.0	1.6	22.90	1.燧石燧石片、長さ約10cm、燧石片(燧石)
42-66-58-58	石器	燧石	燧石片(燧石)	燧石	1.2	9.2-CR	415	100自然光透射(燧石)	8.1	5.7	4.9	294.1	天然、燧石燧石片(燧石)・燧石燧石片(燧石)
42-66-59-59	石器丁製作用小品	燧石	燧石片(燧石)	燧石	1.2	9.2-CR	822	100自然光透射(燧石)	17.8	5.3	1.1	64.0	1.燧石燧石片(燧石)・燧石燧石片(燧石)
42-66-50-50	片断(燧石)	燧石	燧石片(燧石)	燧石	1.2	9.2-CR	417	100自然光透射(燧石)	10.7	11.4	2.1	349.5	燧石燧石片(燧石)・燧石燧石片(燧石)・燧石燧石片(燧石)
42-66-57-57	燧石	燧石	燧石片(燧石)	燧石	1.2	9.2-CR	417	100自然光透射(燧石)	10.3	3.8	3.6	148.0	燧石燧石片、燧石燧石片、燧石燧石片
42-66-57-57	燧石	燧石	燧石片(燧石)	燧石	2.2	9.2-CR	414	100自然光透射(燧石)	17.0	4.0	3.2	93.50	燧石燧石片、燧石燧石片、燧石燧石片
42-66-59-59	燧石	燧石	燧石片(燧石)	燧石	1.2	9.2-CR	127	100自然光透射(燧石)	7.4	17.0	1.8	134.3	燧石燧石片、燧石燧石片、燧石燧石片(燧石)
42-66-54-54	燧石	燧石	燧石片(燧石)	燧石	1.2	9.2-CR	415	100自然光透射(燧石)	16.2	5.3	5.4	306.0	燧石燧石片、燧石燧石片(燧石)・燧石燧石片(燧石)
42-66-55-55	燧石	燧石	燧石片(燧石)	燧石	1.2	9.2-CR	717	100自然光透射(燧石)	7.2	16.4	1.2	179.0	燧石燧石片(燧石)・燧石燧石片(燧石)
42-66-56-56	燧石	燧石	燧石片(燧石)	燧石	2.2	9.2-CR	414	100自然光透射(燧石)	134.0	19.8	6.3	753.0	燧石燧石片、燧石燧石片
42-66-57-57	燧石	燧石	燧石片(燧石)	燧石	1.2	9.2-CR	510	100自然光透射(燧石)	15.3	18.6	1.0	122.9	燧石燧石片、燧石燧石片
-	58	石器丁製作用	燧石	燧石片(燧石)	1.2	9.2-CR	122-23	100自然光透射(燧石)	18	29	0.4	3.4	1.燧石燧石片、長さ約10cm、燧石燧石片(燧石)
-	59	石器丁製作用	燧石	燧石片(燧石)	1.2	9.2-CR	409	燧石燧石片(燧石)	25	18	0.4	2.1	1.燧石燧石片、長さ約10cm、燧石燧石片(燧石)
-	50	石器丁製作用	燧石	燧石片(燧石)	1.2	9.2-CR	719	100自然光透射(燧石)	0.8	0.8	0.1	0.1	1.燧石燧石片、長さ約10cm、燧石燧石片(燧石)
-	51	石器丁製作用	燧石	燧石片(燧石)	1.2	9.2-CR	822	100自然光透射(燧石)	0.5	0.5	0.1	0.01	1.燧石燧石片、長さ約10cm、燧石燧石片(燧石)
-	52	石器丁製作用	燧石	燧石片(燧石)	1.2	9.2-CR	622	100自然光透射(燧石)	0.8	0.5	0.1	0.06	1.燧石燧石片、長さ約10cm、燧石燧石片(燧石)
-	42	燧石	燧石片(燧石)	燧石	1.2	9.2-CR	417	100自然光透射(燧石)	6.3	3.4	1.0	17.27	1.燧石燧石片、長さ約10cm、燧石燧石片(燧石)
-	54	燧石	燧石片(燧石)	燧石	1.2	9.2-CR	416	100自然光透射(燧石)	8.6	5.4	1.1	31.90	1.燧石燧石片、長さ約10cm、燧石燧石片(燧石)
42-66-52-52	燧石(燧石)	燧石	燧石片(燧石)	燧石	1.2	9.2-CR	127	100自然光透射(燧石)	11.3	8.8	2.5	179.0	天然、燧石燧石片(燧石)・燧石燧石片(燧石)・燧石燧石片(燧石)
-	56	燧石(燧石)	燧石片(燧石)	燧石	1.2	9.2-CR	122	100自然光透射(燧石)	10.4	6.4	5.2	45.0	天然、燧石燧石片(燧石)・燧石燧石片(燧石)・燧石燧石片(燧石)
42-66-52-52	燧石	燧石	燧石片(燧石)	燧石	1.2	9.2-CR	127	100自然光透射(燧石)	8.2	8.8	1.8	299.0	天然、燧石燧石片(燧石)・燧石燧石片(燧石)・燧石燧石片(燧石)
-	58	燧石	燧石片(燧石)	燧石	1.2	9.2-CR	417	100自然光透射(燧石)	10.8	6.6	4.8	174.0	天然、燧石燧石片(燧石)・燧石燧石片(燧石)
-	59	燧石	燧石片(燧石)	燧石	1.2	9.2-CR	418	100自然光透射(燧石)	9.4	6.7	5.7	333.0	天然、燧石燧石片(燧石)・燧石燧石片(燧石)
42-66-50-50	燧石	燧石	燧石片(燧石)	燧石	1.2	9.2-CR	418	100自然光透射(燧石)	17.5	4.7	2.1	296.0	天然、燧石燧石片(燧石)・燧石燧石片(燧石)・燧石燧石片(燧石)
-	51	燧石	燧石片(燧石)	燧石	1.2	9.2-CR	419	100自然光透射(燧石)	5.4	6.5	4.2	96.0	1.燧石燧石片、長さ約10cm、燧石燧石片(燧石)
-	52	燧石	燧石片(燧石)	燧石	1.2	9.2-CR	510	100自然光透射(燧石)	0.1	3.5	3.1	172.0	天然、燧石燧石片(燧石)・燧石燧石片(燧石)
-	53	片断	燧石片(燧石)	燧石	1.2	9.2-CR	418	100自然光透射(燧石)	4.0	3.7	0.8	28.2	天然、燧石燧石片(燧石)・燧石燧石片(燧石)
-	54	燧石(燧石)	燧石片(燧石)	燧石	1.2	9.2-CR	122	100自然光透射(燧石)	4.4	3.6	1.1	38.1	1.燧石燧石片、長さ約10cm、燧石燧石片(燧石)
-	55	燧石(燧石)	燧石片(燧石)	燧石	2.2	9.2-CR	414	100自然光透射(燧石)	21.6	25.7	6.0	490.0	天然、燧石燧石片(燧石)・燧石燧石片(燧石)
-	58	燧石(燧石)	燧石片(燧石)	燧石	1.2	9.2-CR	418	100自然光透射(燧石)	24.7	18.0	2.4	1794.0	天然、燧石燧石片(燧石)
-	57	燧石(燧石)	燧石片(燧石)	燧石	2.2	9.2-CR	415	100自然光透射(燧石)	19	35	6.6	1236.0	1.燧石燧石片、長さ約10cm、燧石燧石片(燧石)
-	58	燧石(燧石)	燧石片(燧石)	燧石	1.2	9.2-CR	719	100自然光透射(燧石)	8.0	5.8	3.7	309.0	1.燧石燧石片、長さ約10cm、燧石燧石片(燧石)
-	59	燧石(燧石)	燧石片(燧石)	燧石	1.2	9.2-CR	417	100自然光透射(燧石)	11.2	8.9	2.8	399.9	1.燧石燧石片、長さ約10cm、燧石燧石片(燧石)
-	50	燧石(燧石)	燧石片(燧石)	燧石	1.2	9.2-CR	417	100自然光透射(燧石)	8.7	7.2	7.7	75.75	天然、燧石燧石片、長さ約10cm、燧石燧石片(燧石)
-	51	燧石(燧石)	燧石片(燧石)	燧石	1.2	9.2-CR	418	100自然光透射(燧石)	10.1	10.6	5.9	111.0	天然、燧石燧石片(燧石)・燧石燧石片(燧石)

	-	542	浮石(白)	砂狀(灰白色)	1.2	F2-CR	A22	100自然流落第6層	23	5.8	4.7	45.4	灰色, 平滑面, 不平整
	-	543	浮石(白)	砂狀(灰白色)	1.2	F2-CR	B21	100自然流落第6層	29.3	4.7	2.9	930.5	灰色, 塊狀(灰白)
	-	544	浮石(白)原形石 非表層	砂狀(灰白色)	1.2	F2-CR	F19	100自然流落第7層	8.5	5.7	15	115.5	灰色, 扁平至立方形, 凸形(的)面, 圓滑(中)等大小
	-	545	浮石(白)凸丁表層	砂狀(灰白色)	1.2	F2-CR	#17	100自然流落第5層	8.6	5.6	16	266.0	灰色, 立方形面, 圓滑(中)等大小
	-	546	石丁(非)凸丁表層	砂狀(灰白色)	1.2	F2-CR	#18	100自然流落第5層	7.3	5.0	15	207.0	灰色, 立方形面, 圓滑(中)等大小
	-	547	浮石(白)凸丁表層	砂狀(灰白色)	2.2	F2-CR	#14	100自然流落第7層(取上部分)	7.8	5.0	1.7	207.0	灰色, 圓滑(的)面, 中表層(的)凸
	-	548	浮石(白)	砂狀(灰白色)	1.2	F2-CR	#15	100自然流落第5層(丁)圓 (孔)狀	7.9	6.6	3.0	301.0	灰色, 下緣的(的)面(的)下緣(的)面(的)
	-	549	浮石(白)	砂狀(灰白色)	2.2	F2-CR	#15	100自然流落第5層(丁)圓 (孔)狀(上層(的)面(的)面)	13.9	4.4	2.8	288.5	深灰色, 塊狀
	-	550	浮石(白)凸丁表層 非表層	砂狀(灰白色)	1.2	F2-CR	#17	100自然流落第6層	20.7	4.2	23	342.5	深灰色, 塊狀(的)面
	-	551	浮石(白)	砂狀(灰白色)	2.2	F2-CR	#14(本)	100自然流落第5層	14.9	4.4	3.4	331.0	灰色, 塊狀
	-	552	浮石(白)	砂狀(灰白色)	1.2	F2-CR	#16	100自然流落第5層	10.5	5.2	3.2	241.5	深灰色, 卵形, 下緣的(的)面(的)
	-	553	浮石(白)	砂狀(灰白色)	1.2	F2-CR	#16	100自然流落第5層	12.8	4.6	1.4	125.5	灰色, 中(等)的(面)平
	-	554	浮石(白)	砂狀(灰白色)	1.2	F2-CR	#16	100自然流落第6層	8.6	2.6	3.2	545	灰色, 中(等)的(面)平
	-	555	浮石(白)凸	砂狀(灰白色)	1.2	F2-CR	#16	100自然流落第6層	5.6	2.3	1.8	305	UV, 圓, 具塊狀(的)面
	-	556	浮石(白)	砂狀(灰白色)	1.2	F2-CR	#16	100自然流落第6層	10.8	4.2	2.1	95.0	灰色, 中(等)的(面)平
	-	557	凸石(白)	砂狀(灰白色)	1.2	F2-CR	#16	100自然流落第6層	17	3.5	1.7	200.0	灰色, 圓(的)面(的)平
	-	558	凸石(白)	砂狀(灰白色)	1.2	F2-CR	#16	100自然流落第6層	11.4	5.0	3.4	255.5	灰色, 波(的)面
	-	559	浮石(白)	砂狀(灰白色)	1.2	F2-CR	100	100自然流落第6層	15.2	4.6	1.4	173.5	灰色, 圓(的)面(的)平
	-	560	凸石(白)	砂狀(灰白色)	1.2	F2-CR	100	100自然流落第6層	9.1	4.0	3.7	206.5	灰色, 圓(的)面(的)平
	-	561	凸石(白)	砂狀(灰白色)	1.2	F2-CR	g22	100自然流落第6層	5.1	5.8	1.8	305.5	灰色, 石丁(非)凸丁(的)面(的)面(的)面, 表(的)面
	-	562	浮石(白)	砂狀(灰白色)	1.2	F2-CR	-	100自然流落第6層	8.7	2.7	2.9	145.5	灰色, 中(等)的(面)平
	-	563	浮石(白)	細(的)面(的)面	2.2	F2-CR	#14	100自然流落第7層(取上部分)	5.6	6.5	4.6	240.5	中(等)的(面)平, 非(的)面(的)面(的)面(的)面
	-	564	浮石(白)凸	砂狀(灰白色)	1.2	F2-CR	#15	100自然流落第7層	4.8	2.7	1.8	21.0	灰色, 具塊狀(的)面
	-	565	浮石(白)	砂狀(灰白色)	1.2	F2-CR	#16	100自然流落第7層	12.0	3.8	3.4	303.5	灰色, 塊狀
	-	566	浮石(白)	砂狀(灰白色)	1.2	F2-CR	#16	100自然流落第7層	11.7	4.2	2.7	97.0	灰色, 中(等)的(面)平
	-	567	浮石(白)	砂狀(灰白色)	1.2	F2-CR	#16	100自然流落第6層-表(的)面	8.7	5.1	4.0	313.0	灰色, 2層(的)面(的)面(的)面(的)面(的)面, 卵形
	-	568	浮石(白)	砂狀(灰白色)	1.2	F2-CR	#18	100自然流落第7層	9.9	3.4	1.7	95.5	一(的)面(的)面, 塊狀
	-	569	浮石(白)	砂狀(灰白色)	1.2	F2-CR	#19	100自然流落第7層	8.7	3.2	2.5	120.0	中(等)的(面)平, 塊狀
	-	570	浮石(白)	砂狀(灰白色)	1.2	F2-CR	A22	100自然流落第7層	6.4	5.5	4.3	276.5	灰色, 塊狀
	-	571	浮石(白)	砂狀(灰白色)	1.2	F2-CR	B22	100自然流落第7層	5.1	5.2	3.4	126.5	中(等)的(面)平, 塊狀(的)面
	-	572	浮石(白)	砂狀(灰白色)	1.2	F2-CR	B22	100自然流落第7層	8.7	5.4	1.5	126.5	灰色, 塊狀(的)面(的)平
	-	573	浮石(白)	砂狀(灰白色)	1.2	F2-CR	B22	100自然流落第7層	12.4	4.7	4.2	388.5	灰色, 具塊狀(的)面
	-	574	浮石(白)	砂狀(灰白色)	1.2	F2-CR	#18	100自然流落第6層	5.0	3.6	2.7	13.8	灰色, 塊狀(的)面
	-	575	浮石(白)	砂狀(灰白色)	1.2	F2-CR	#17	100自然流落第6層	5.7	3.6	3.4	114.0	灰色, 塊狀
	-	576	浮石(白)	砂狀(灰白色)	2.2	F2-CR	#15(本)	100自然流落第6層(下部分)	4.7	3.4	2.7	13.7	一(的)面(的)面
	-	577	浮石(白)	砂狀(灰白色)	2.2	F2-CR	#14	100自然流落第7層(取上部分)	3.2	2.4	2.1	3.0	一(的)面(的)面
	-	578	浮石(白)	砂狀(灰白色)	1.2	F2-CR	#16	100自然流落第7層	5.5	4.8	3.2	14.7	2層(的)面(的)面(的)面(的)面(的)面
	-	579	浮石(白)	砂狀(灰白色)	2.2	F2-CR	#14	100自然流落第7層	13.5	3.0	0.4		圓(的)面(的)面(的)面(的)面(的)面
	-	580	浮石(白)	砂狀(灰白色)	1.2	F2-CR	#14	100自然流落第7層	14.6	12.0	1.5		1(的)面(的)面(的)面(的)面(的)面



1区 調査区全景（真上上空から）上側が北西



1 2区 調査区全景（真上上空から）上側が西



2 3-2区 調査区全景（真上上空から）上側が西



1 1区 調査前現況 (南西から)



2 1区 調査前現況 (北東から)



3 2区 調査前現況 (東から)



4 2区 調査前現況・矢板設置後 (東から)



5 2区 調査前現況・矢板設置後 (南西から)



6 3-1区 調査前現況 (南東から)



7 3-2区 調査前現況 (北から)



8 3-2区 調査前現況・矢板設置後 (南から)



9 3-2区 調査前現況・矢板設置後 (北から)



10 3-2区 調査前現況・矢板設置後 (北西から)



1 調査地と周辺の状況・1区調査時（南から）



2 調査地と周辺の状況・2区調査時（西から）



3 調査地と周辺の状況・3-2区調査時（北から）



1 1区 南西側 南西壁土層断面 (北東から)



3 1区 南西側 南東壁土層断面 (北西から)



2 1区 東壁土層断面 (西から)



4 1区 南西側 北西壁土層断面 (南東から)

写真図版 6 土層断面



1 1区 西壁土層断面 (南東から)



3 2区 東壁土層断面 (西から)



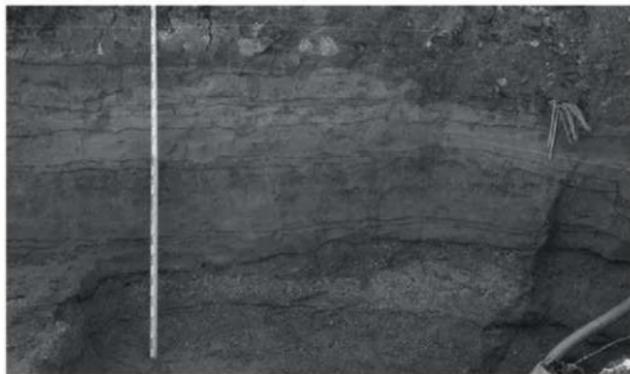
2 1区 北壁土層断面 (南から)



4 2区 西壁土層断面 (東から)



1 2区 北壁土層断面 (南から)



3 3-2区 東壁土層断面 (西から)



2 3-1区 南壁土層断面 (北から)



4 3-2区 北壁土層断面 (南西から)



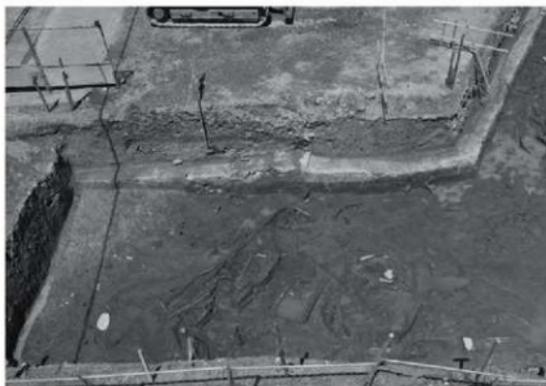
1 1区 南西側 第4層上面遺構 検出状況(南から)



2 1区 第4層上面遺構 完掘状況全景(北から)



3 2区 4層上面遺構 完掘状況(南西から)



1 1区 調査区南西側 全景 (南から)



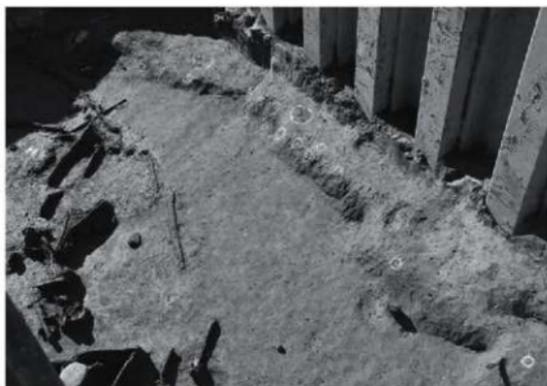
2 1区 調査区 全景 (南から)



3 1区 調査区 全景 (北から)



1 2区 調査区 全景 (南東から)



2 2区 調査区 全景 (北東から)



3 3-2区 調査区 全景 (南東から)



1 1区 第4層上面 30 釔溝 遺構断面 (南から)



2 1区 第4層上面 31 釔溝 遺構断面 (南から)



3 1区 第4層上面 完掘状況 調査区南東側 (北西から)



4 1区 第4層上面 完掘状況 調査区北半 (南から)



5 1区 100 自然流路 肩部 石敷・鋤出土状況 (西から)



6 1区 100 自然流路 肩部 石敷・鋤出土状況 (北から)



7 1区 100 自然流路 肩部 石敷検出状況 (西から)



8 1区 100 自然流路 肩部 石列 (南東から)



9 1区 100 自然流路 南西側肩部 石敷検出状況 (南から)



10 1区 100 自然流路内 調査区南西端部 杭検出状況 (西から)



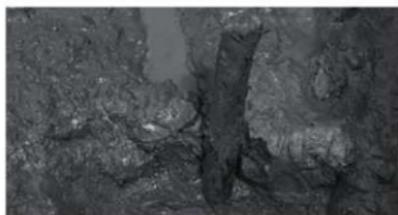
1 1区 100自然流路内 杭1 断割状況(南から)



2 1区 100自然流路内 杭5・4・3 断割状況(東から)



3 1区 100自然流路内 杭9・8・7 断割状況(南から)



4 1区 100自然流路内 杭21 断割状況(南から)



5 1区 100自然流路内 杭23・22 断割状況(東から)



6 1区 100自然流路内 鳥形土器出土状況(北から)



7 1区 100自然流路内 板状木製品(W20) 出土状況(東から)



8 1区 100自然流路内 又鯢(W3) 出土状況(西から)



9 2区 第4層上面 005土坑 遺構断面(南から)



10 2区 第4層上面 070罫溝 遺構断面(南西から)



1 2区 100自然流路 屑部 杭列検出状況(南東から)



2 2区 100自然流路 屑部 杭a 断割状況(南から)



3 2区 100自然流路 屑部 杭b 断割状況(南から)



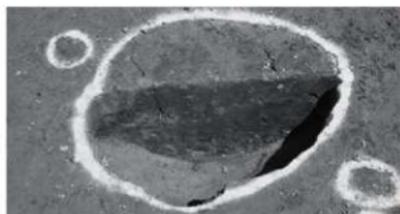
4 2区 100自然流路 板状木製品(W32) 出土状況(南から)



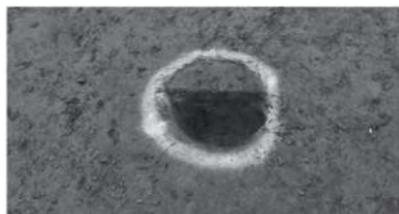
5 2区 100自然流路内 広罅(W31) 出土状況(南から)



6 3-1区 全景(西から)



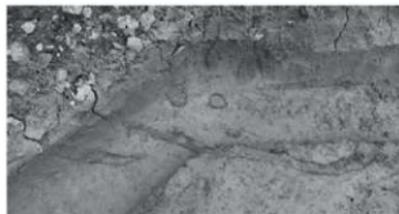
7 3-2区 101土坑 遺構断面(南から)



8 3-2区 155杭跡 遺構断面(南から)

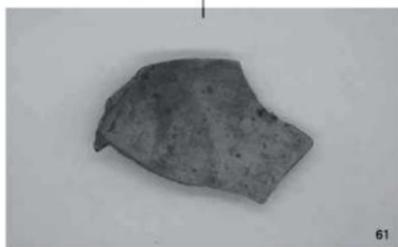
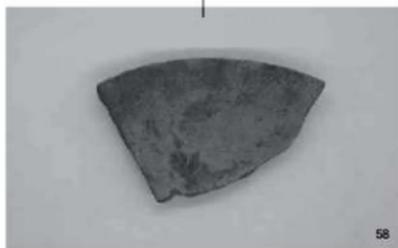
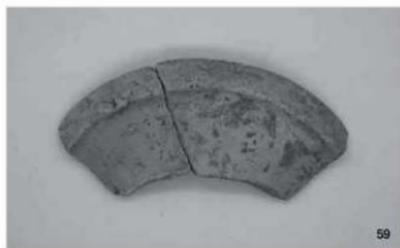
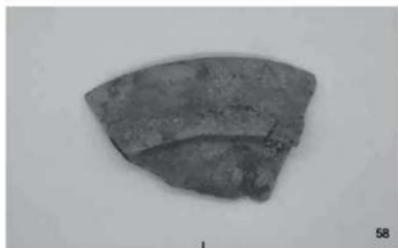


9 3-2区 填砂 土層断面(南西から)



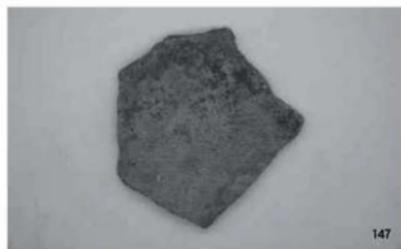
10 3-2区 填砂(上から)上側が東



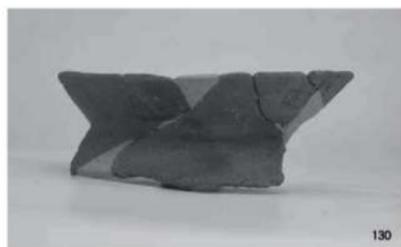


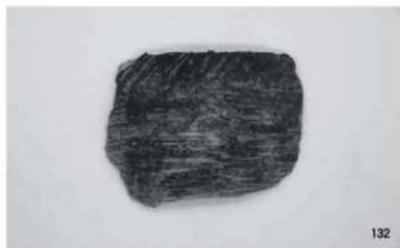


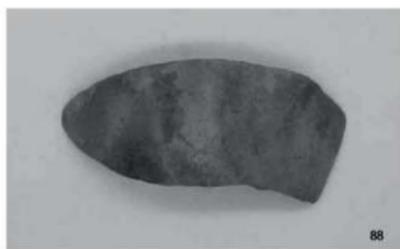
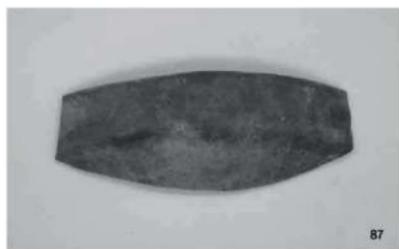




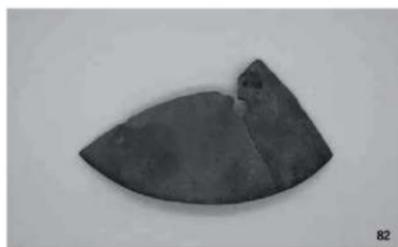




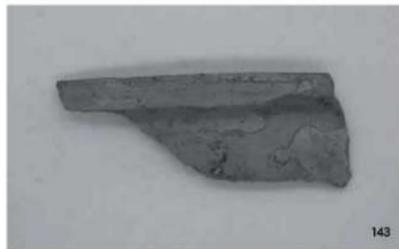


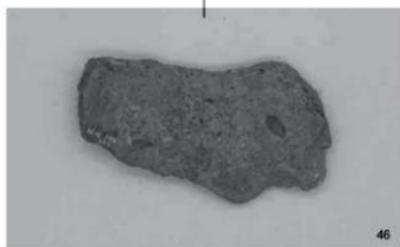
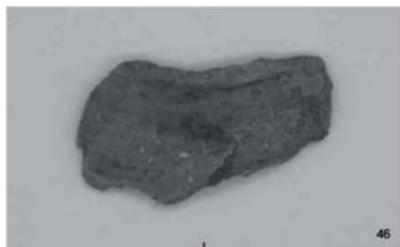




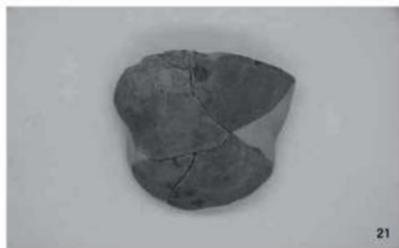


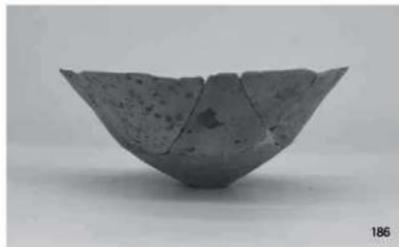


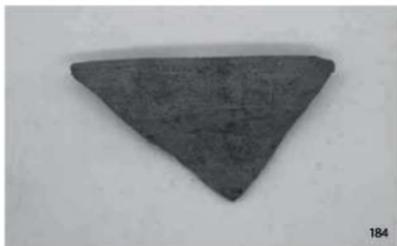












179

180

181

182

183

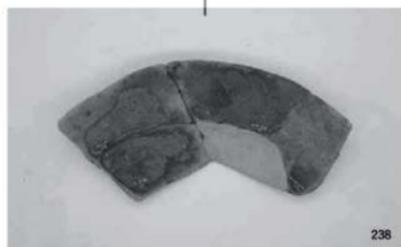
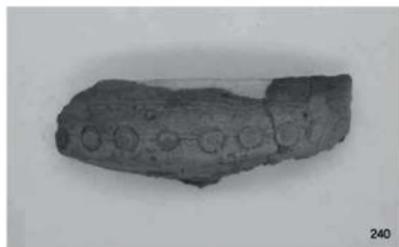
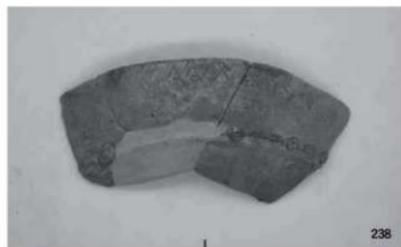
184

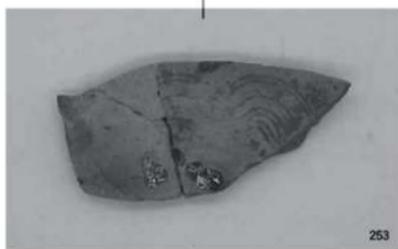
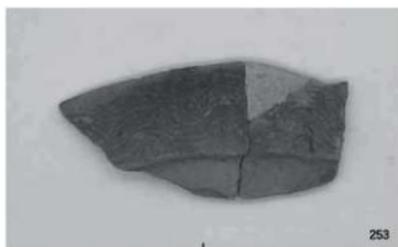
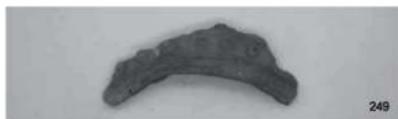
259

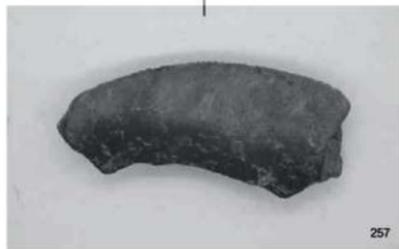
260

261

262









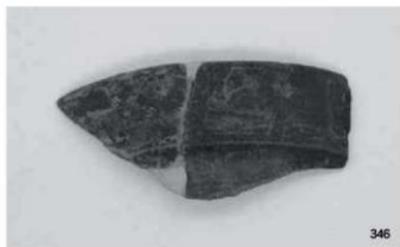


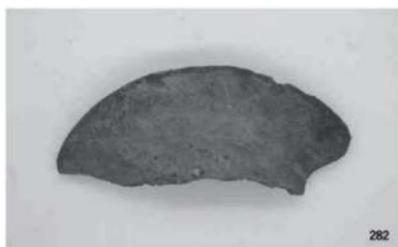




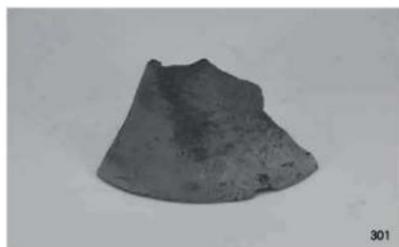


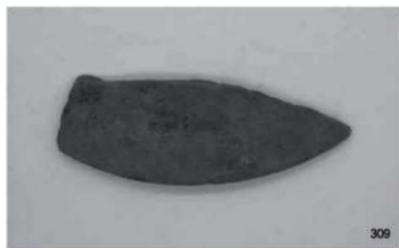


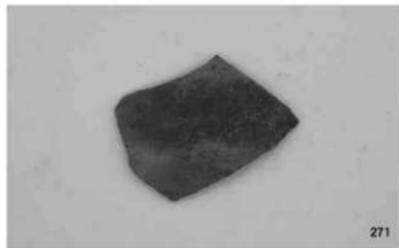


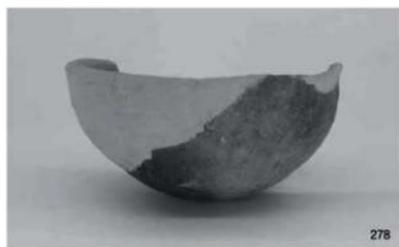






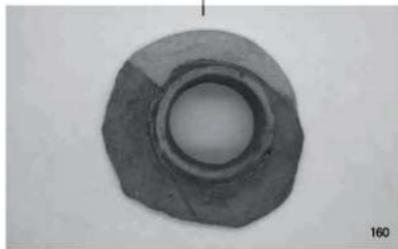




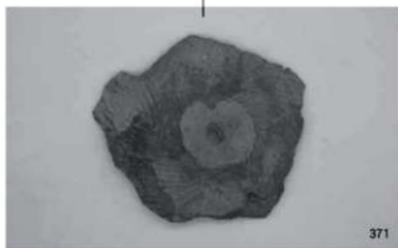




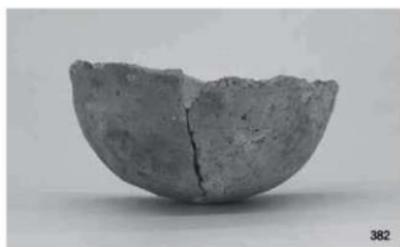


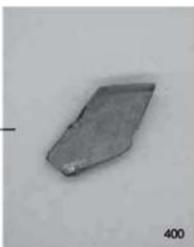
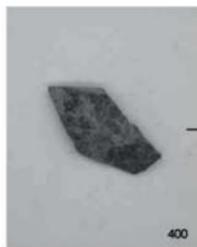


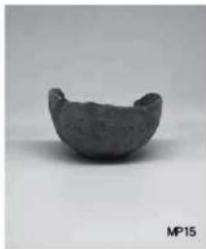








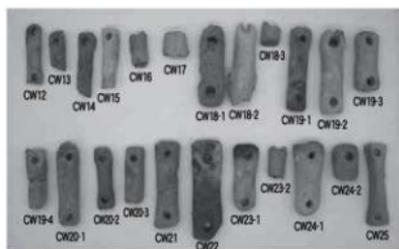
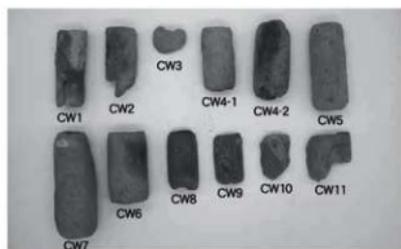
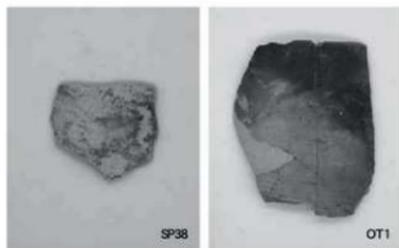
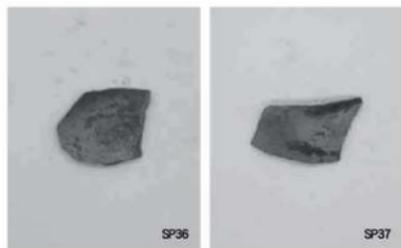
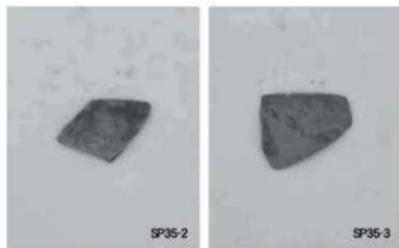
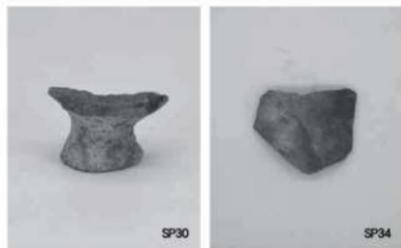


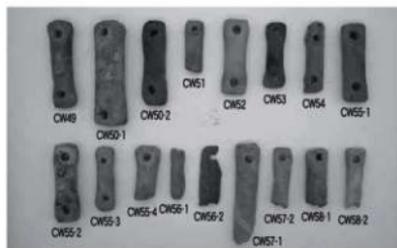
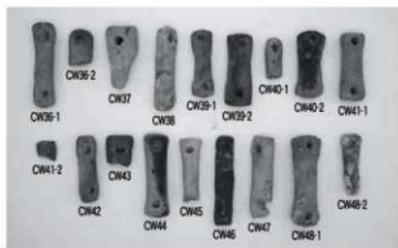
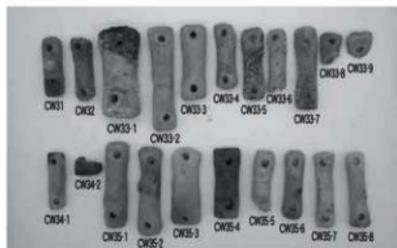
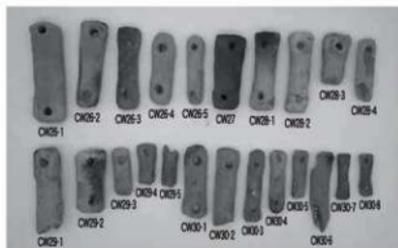




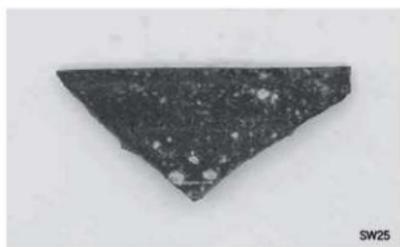
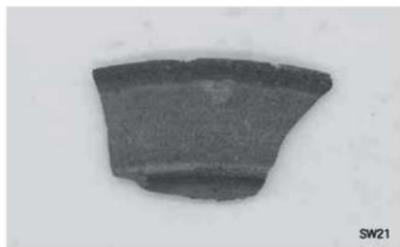
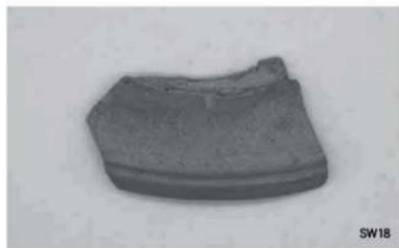


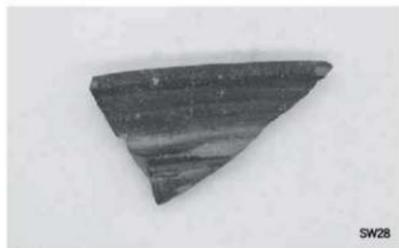


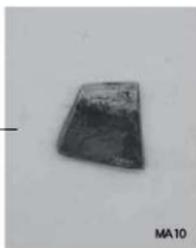
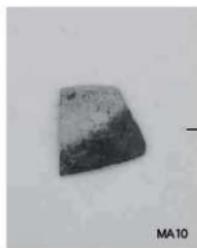


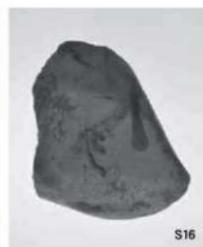


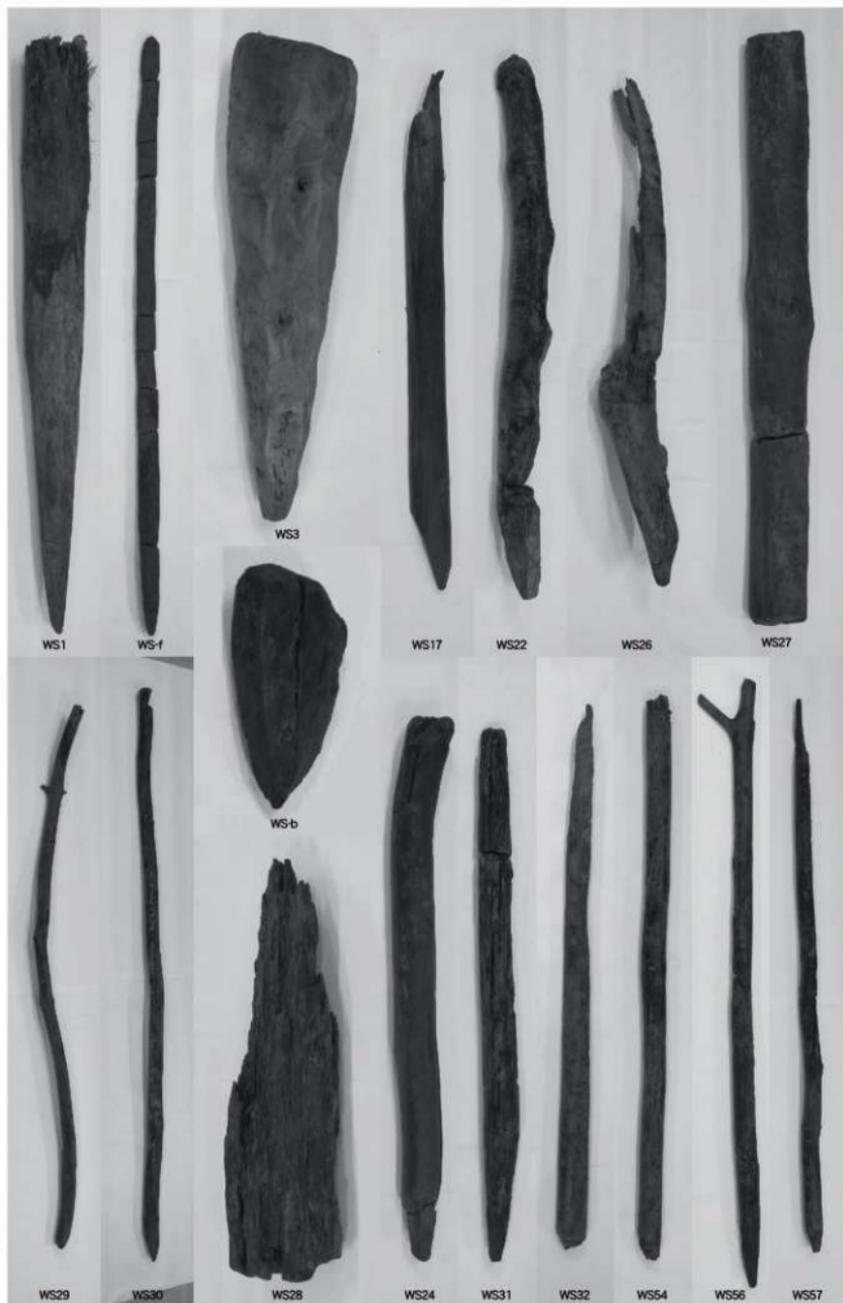


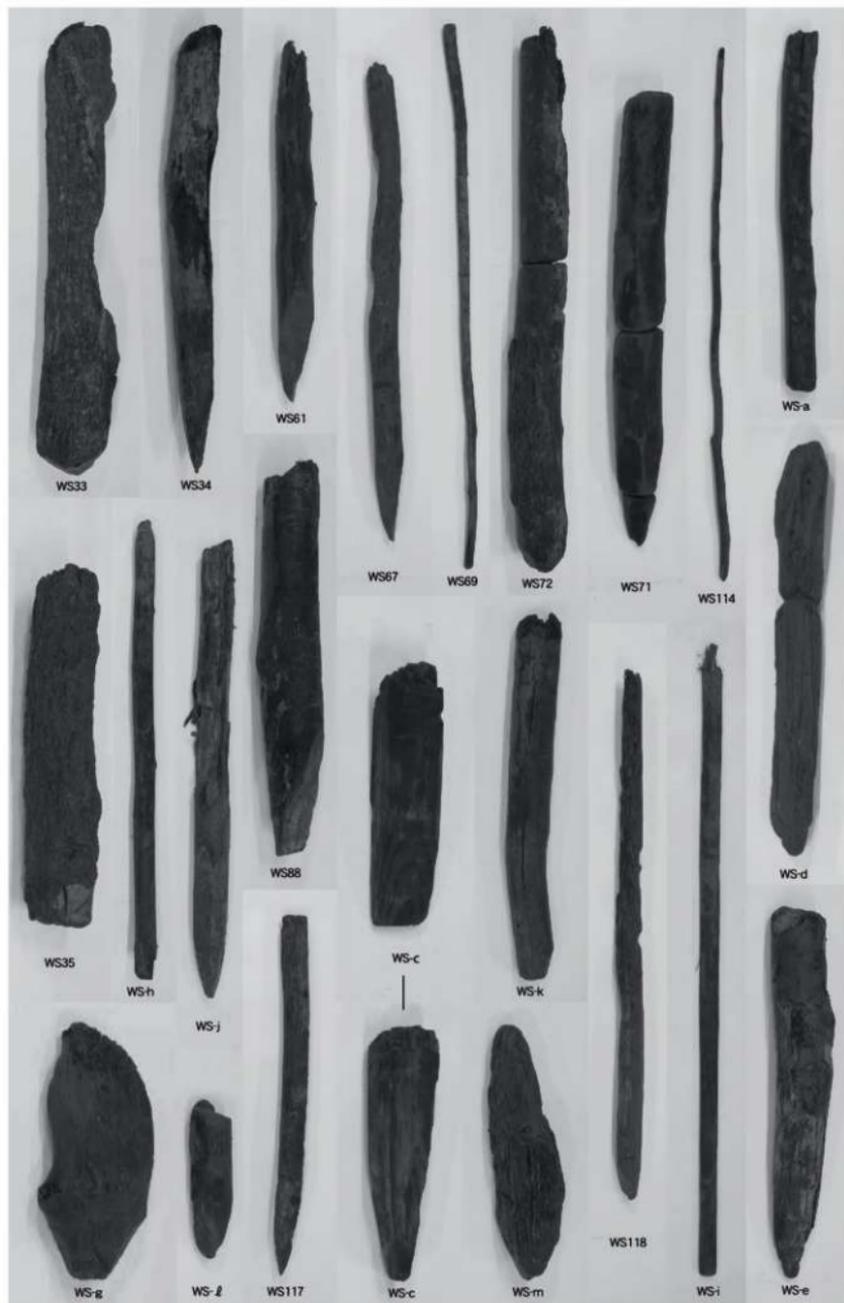




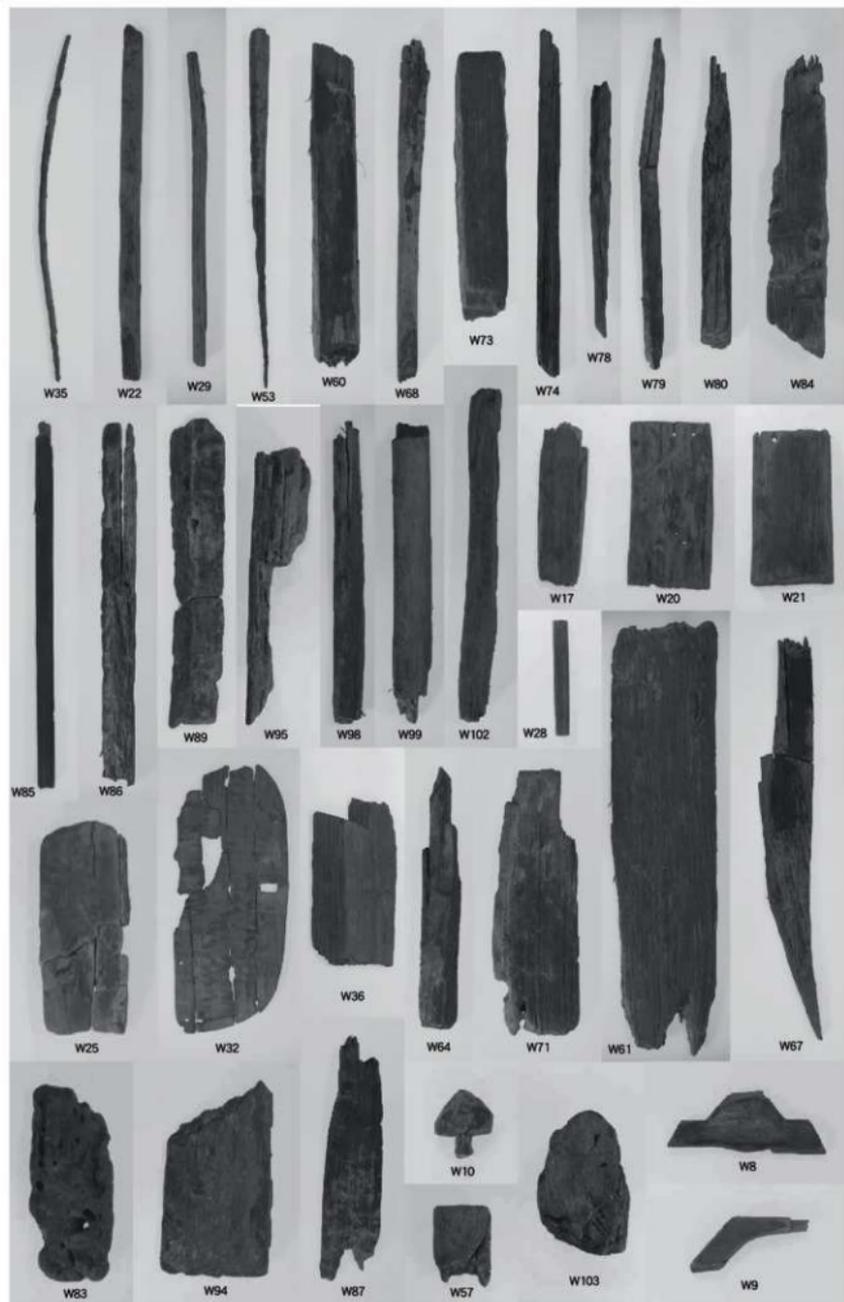


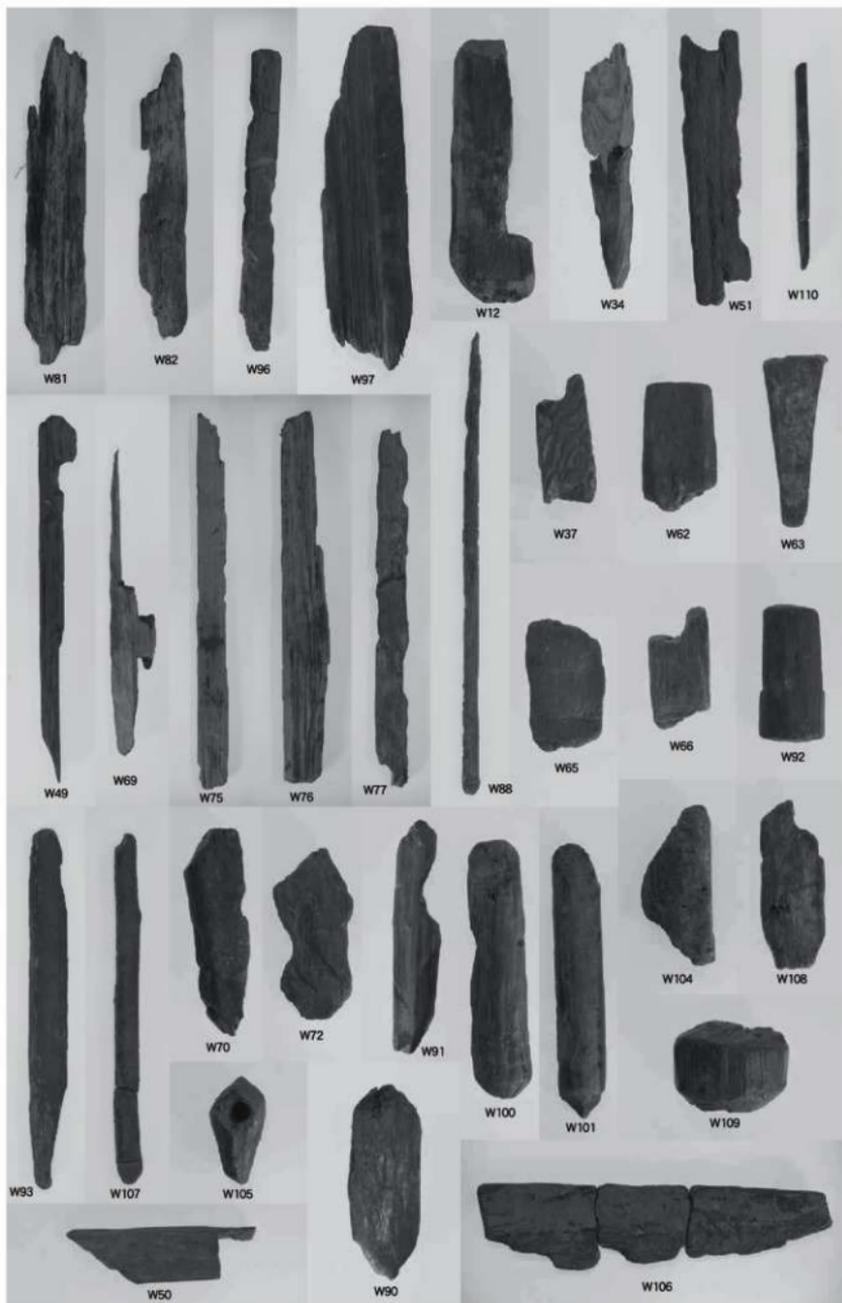




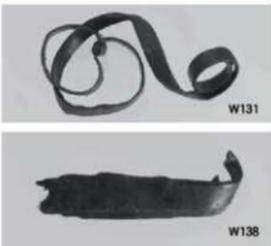
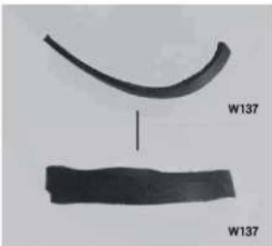
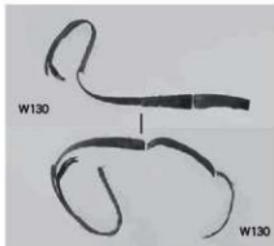
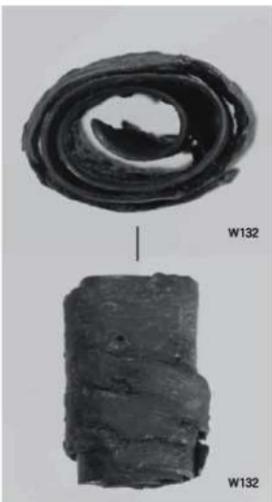
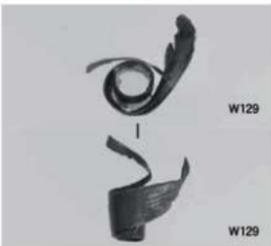
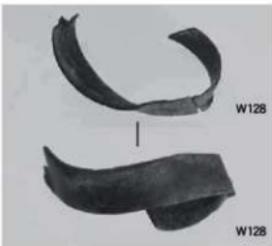












報告書抄録

ふりがな	わだいわつばいせき							
書名	和田岩坪遺跡							
副書名	和歌山平野農地防災事業 名草排水機場建設工事に伴う第2次発掘調査報告書							
巻次	――							
シリーズ名	――							
シリーズ番号	――							
編著者名	石丸彩、仲原知之							
編集機関	公益財団法人 和歌山県文化財センター							
所在地	〒640-8301 和歌山市岩橋1263番地の1 TEL. 073-472-3710							
発行年月日	西暦2025年1月15日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
わだいわつばいせき 和田岩坪遺跡	わかやまけん 和歌山県 わかやまし 和歌山市和田	3020150	302	34° 12′ 20″	135° 12′ 19.6″	20220721 ～ 20230908	485.4㎡	和歌山平野農地防災事業 名草排水機場建設 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
和田岩坪遺跡	散布地	弥生時代 ～ 古墳時代	自然流路、土坑、杭跡		弥生土器、土師器、ミニチュア土器、須恵器、製塩土器、真蛸壺、鳥形土器、土錘、石製品、滑石製模造品、木製品、樹皮製品、種実等		自然流路から多量の弥生土器や木製品が出土し、隣接地で当該期の大規模な集落があったものと想定される。また、自然流路の上位堆積層より古墳時代の須恵器・土師器が出土したことから、自然流路は古墳時代中期には埋没したと考えられる。	
		中世	畦畔、鋤溝、土坑、杭跡	瓦器等		耕作地として利用される。		
要約	<p>本調査地は、最終埋積が古墳時代中期となる自然流路の範囲にあたり、弥生時代後期末～古墳時代前期の土器を多量に含むことから、隣接地で当該期の大規模な集落があったことが想定される。土錘や真蛸壺、製塩土器等の漁撈・製塩関連遺物が出土し、海浜部近くに位置する集落としての生業の実態が推定できる。一方、出土した木製品に農具が含まれることから、農業にも従事していたと考えられる。また、樹皮製品などの製作をうかがわせる木製品も出土している。</p> <p>さらに、木辺の祭祀に関わる鳥形土器や滑石製有孔円板等の祭祀遺物も出土していることから、当該遺跡周辺に所在する竜山神社や祭祀遺物が出土した坂田遺跡との関連性がうかがえる。</p>							

和田岩坪遺跡

—和歌山平野農地防災事業 名草排水機場建設工事に伴う第2次発掘調査報告書—

2025年1月15日

編集・発行：公益財団法人和歌山県文化財センター

〒640-8301 和歌山県和歌山市岩橋 1263 番地の1

印刷・製本：初田印刷株式会社